



ジンソウしそ

ズイヒツメイセンシユウ

エイソウ

目次

シソウしそう イッカン
エイゾウ

はじめに

このホンは、わたしのズイヒツサクのイッサクめから、サンサクめのなかから、トクにいたいということをぬきだし、まとめたものである。したがって、イッサクめから、サンサクめをよまれたかたには、なんのめあたらしさもない。つまり、まだわたしのズイヒツをよんだことのないベツのかたむけである。ただこれをヘンシュウして、そんなことをかんがえていたのか、などとジブンでもサイハッケンがあった。このサイハッケンをもとにいくらブンショウをかくであろう。わたしとしては、そのように、やくにたつしごとであった。

このホンがドクシャのなんらかのやくにたてばさいわいである。

イチ、『アルクカラ カンガエル』ゴ

ジハンキは、このサンジュウネンでかなりふえたが、なつにつめたいのみもの、ふゆにあたたかいのみものしかうってなかつたりする。ふゆでも、アイスコーヒーをそういうことでない。ジョウオンのものがなかつたり ということだ。

ショウテンに たまにあるが コウバイのむずかしさをかんがえると、「あなたは あたたかいコーヒーをのむべきだ」とケツロンされるかも。そのくらい「ジョウオン」ののみものをコウバイするのはむずかしい。

しょうがなく、あたたかいのみものと つめたいのみものをまぜていいオンドにさせたりすることになる。ま、ゼイタクといえばゼイタクだが、ネンリョウのムダづかい というきがする。

なぜ、ジョウオンではいけないのかと。ま、あつたかくて、うれしいときもあるのだが。たぶん、「センシンコク」として、ゆめのようなサービスをしなければならぬのだろう。ま、テキリョウずつ まぜあわせれば、テキオンののみものができる。バイリョウコウニユウすることになるが。そうか、ショウバイだ。

二、『ア』ロク

はながさくジキさかないジキがある。イッコシユルイのことをいっているのだが。でも、ま、はなの ツゴウなんだろう。さくジキがまちまちだったりする。ま、かんがえてみれば、いまはふゆだといっても、みなみハンキウのホウでは なつだったり。ダイタンにいえば、どこかははるで、どこかは ふゆだから、あのはなは はるにさくといってもゴサがでるんだろう。

キョネン にわでさいたはなもよかったが、ことしのもよかった。とりもよい。ナナネンまえは、むくどりのすをみてたり。そういえば キョネンのはる、むくどり きていたかな。アンガイキョネンのはるは ほとをよくみた。シゼンがおしえてくれるっていうのがあるかな。ノウサギョウをやるようになってから そうおもう。

サン、『ア』ハチ

おとし ゆずのきが のびていたのでていれをしようとおもったら、おふくろがさきにだれかにきらせてしまった。ケッカ とげができた。ばらも こうやってとげができたのかとナツクした。のばらにはげんに とげがない。とげがあるのも あるかもしれないが。その「いかり」は イチネンほどではしづまらなかった。ニネンハンほどたったがまだのこっている。

ヨン、『ア』キウ

「き」でまけたら、やっぱりまけになる。ここでの「き」は、まけんき などの「き」である。ウンドウキョウギなどでのことだ。わたしは タツキウでそれのかんじたが、ソウゾウというのも ダイジなんだろう。かつソウテイでキョウギをする。まけキチョウ(チョウシ)になっても ねばってかちキチョウをとりもどすと。ニセンジュウサンネンにもそうおもったが、キョネンもそう。アンガイ ニンゲンカンケイもそうかもしれない。ダブリュハイ(セカイタイカイ)がロクガツにあったが、それもおなじ。やわらかいたまをけるのではなく、モクザイをけるとか タンレンにはいろいろある。

ゴ、『ア』ニジュウニ

わたしは なにかをタッセイするとマンゾクをおぼえたりする。いったことをやる というのはわりとよくあることだ。でも、チュウガッコウで いった エイゴのモンクはいまだにタッセイしてなかったり。「アイ プレイ テニス」なんかはそのテンケイである。「アイ プレイ ギター」はタッセイしたがたまうちのホウは、タツキウ(テーブル テニス)は やったりするものの、タッセイはされていない とみるべきでは。

だから そういうエイゴキョウイクを カイゼンしたホウがよいとおもう。「どうせ、うそだろ」じゃ しょうがないのである。いつかたまうちを タッセイしようとおもっている。こういうわけでニホンのエイゴキョウイクは コクサイテキに サイテイとされているようだ。

ロク、『ア』ニジュウゴ

さきに、みつつのしごとができるじゃ あまいとかいた。ゲンザイはよつつのサギョウができる デンサンキがあり、また、ニンゲンもよつつのしごとをできるぐらいが ジュウキュウセイキのエイコクのキホンだったようだ。たしかによつつのしごとはできにくい。しかし、よつつのサギョウができるデンサンキに、ぼううで（ロボットアーム）をつけたら、ニンゲンのロウドウシャがシツギョウしかねない。だってユウシュウなんだから。ガッコウでまなぶジョウホウもちいさいキロクブヒンに おさまってしまうし。じゃあ どうすればいいかという、やつつのしごとをすればいいんだらうと。「デンサンキをこわせ」じゃ「またか」になってしまう。センジュカンノンのえ がうかぶ。かしこいひとは、デンサンキから まなんているんでしょうね。

シチ、『ア』ニジュウハチ

きられて きずついたゆず（●サン、『アルカラカンガエル [イカ、『ア』]』ハチ）。イチネンたって、ちょっとだけみがとれそうだった。それをわすれてセンチてしまい、そのちょっとだけの ちいさいままの しゅうかくのみとなった。でも においはするしほんものである。

それをみずにいれて そのみずをのんだ。うまい。ラムネとか レモネードとかいうけど ということだ。「ラムネ」は ライムを、「レモネード」はレモンを。ゆずだから ゆずすいにしとく。あとから あじつけをしてもいいがそのままがうまいかな。ゆずプロもいいですが、ネンカンとおしてのめるゆずすいもいいと。ま、シハンのでもできますが。

ハチ、『ア』ニジュウキュウ

きというのは、ホンライテキに、したのホウのみきがロシュツしているのかと。しっかり カイソウテキになった きはみごとだが、ニンゲンが てをつけてしまって、したのホウがロシュツするのでは とおもう。だから うえのホウにハンモすると。もし、ニンゲンが てをつけたとすれば、なぜはしごとをつかわなきや みがとれない かたちにするんだらう。はしごやのサクボウか、っておもう。でも かうホウも わるいんだな。

キュウ、『ア』サンジュウサン

ニクとニクじる、どっちがダイジなのかと。やっぱりかたちというか シツリョウのおおきいホウがダイジなんだろう。なにしろニクだから。だからといってニクじるもすてがたい。でも、かつおだしとかで、ニクのホウをダイジにしなかったから（ほかのリユウがあるにせよ）ニホンジンはタイカクがちいさかったんだろう。いまはカイゼンチュウか。へんに ニクのあぶらみをありがたがったりしているみたいだけど。わたしはしもふりよりあかみハです。

ジュウ、『ア』ヨンジュウサン

ノウギョウをやって、laissez faire（ジユウホウニン）がダイジなんだとおもう。そりゃそれぞれのジジョウがあるし。ダイコンなんかも ほうっておいたらたねができて、しっかりそだっています。へんに てをくわえないというか。

ジュウイチ、『ア』ヨンジュウゴ

おとなのフットボールとはどんなものか。あいてのゴールに、「ゾウトウヒン」、さけとか、ハムとか、ゴミとかをうちこむ。ゴミじゃないホウがいい。でも、セイキュウショがとんできたらソシしなくてはいけない。ニホンのセンシュが ハイタイしてイチネンハンたとうとしているが、もうつぎのヨセンをやっている。ただ、ショミンにとってダイジなのは、おとなのフットボールだ。

ジュウニ、『ア』ヨンジュウハチ

なぜ「ベッド」なのか、ねるのにつかうのです。ふとんでもいいはずだが。よつあしだったり、むつあしだったり。よつあしって、うしとかのうえでねる「え」ですわ（●『ア』シチ）。おれは そんなにできたひとじゃないとなればおりのしかない。ふとんでジュウブンと。セイヨウテキな というかシハイによって カノウになるんですかね。ベツにキリストキョウトじゃないからたたみにねないとです。ゲンダイの「ふみえ」かもしれせん。いすもそうですね。やっぱりザブトンですかな。

ジュウサン、『ア』ゴジュウヨン

フンをうみにながせば、うみにシゲンというかがたまる。ハイセツブツ といったって、こしたあとのショクブツ、ドウブツセイブンだから。ま、それをうみにながしていると。

ま、すくなくともかわにはながしている。だからうみにもみたいなのがハッセイしたりするんだらう。

むかしみたいにはたけにまけば、わりとちかいところでジュンカンする。でもスイセンベンジョはやめにくいんだらう。ショクブツだけならはたけとジブンとでジュンカンするだけだ。ムダがないからヒリョウもそんなにいらないだらう。

ジュウヨン、『ア』ゴジュウロク

マージャン。「すごい」マージャンは、ニハンであがったら、ふたさらリョウリがでてくる。ゴハンだったらゴさら。すごいリョウリニンは、つぎになんさらであがるかをヨソクして、あがるまえにジュンビ。あがったらすかさずだす。

そういうマージャンがあったのかはフメイですが。

ジュウゴ、『ア』ゴジュウシチ

むくどりにすをテイキョウしたことがある。あまどのシュウノウバにむくどりがすをつくったのだ。しばらくすると、ひながくちをあけてなくようになった。つがいのカタホウがすのちかくでケイカイしていた。すをのぞくとうるさくないた。ピスケットかなんかをさしいれしたがたべただらうか。ま、いいものをみつめてくるんだらうな。どうもおふくろがいやがるようで、ニカイめはソシされてしまった。

ジュウロク、『ア』ゴジュウハチ

わりとサイキンとりにえさをやっている。なんかはらをすかしているようなそんなきがしてあげている。まえはちょっといったところにとりや（はとにえさをやっている）というかがあったが、みせをしめてしまったようだ。ま、ふゆだとショクリョウがすくないのだからケッコウたべていたな。

ジュウシチ、『ア』ロクジュウイチ

サイキン、ユニウもののスパゲッティとかうっているけどやっぱりほんものはすごい。こむぎのあじだけでなく、こうばしいフレーバーとかがあったり。やっぱりすごいのはちがうとおもってしまう。それに、スパゲッティのすごいところは、みずでゆでられるんです。おゆ、じゃなくて、ジョウオンスイ。ちょっとジカンがかかりますが、ケイサンすればダイジョウブ。ネンリョウがなくてもたべられる。だから、ヒジョウヨウにもいいでしょう。イッカイ、そばもジョウオンでゆでたらぐちゃぐちゃに。ま、あがりのはやいのでしょうか。ケイサンですね。ヒジョウヨウにためておくことにしようとおも

います。

ジュウハチ、『ア』ロクジュウサン

ちょっとまえによくたべたおカシは、いもガシと まめ。ソボクでいいとたべていたがサイキンは あじつけのこいものをケッコウたべている。まめは、ダイズをいったものだが、たべすぎなくていいとおもう。こめを あげたものもいいな。たべすぎない。コクサンヒンもあるし。サイキンラッカセイなんか チュウゴクサンばかり。ガイコクサンをたべるのなら そのくにのひととなかよくしなければならない。スイメンカというかで カットウがおこりますから。ティティピーをすすめるとやっぱりそういうモンダイも。ゴジュウゴネンタイセイ（ジミンセイケンによる）はガッシュウコクと なかよくしておけばだったけど まあ、いろんなどころとコウエキをすると なかなかむずかしそうですね。やっぱりジミントウタイセイのホウが わかりやすいかな。ま、コクサンにがんばってもらいたいです。

ジュウキュウ、『ア』ロクジュウヨン

ニクマンはおいしい。ショカツ（チュウゴクの カンのジダイにカツヤクしたとされる）センセイを おもいだすが、そのショカツセンセイがつくったセイヒンが ニセンネンちかくたっても のこっている。ニクをいれたマンジュウというやつである。ただ、ショカツセンセイはシッパイをしたとおもう。なぜなら、ジブンにできないことをカン（おなじく）ショウグンに ヨウキュウしたことだ。だから ケッキョクあまりいいホウにいなかった。もっとショウグンを おくればよかったのかもしれない。

ニジュウ、『ア』ロクジュウゴ

マルクスはなにをのこしたか。キョウサンシュギコクとだれかがいうかもしれないが、わたしにとってはそうでない。いや、それもあつけどだ。ケッキョク、シホンカがつよいのはしょうがない。ロウドウシャは はたらいてかねをてにする。だったら、ウンドウするジカンをけずって かねをてにしたほうがよいのではないかと。つまり、はやいものがちだと。だから、すぐにやらなければならない。

たしかに ウンドウをして タショウチンギンはあがるかもしれないが、そのためについてやすジカンは、そのジカンはたらいていたら どのくらい かせげたかをかんがえらうのかなかと。ケッキョクシホンカがはらったりするんだらうけど そのキギョウはシキンテキによわる。それはロウドウシャにとってどうなのか。ソレンのようにセイコウした、する、かもしれないが、キョウソウではうまくなかった。いいコウエキができないとなれば、その、シホンカ、キギョウはよわっていく。それだったら、すぐにしごとをしる

と。そういう、マルクスのキョウクンはいかしたい。

キョクロンすると、ハンセイするまもないのだ。だから、コンサルタントなんだ。コンサルタントになりたいきゃケンキュウするといひ。でも、ゲンバがダイジじゃないかと。それに、そのしごとのセンクシャもいる。レキシのケンキュウをしているようじゃニリュウだと。シュウエキを あげられるんならいいですが。

ニジュウイチ、『ア』ナナジュウシチ

こしばらくかわらないが、「セイギ」っていうのが むずかしい。だれかがそれをシュチョウしても、いや、こちらが「セイギ」ってのはなしになるから、それじゃしごとをするか となったり。「テロ」もそうだ。グンを だすのもそう（テロ）だろとか。しょうがないからリョウイキにわけて、「セイギ」をイジするのかな。「セイギ」というオウミたいなのをたてて、それぞれやっていこうとするわけかな。でも、カクダイしようとしたら たたかいになるね。

でも、うみにでで、コウカイジョウで「セイギ」をシュチョウできそうだ。カイゾクとかいわれるだろうけど。そのジャクテンは、ショクリョウ。つくればだけど、どっかからかわなきやならない。だからむずかしそうだ。イッパツあたればしずんじやうし。それが「セイギ」としたら もろい。だから、フツウは、「セイギ」の ジュンドをひくめて、タイキュウセイを あげるのかな。うみじゃなくてもショウトツすれば、しんじやったりするわけだから。

ニジュウニ、『ア』ナナジュウハチ

ニホンジンがドリョクしたから センゴフッコウなのか、ガッシュウコクのドリョクでセンゴフッコウなのかかわからない。どちらもあつたんだろうが。でも、センソウにかんする つみぶかさがあれば、それなりのやりかたをするだろう。ニホンジンがセンソウにカンする つみぶかさを ヒョウゲンしているのにはであつたことない。あまり、そういう ゲンバを しらないからか。やっぱり、セイカツがアンテイしてくると、「イショクたつてエイジョクをしる。」というようにレイがダイジかもしれぬ。イレイもダイジだがほかにもダイジなことはある。センソウでのヒガイを ベンショウしたり。でも、そういうのはやはり コジンでやるべきなんだろう。センソウにカタンしたんだろうから。サンカしないことも できたはずだ。たしかにキョウセイセイは あつたとおもう。でも キョヒすることはできた。おおきくくればだけど、ベツに くくらなくてもいい。コジンのシュウゴウがシャカイなんだから。いまみてもそういうあぶなさはあるとおもう。でも、センソウ、わたしにいわせれば「わるい」センソウだ。ヘイがにげられないんだから。そのハンセイをいかすなら、そういうキョクメンでもキョヒすることがダイジなんだろう。センゴクのと き みたいだつたらしょうがないメンもあるが。

ニジュウサン、『ア』ハチジュウ

エイキョウリョクのあるひとが、やすくていいものをたべていたら、まねとかして そのやすくていいショクリョウはタイリョウにショウヒされるかもしれない。

だから、たべものを ショウカイするテレビばんぐみでは、ジュウヨウなショクリョウでなく、チュウカメンとかパンとかを シュザイするんだらうとおもってしまう。ヨウするに、チュウカメンとかパンはしなぎれしてもいいと、シュザイするひとはかんがえているが、タブン、やきニクはしなぎれしては まずいとおもっているのでは。

そういえば、ナナジュウネイジョウまえのセンソウは、ニホンジンが ギュウニクをたべはじめたからタイヘンだったという「すきやきセンソウ」ともいえるかもしれない。カチクをきりくずすっていうのは ショミンにとってのセンソウである。さかなくってりゃいいのにおもってしまう。そういうセンソウがおこってはたまらない。だからといってまったくニクをたべないのはむずかしい。でも、そういう、ううしいとか、うまいはモンダイだと。うしはノウギョウとか、うまはイドウにとかにやくにたつ。だから、「ぎょい(しい)」がいいか。

ニジュウヨン、『ア』キュウジュウ

フクがやぶれたのでなおす。でも それは「シンカ」か。なおったらまあ「イジ」なのかもしれないが、かんがえかたによっては「シンカ」とかんがえられる。ブヒンコウカンなら「シンカ」じゃないんだらう。でも、つくるサイショのダンカイでジョウブになっているなら「シンカ」させなくてもすむかもしれない。でも、やはりレッカしていくんだらう。マルクスのキョウクン(●ニジュウ、『ア』ロクジュウゴ)からいうとはやくなおせだ。なおせるとはかぎらないが なおしたホウがいいだらう。そのホウが ジョウブだらうしごみもでない。

ニジュウゴ、『ア』キュウジュウニ

やきニクというのはいいセンタクシである。しかし、なにをたべたらいいか というのがベンキョウブソクであればつきものである。だったらと わたしはステーキをえらぶ。あかみだけのホウがいい。よくかんがえればそれが わたしをつくったといえなくない、ちいさいころたべにつれていって もらったからだ。たしかに、やきニクをたべにいき、ノウミソというセンタクシがあれば、ベンキョウもできるようになったかもしれない。だが、ザンネンながらそういうセンタクをしなかったし、そんなものだとはしらなかった。だからウンドウがよくできたというわけ。ガッシュウコクジンと たまけりやってもあたりまけはしなかった。

ただ、こどもとたまけりして、ちよろちよろやられるとまけてしまうというケイケンが

あるので、かならずしも、その、ジュウセンシャ、ハウシキをスイショウはできない。ジュウセンシャでもキドウリョクがあれば、ちよろちよろにまけないだろうか。ニクをたべて、さらにはしりこみだろうか。

ニジュウロク、『ア』キュウジュウサン

からだをおおきくするというのでは、ハンバーガーというセンタクシもある。でも、ハンバーガーをたべてユウメイなセンシュとかっているんだらうか。はじめてたべたのがヨウチエンのとき、かみセイのテツドウレツシャのモケイがついてきていたくカンシンした。サイキンはそれがマンガのキャラクターのしなものにかわっているようだが。ゲンジツよりゲンソウということだろうか。あるおおてハンバーガーショップはブンカテキだとおもう。わたしはニホンのマンガセイヒンより、ガッシュウコクのレツシャモケイのホウがいい。でも、そのかたのレツシャはむかしのなので、いまもジッサイのテツドウにてはしっているわけではないとおもう。そういえば、それからジュウゴネンくらいで、ガッシュウコクのにしカイガンのテーマパークでそののミニチュアレツシャにのった。トウキョウにある（これはちがうといえばチバにあるからちがうのだが）ガッシュウコクでキカクされたテーマパークにもおなじようなものがあつたとおもう。そっちのホウをさきにのったかもしれない。ガッシュウコクのテーマパークでは、そのえだかシャシン（サンジュウメートルかけるジュウメートルくらいあつただろうか）、にえらくカンシンした。

ニジュウシチ、『ア』キュウジュウハチ

「シャザイガイコウ」がなぜモンダイか。センキュウヒャクヨンジュウネンごろのセンソウは、あまりいいセンソウではなかった。よく、「タイショウがうちとられて、ヘイがカイソウした。」といういくさについてのキジュツがあるが、そういった、カイソウ（ヨウするに「にげる」だ）がしにくいセンソウだったからだ（●ニジュウニ、『ア』ナナジュウハチ）。ヘイはトウゼンキュウヨをしはらってもらいたいし、タイショウがうちとられたら、キュウヨがみばらいになるカノウセイがあるから、にげる。しかし、カイガイで、もしくは、カイジョウで、センソウしていると、しらないトチやうみだからにげにくい。だからよくないセンソウという。タブン、ホンドケッセンというのはヘイがにげるだろうからむずかしかったんだらうとおもう。センソウはセンソウでかちまけがあるわけだから、それはガイコウでどうにかすればよい。「シャザイ」すべきはヘイのホウにで、よくないセンソウをしたことについてあやまればよい。ベツにグンのナイキなどについてはガイコクにあやまることではない。あやまるあいてがちがいますよと。ただ、そういう、ゴカイのゴカイがガイコウにエイキョウをおよぼしているともおもう。ま、ヘイにあやまったのならガイコウすればともおもう。だれのかんがえはともかく「シャザイ」、ガイコウ、なんだから（「シャザイ」してガイコウすればよい）。そのカ

ンテンからいうと、ガイコウがすすまないことがヨソウされるが それなりのたちばのひとが いわないと いけないだろう。

ニジュウハチ、『ア』ヒャクヨン

チツジョと ブンカどっちがダイジだ。サンわりのブンカとナナわりのチツジョでどうだろう。それくらいだと チョウド キンムビとキュウジツテイドのわりあい。でもキュウジツを ブンカにつかっているってあまりきかないけど。やくわりで わけてしまうとサンわりのブンカジンになるんだらうか。でも、ヒセイサンジンコウもだから、ニホンでいうとサンゼンロツピャクマンニン。これだけのかずだと、ブンカジンっていってもちよつとわからない。かくれたブンカジンがケッコウいるとか。ただ、あまりにブンカテキな、シャレた、キカイとかがふえちゃ こまるとおもってしまう。

サンわりがた エラーじゃ イライラするかな。そうだ、キカイにもキュウジツをあたえればだ。ちよつと チツジョをふやさないとイライラするかな。ま、ブンカテキなセイヒンをえらばなきゃいいのか。ま、ひとつでも、チツジョのあるブブンとブンカテキなブブンというように なんわりとかの わりあいできなくみるのが ありそうではないだらうか。

ニジュウキュウ、『ア』ヒャクゴ

ジョウホウがおかしいほうが、ものがおかしくなるよりいい。でも、デンサンキ、なんて、デンキとジョウホウでうごくという、ニンゲンの シンシンのレンカンににているかも。でも、おかしいのは ジョウホウだと。ものがおかしいならコウカンしてになってしまう。ジョウホウで うごくブンをすくなくすれば、ものとしてはまともになるかもしれない。だから、セイヨウがダイジだったり。

ま、ニホンジンのショク、たべること、なんて、むかしからそんなにかわらなかつたんだらうが、メイジにはいってちよつとかわり、いまもかわりつづけているんだらう。つまり、ニンゲンをコウセイするのに、むかしとちがうブヒンをつかいはじめたということ。だから、ニジュツセイキのセンソウは「すきやき」トウソウだったんだらうっておもう。でも、たしかに そういうギユウニクをきりくずしたりしているから ニホンジンはタイカクがよくなったんだらう。いつまできりくずしつづけるのか わからないが、まあ、そういうジダイだ。センソウじゃないんだけど、きりくずしつづけるって。ヨーロッパでは、キンダイまえからのながいセンソウでうしをきりくずしたんだらう (●ニジュウサン、『ア』ハチジュウ)。それをヘイジにまねしなくても いいのにとおもう。それで、ノウギョウに キカイうしとかをつかっているんじゃ ネンリョウダイもかかるだらうな。そこにキンダイノウギョウの よわさがある。

でも、いまシジョウにでまわっている、ギユウニクは、ガッシュウコクセイがおおい。つまり、えらんだりしなければ、ガッシュウコクのセイブンをセッシュすることになる。だから、いってみると、ギユウニクをたべるとガッシュウコクジンにちかづくことにな

る。そういうわけだから、ガッシュウコクぎらいなら、ギユウニクをたべるべきではない（ニホンのデントウシュをデントウヨウチクされたギユウニクもあるだろうが）。それは、ケンカになるからだ（ロクジュウサン）。サイアクあなたの中からだ。センジョウになる。もっというと、あなたがベイチュウタイリツをしんじるなら、そのどちらでそだてられたニクやノウサンブツをたべるべきではない。それか、どちらかシジするほうのニクやノウサクモツをたべればよい。どうせケンカになるのだから。そういう「ジミントウタイシツ（●ジュウハチ、『ア』ロクジュウサン）」をつくってきたのがセンゴナナジュウネンだ。そのジミントウタイシツをやめられるかといったらなかなかむずかしい。ま、さかなとこめくってりやなんだけど、ニクをたべてしまったり。だから、ジミントウがタイショウする。でも、シュギテキにドクリツをめざすのならつよいシンネンで、ガッシュウコクセイのセイブンをたべなきゃいい。サイキンは、チュウゴクセイもふえたからきをつけないと、ジーツーロン（ガッシュウコクとチュウゴクのツゴウでコクサイシャカイがシンコウするというシュチョウ）がテンカイしたら、からだのなかにカットウをためこむことになる。だから、イシキテキに、ホントウにキケンかどうかはともかく、セイジシュギテキにチュウゴクセイヒンをたたく。それがよくいるニホンジンだろう。なぜならジミンシュギを、すくなくとも、やめたくないから。だから、ダイブツシュギテキなひとがチュウゴクセイのノウサンブツをたべるのはモンダイないが、むずかしいおおきなワゴウをからだのなかにかかえこむことになる。でもそれはむずかしいカダイだから、わたしはセイヒンをセンタクしようとおもっている。

サンジュウ、『ア』ヒャクロク

すくなくとも「ジミントウタイシツ（●ニジュウサン、『ア』ハチジュウ、ニジュウニ、『ア』ナナジュウハチ）」でおさえたい。なにしろこどものころに、ユウメイハンバーガーテンでハンバーガーをかってたべた。それからちょっとあったが、そういうセンタクをしたのだ。しかたない。でも、ユウメイハンバーガーテンがうりあげをへらしているときくと、チュウゴクセイのザイリョウをつかっていたのがきいているとおもえる。やっぱりすくなくとも「ジミントウタイシツ」にあわせないと。

ま、ジキュウリツをあげられるようにとがんばれたらいい。なぜなら、ジキュウリツレイはニホンジンのおわりだからだ。たしかに、コクセキなどのジョウホウはこのころ。しかし、ニホンジンっぽいセイブンがないとなるとニホンジンの・・・である。いまのところ、ジミントウがキンコウテンなんだろう。そのリョウタンもある。ドクリツ、キョウチョウと。でも、ゲンジテンでジキュウリツヨンジュッパーセントだからむかしとくらべてニホンジンのかずがロクわりへっていることになる。まあ、ジンコウがふえすぎたのかもしれないが。

サンジュウイチ、『ア』ヒャクキユウ

シャシンをとるときに、なんかいたりすることがある。「チーズ」なんていわれてもおいしそうなおすればいいのかと。でもサイキンになって、ポーズ（ふたつのドウオンゴがあり、どちらかはわからないが）とっていたのが、シャレというか、テキになって、そういうようになったと。

「バタバタ」するとか「ドキドキ」するっていうのもよみといてみると おもしろい。ゼンシャは、おいしいコケイタイのショクヒンと、センソウでつかわれるもので、コウシャは、エイゴの なまりだとおもう。「なつパテ」というのもなつのホウゲキ（タイホウをうつ）ってことでしょ。だから「しちやった」だったら、「あついのにゴクロウさん」だ。「バター」か「タイホウ」かってなんのことかとおもっていたら、「バター（ビーユーティティイーアール）」か「バッテリー（ビーエーティティイーアールワイ）」かというダジャレだった。ま、ギロンはあったのでしょ。そこから、「バタバタ」するようになったのでしょ。

サンジュウニ、『ア』ヒャクジュウゴ

きのうにてがみをおくることを かんがえたり、あしたなら ジョウケンシダイでタッセイカノウだ。だが、きのうのジブンがないからとどかないだろうとか。ジカンっていうのはウンドウリョクなんだとおもう。だからイチ「ロコモータイブ」ではかれると。そういうのはむかしからで チキュウのカイテンではかっている。そこまでおおきなウンドウだと なかなか イチニチすすめるのは タイヘンだがまあ、イチニチたつだろう。ま、ひかりなんかでおなじょうにかんがえている。

てがみはむずかしいが、デンシジョウホウならおくれそう。ジョウホウ、デンキはチキュウのウンドウよりはやくい。しかしどこにおくるかとおもう。きのうにおくっても、あしたにおくっても、ジュシンソウチがなければうけとれない。

ジカンっていうのが ウンドウだとすると、カンゼンにセイシしている なにかでは ジカンがすすまない。しかし、ザンネンながらそういうなにかは みつけにくいだろう。ウチュウだったら なにかにひきつけられたり。うごかないっていうのがフカノウだから、ニンゲンはやがてしぬと。

サンジュウサン、『ア』ヒャクジュウシチ

ゲンダイシャカイの モンダイは ノウギョウセイサンをタンジカンで おわらせて ジカンができたということだ。そのヨカというかをどうすごすか。ホンは むかしからあるが、それをよんでヨカをすごすではなくて コウギョウセイサンしようとか。コウギョウセイサンすれば ゲンダイと にたようなセイカツなんだろう。いまは、コウギョウチュウシンなんだろう。だから、サンギョウカクメイって。でもコウギョウセイヒンはたべられないわけだから。コウギョウセイヒンを あまりかわなければむかしっぽいセイカツができるんだろう。

サンジュウヨン、『ア』ヒャクジュウハチ

「モーターゼーション (ジドウシャ シャカイ カ)」。くるまがあればいろいろなものがかいにいける。だからくるまをかう。でも、そういうみせにいても、ほしいものはかえなかったりする。じゃくるまはヒツヨウかとなる。セイカツがかかっているようなひとがくるまをつかう でいいのでは。アンガイかえないものはおおい。だからエンボウからおくってもらおう。「モーターゼーション」より「デリバライゼーション (ウンソウ シャカイ カ)」だ。くるまより デンサンキにかねかけたホウがいいとおもう。

サンジュウゴ、『ア』ヒャクニジュウ

サイキン、コウゾウシュギテキというかになってきた。わかいころは、ゲンバのコウドウをみてかんがえるとかだったが、いまはコウゾウシュギテキだったりする。そのシテキする「コウゾウ」がまどをえていなくても、すくなくともわたしの「シンリコウゾウ」にはある。だからこそ、ゲンバのひとこととしてはいいんだけど、コウゾウにひびきそうな ことばはさけたりする。トクになにもないがいいとおもう。もっと言うと、しらぬがほとけである。

サンジュウロク、『ア』ヒャクニジュウロク

いまおもうと、ガッコウっていうのは、まなぶ「なかみ」がダイジなのでなくて、まなぶ「シセイ」をタンレンする ばなのだとおもう。ホントウに まなびたいことは それぞれちがうわけでそういうのを イッコイッコやってられない。ただ、まなぶ「シセイ」をタンレンしておけば、ジブンで まなぶことができるということだろう。

ただ、「なかみ」をジュウシしてしまうと、あとで わすれたりするてまがかかるようになる。いらぬチシキだったりするからだ。だから、ホントウにヒツヨウそうな、イッカモクだけ、たとえばコクゴとか、まなぶとかでいいだろうとおもう。

サンジュウシチ、『ア』ヒャクニジュウシチ

なぜ、かみをちやいろくするのか。タブンそれは、「ジュウ」のあかし、もしくは、「ジュウシュギシャ」のあかしで、それがニジュウネン、サンジュウネンつづいている。ヘンないかたをすれば「ボウメイ」みたいなもので、いまでもイッテイスイ「ボウメイシャ」なり「ジュウシュギシャ」がソンザイする。みてわかるからいいが、サイキンのわかものはそういう トウショの ころごしみたいのをわかっているかギモンだ。な

んとなく「ボウメイ」してしまうのだろうか。トウショはガッコウでキョウシたちとた
たかいながら タッセイしたみなりである。

サンジュウハチ、『ア』ヒャクニジュウハチ

センシンコクビョウ (●『ア』サン) とはセンシンコクにおける、トウルイ (さとうな
ど) のケツボウである。どうしてもみなみにむきがちだ (トウルイがとれるから)。さら
に、ネンリョウももとめたりする。そういうシゲンをめぐる あらそったり。うまく
セツヤクしながらやっていけばいいが。

サンジュウキュウ、『ア』ヒャクサンジュウハチ

サイキンは、かんがえたりするズブンを、「あたらしいノウ」、ドウブツテキなズブンを、
「ふるいノウ」といっている。よのなかには、「サノウ」と「ウノウ」といういいかたがあ
るようだがまあ、そうよんでいる。あまり、「あたらしいノウ」がカップツだと、ねれな
かったりする。そういうときは、「ふるいノウ」をカッセイカさせるようにこころみたり。

ヨンジュウ、『ア』ヒャクヨンジュウシチ

やっぱりジユウって ダイジだとおもう。シッパイすることは あるけど、シッパイをくり
かえしたくないだろうし。laissez faire (ジユウハウニン [●ジユウ、『ア』ヨンジュウサ
ン]) でいいんだと。なにかをえらばせることもできるが、やっぱり すきなものが すき
だったりするわけで。ジブンでなにができて なにができないかがわかるだろうし。ジブ
ンのしごとみつかるところだろう。ただ ながしているとジカンをうしなったりする、わたし
がそうだった。でも それもガクシュウだし。

ヨンジュウイチ、『ア』ヒャクヨンジュウキュウ

ヒャクネンまえぐらいは、「レンガづくり」のたてものでシッパイして、ヨネンまえぐら
いは「ゲンパツ」でシッパイしたのではないだろうか。たしかにいいセイヒンなのだろ
うが、ジシンにはよわい。また、「シッパイ」したセイヒンをうごかしそうだが。

ヨンジュウニ、『ア』ヒャクゴジュウサン

マルクスはシホンカによる「サクシュ」があるといったらしい。その「サクシュ」をふ

せぐためにレンタイするのは、タブン ソレンのがんばりからもたしかなんだろう。しかし、ロウドウシャがすぐにでもシホンカに になれるかといったらむずかしい。それはそういう、かねをウンヨウするドリヨク とかについて シホンカのホウがはやくとりくみはじめたからだ。だから、シホンカがロウドウシャになるのもむずかしい。それは、ロウドウするドリヨクはすでにロウドウしている ロウドウシャのホウがはやくとりくんでいるからだ。ケツキヨク、マルクスとそのエイキョウがあったひとたちは なにをしめしたかという、「はやくドリヨクしたひと」が ほかのそうでないひとよりもユウリである。ということではないだろうか（●ニジュウ、『ア』ロクジュウゴ、ニジュウヨン、『ア』キウジュウ）。わたしはそれを マルクスのキョウクンとよんでいる。

ヨンジュウサン、『ア』ヒャクゴジュウゴ

なぜ、ニホンジンはいゴができないといわれるのか、ふたつおもいついたことがある。ひとつは、ガッコウで「アイプレイ ギター」とか いいカゲンなエイゴをいうようにうながされること。「アイ プレイ ギター」ならまだいいが、「アイプレイ ギター トゥデイ」だったら、ホントかよってなる。「おまえ ギターもってなかったよな」って。そういううそつきエイゴばかりやっているものだから いやになっちゃう。わたしもギターをひくようになりましたよ、ならさせられた、かもしれない。ただ「ウエル」かどうかはわかりませんが。でもまだ、テニスはやっていません（●ゴ、『ア』ニジュウニ、ロクジュウニ）。やろうとおもっていますけど。うそつきになっちゃうからね。

もうひとつが、よむことをジュウシすること。どういうことかという、ジブンのいいことをワエイジテンでしらべていうのではなく、エイワジテンばかりをリョウすることをすすめられる ということ。たしかに、よむのにかずをこなしていけば、しらべたタンゴを うまくつかっていうことができるのだけど、そのドリヨクはジュウネンとかかかる。それに よまされるホンがジブンのカンシンにあっているととかぎらない。でも、うまくつづけると、よむのはできるようになりますね。リョウをこなすっていうのが、ニホンジンのゴガクシュウトクホウなんでしょう。わたしも シンブンよむのにジュウネンくらいエイワジテンをひきまくりましたよ。まあ、いいエイゴのジュギョウとは、「わたしはユウシュウな ロウドウシャになります」とかエイゴでいわせることかもしれない。

ヨンジュウヨン、『ア』ヒャクゴジュウロク

「ショウヒシャ」ということばがあるが、「ロウドウシャ」とか「シツギョウシャ」のしたに「ショウヒドレイ」カイキョウがあるようにおもう。わかりやすいレイでいえばアルチュウとか。さけのショウヒを やめられず、また、ドをこしてさけをかってシャッキンつくるとか。ほかのものでもそうだ。そういう「ショウヒドレイ」カイキョウにはならないようにしたい。シツギョウシャは さらにシツギョウしないが、そういうカイキョウにおちるかもしれない。

ヨンジュウゴ、『ア』ヒャクゴジュウキュウ

センゴ、ニホンジン「ジミントウタイシツ（●ジュウハチ、『ア』ロクジュウサン、ニジュウキュウ、『ア』ヒャクゴ、サンジュウ、『ア』ヒャクロク）」になっていった。パンシヨクしかり、ギユウニクしかり、オレンジしかり。これらのシヨクリョウは ベイコクサンだから、ヨウするにニホンジンのからだか、ベイコクサンであるテイドコウセイされるようになったということ。それを「ジミントウタイシツ」という。だから、ソレンががんばっていたレイセンキ、ソレンセイのノウサクモツをたべていたら、ガッシュウコクセイのセイブンとカッターをおこしたろうし、チュウゴクが がんばっているとき、チュウゴクセイをたべれば、やっぱりガッシュウコクセイのセイブンとカッターをおこす。いまはセンタクシがあるから、ニホンセイをたべるのもよいし、ガイコクセイをたべることもできる。しかし、ながねんジミントウタイシツで やってきたことを わすれてはいけない。イジならガッシュウコクセイだ。カッターがありそうなのは そのチイキでつくられたたべものは ひかえたほうがよいとおもう。

ヨンジュウロク、『ア』ヒャクロクジュウ

なんかのやくについているひとを、「サービスマン」でなくて、「サービス パーソン」というかんがえかたがある。「マン」だと おとこだから おんなにそうよぶのはということで「パーソン」にするようだ。しかし、それにもモンダイがある。「パーソン」の「ソン」はむすこだからむすめがふくまれないのではないかと。で、「パーパーソン」といってもずっとモンダイがつづく。だから、「パーチャイルド」ならいいんじゃないかと。でも、「チャイルド」じゃない。しりません、わたしは。

ヨンジュウシチ、『ア』ヒャクロクジュウイチ

しゃべるはやさが はやいホウがしごとがはかどっているといえないか。セツメイなんかも、しゃべるはやさがニバイなら、ニブンのイチのジカンですみ、ほかのしごとができる。ながいといわれるカイギもサンバイのはやさのしゃべりなら、サンブンのイチのジカンでおわる。それなのになぜ ガッコウに、ニバイソクコースとかサンバイソクコースがないか。おしえられるひとが いないのかもしれない。

ヨンジュウハチ、『ア』ヒャクロクジュウニ

「われおもうゆえに われあり。」というひとが いたらしいが、わたしは「われあるくゆえ

に われあり」とおもう。ニンゲン、あるかなかったらあたらしいハッケンはない。ホンをよんだり、デンブんに ふれたりするのもおおきなイミでの「あるく」だ。あたらしいハッケンがないとシコウはほとんどおなじことのくりかえしだろう。だから、シコウをすすめたきやあるきなさいとなる。「あたらしいハッケン」をすればかんがえるから、デカルトフウに、われあり、となる。

ヨンジュウキュウ、『ア』ヒャクロクジュウサン

「ジュウリョク」というのは そもそもないのだとおもう。じゃなぜ りんごが きからおちるんだという。それは カイテンのチュウシンに むかうちから だと セツメイする。チキュウが ジテンしているカイテングクのチュウシンにむけて うごいた といえるだろう。それをわたしは「うずまきリョク」という。しおのうず（うみの）のヨウリョウだ。そうすると、なぜチキュウや カセイなどのワクセイが タイヨウのまわりを まわるかセツメイでできる。つまり うずをまいている ということだ。でも それじゃワクセイは タイヨウのホウに イドウして ぶつかるじゃないかというかもしれない。しかし、タイヨウは エネルギーというかひかりをはなっている。そのひかりのちから、おもさというか、でキヨリをたもてる。だから、タイヨウがエネルギーをハッシなくなったら、それを「ブラックホール」というかもしれないが、チキュウをはじめ、タイヨウケイのワクセイは、シダイにヘンカしたタイヨウに ちかづきショウトツしてしまうだろう。つまり、「りんご」もチキュウの ジテンにヒツテキするちからがくわればおちない。ただ、それがないだけだ。だから、チキュウのジテンがなくなれば、ひとはチュウにうくようになるだろう。でも、ニュートンのジダイには、テンドウセツがまだはばをきかせていて そういうことをいづらかったのだとおもう。だから、ダキョウとしての、「ジュウリョク」だったのではないだろうか。もっとも わたしはニュートンについてくわしくないので、ジカンがあつたら しらべようとおもうが、ニュートンがどうかんがえたかは セイカクにはわからない。

でも、こうかんがえるようになって、なぜワクセイが カイテンするのかというなぞがとけた。「かみ」の なせるわざだとかかんがえなくてすむようになった。

ゴジュウ、『ア』ヒャクロクジュウヨン

「あるくゆえにかんがえる（●ヨンジュウハチ、『ア』ヒャクロクジュウニ）。」ホンをよむのもおおきイミではそうだ。おなじホンを なんかいもよむのと、よむたびにちがうホンを よむのでは ケツカがちがってくる。もちろん、おなじホンをよんでも イゼンとちがうカンソウをもつことはあるだろう。しかし、「かんがえる」、「ハッケン」というサギョウからいうと、ちがうホンをよんだほうが、それらはおおくハッセイするだろう。この「ハッケン」なり「かんがえる」を「ノウトウ（あたまがうごく）」するというようにする。ノウトウするとシンカするかんじだから、シンカをおさえたければ、サコクと

か、セキシヨをもうけたりするのがユウコウだろう。ただ そのドがすぎてしまったのが えどジダイだろう。ショガイコクとさがついでしまった。シンポのないヘイワとはおそろしいものだ（ここちいいような きもするけど）。だから わたしもノウトウさせている。

ゴジュウイチ、『ア』ヒャクロクジュウゴ

ニンゲンの「ノウトウ」は ケイソクカノウである。デンジケイでもシツモンシでもいい。それではかられたブンだけハッセイしていることになる。ところで、ニンゲンそのものについては、タヨウセイがあるとされる。あるテレビばんぐみを見て、「わらいごえ」もイッシヨにながされることがある。タブン、「おおきな、シャカイセイがたかい」わたしなら そのときわらうだろう。しかし、「ちいさなジコシコウの」ジブンはそのときわらえなかつたりする。テレビばなれがなされている いうから、「ちいさな」ジブンがつよいのかもしれない。ゲンダイは、キョウツウセイより タヨウセイがシコウされているのかもしれない。たしかに、ユウメイカシュがうたっていた。

ゴジュウニ、『ア』ヒャクロクジュウロク

ガッシュウコクセイの ギュウニクをたべ、ガッシュウコクセイのこむぎをたべるひとは、ジミントウタイシツ（●ジュウハチ、『ア』ロクジュウサン、ニジュウキュウ、『ア』ヒャクゴ、サンジュウ、『ア』ヒャクロク、ヨンジュウゴ、『ア』ヒャクゴジュウキュウ）といえるだろう。ジミントウは、「ニチベイヤンポ」をすすめたし、ガッシュウコクセイのギュウニクや こむぎを ユニユウするようにした。あるハンバーガーや（それもガッシュウコクキギョウのケイレツだ）もやっぱりうけている。その「ジミントウタイシツ」のひとは、たべものが、ガッシュウコクジンとにかよっているゆえに キンジセイをもつだろうと。たしかに イデンシはニホンジンだろうけど、からだをつくる プヒンが ガッシュウコクセイもまじるということだ。サイキンよくみる、セツケイはニホンでやっているが、セイゾウは ガイコクというセイヒンににている。だから、ガッシュウコクのひととケンカしにくいだろう。サイキンは、チュウゴクセイのたべものがあるから、「シンチュウゴク」タイシツのひともいるだろう。そういうタイシツのひとも、やっぱり チュウゴクジンとケンカしにくいだろう。

ゴジュウサン、『ア』ヒャクロクジュウシチ

だれがどうした、とか なにが どうした、とか、そういうジョウホウはダイジだろうか。タブン、カンシンの あることがらについてはしりたいんだろう。しかし、カンシンのな

いことについてはしりたくない。その「しる」についての「センタク」は アンガイむずかしかったりする。テレビだ ラジオだつけていても、カンシンのないこともホウコクしていたりする。それならと「ダツチ（しらない、わすれるなど）」することもできる。ヨウするにホウコクをうけないだ。

なにが どうしたといっても、それはだれかのケンカイであって、トウケイテキにユウイ（トウケイガクテキにただし）といえるなにかであって、はずれチ（かたよっているあたい [ばあい]）があるわけで、わたしのケンカイではないから、あえて、しらずに、ジブンでなにかをカンサツしたりして、ジブンのケンカイをもつことをしてもいい。だれかの、ケンカイがダイジなわけじゃないから、そういうのを「ダツチ」すると、だれかのかわりにロンソウするみたいなのが へっていいとおもう。

ゴジュウヨン、『ア』ヒャクナナジュウヨン

ひらがなはまるっこくて かわいげがある。しかし、カンジはどちらかという、チョコセンテキで トシテキな かんじがする。チュウゴクのレキシテキトシは、チョコセンを コウサしたりで ほぼシカクにコウセイされている。ジョウヘキをつくるうえからもそうしたセツケイになるのだろう。だから、そういうかんがえかた、ブンカがカンジをハッテン させたりしたのだろう。しかし、ひらがなは むかしニホンもチュウゴクのチョコセンテキトシのようなトシ、ヘイジョウキョウ、ヘイアンキョウをつくったにもかかわらず、できあがった。それからかんがえると、ニホンのばあい、トシのシハイとかブンカがチュウゴクとくらべ、よわかったのではないかと。ゲンダイになって、チホウブンケンなんていうけど、むかしは それができていたんだとおもわれる。

ゴジュウゴ、『ア』ヒャクナナジュウゴ

サイキンになっておもうのは、「ジコジツゲン（マズローハクシ [ガッシュウコクのシンリガクシャ] のいうもの）」というのがゴカイされていて、ゴヤクだったのではないかということ。ダイタイこのことばをきくと、ジブンのやりたいことを タッセイするというようなイミでとらえるとおもう。しかし、わたしは、そういうことじゃなくて、ジブンのやりたいことをやりつつ、かつ、それが タシャにも リエキになるということではないかとおもう。それってむずかしいから、マズローハクシはタッセイダンカイの ジョウイに それをおいたんだろうとおもう（ほかには、たべものにフジユウしないダンカイ、タシャにショウニンされるダンカイなどがある。）。だから、ジブンのやりたいことをやっただけでは、その、ジコジツゲンとはいえないのだとおもう。たしかに、ジブンのやりたいことをやるのは、そのタッセイカテイの イチブだ。しかし、どうもゲンロンテキに、「ジブン」のことばかりキョウチョウされていたとおもう。だから、ヤクのイミとしては「ジタジツゲン」なんだとおもう。ゴカイのないようにヤクせばそうなる。

ゴジュウロク、『ア』ヒャクナナジュウロク

なぜかチュウカそばを たべたくなったりする。ニホンのチュウカそばは ほとんどエイヨウがない（レイガイテキにチャーシューがある [そんなにやすくなかったりする]）。それなのである、レイセイにかんがえると ギユウドンやに いったほうがいい。しかし、なぜかたべたくなってしまう。まあ、しるが よいのだろうか。しかし、ニクじるのぬけたニクと ニクジルならニクジルのぬけたニクをえらぶはずだ（●サンジュウサン）。しかし、ニクじるが いいときもあるということか。

いや、ニクじるのうまさにユウワクされているんだと。きをつけないといけない。ただ、マイニチたべたいわけじゃないので、たべたくなったら たべたらとおもう、わたしは、マイニチたべていたジキもあったが、さすがにやせた。

ゴジュウシチ、『ア』ヒャクハチジュウニ

ヨーロッパでは、シュウキョウカイカクなどで ひとのあつまり というかがばらけた。そのゴ、センソウをしだした。このシジツからいえるのは、ちがうとかベツだといいはじめ そうしてしまうと、「ベツもの」だからとフソウになってしまうことがある。ということだ。だから、ヨーロッパは、もうイッカイゴウイツしようとしている。それはただしいとおもう。ニホンでは、ドウシュウセイとかいうが、やっぱりしっかりしないとセンゴクジダイのようになりかねない。「ちがう」とか「ベツ」にはチュウイしなくてはいけない。

ゴジュウハチ、『ア』ヒャクハチジュウサン

「あるくからかんがえる（●ヨンジュウハチ、『ア』ヒャクロクジュウニ、ゴジュウ、『ア』ヒャクロクジュウヨン）」、かんがえるとドクトクのイケンをもったりする。それをセイヒンにすればドクトクのセイヒンができる。だから、ヘンカをもとめないとなると、「サコク」や「セキショ」をつくるのがいいホウホウであろう。つまり、イドウにセイゲンをかける。まあ、えどのころにやってたんだらうけど、そのおかげで、ブブンテキにはヘイワだっただらうが、コクサイテキにみるとよわくなってしまった。ケツカとしてギジュツなどを ユニユウしてがんばろうとしていたのだから、まあ、カッターになってしまった。やっぱりあるかないとだめなんだ といえるだらう。しかし、ヘイワなジダイにはきらわれるかもしれない。なにか センモンテキな しごとをしているとなかなかあるくジカンがなかったりする。でも、あるくようにしたホウがいいだらう。

ゴジュウキュウ、『ア』ヒャクキュウジュウニ

なぜ、セイヨウでは ドソウで ニホンでは カソウなのか。タブン ニホンではごみをやくから ごみドウヨウに ニンゲンもやかなければならぬのでないか。だから、ごみをやいたりしなければ、ニンゲンも やかなくていいのかもしれない。たしかにムダにやいているきもする。ごみをださないことがダイイチだが、うまくジュンカンさせられるものはジュンカンさせればいい。ジュウネンくらいまえから、もえるごみとサイセイさせるごみとかに わけるサギョウをしているが、もやすごみはへったんだらうな。ヘンなことをかながえてしまった。カソウジョウでハツデンって。「まるまるさん、あのかたはばつばつワットハツデンされましたよ。」「いやいや、まるばつさんは、ばつまるワットだからまだおよびませんな。」とか。

ロクジュウ、『ア』ヒャクキュウジュウゴ

ニホンジンは「チョウジュ」といわれているが、ショクリョウのジキュウリツは ヨンジュッパーセント。カンサンするとハチジュウネンいきたひとの ヨンジュウハツサイブンは、ユニウということになる。だから、なんかのリユウでショクリョウユニウがテイシされると、ニホンジンのジュミョウはサンジュウニサイにちかづいていく。それなら ユニウにたよらずになんだがあまりうまくいっていないようだ。キカイものをうって、「ジュミョウ」をてにいれるなんてまるで レンキンジュツだ。

ロクジュウイチ、『ア』ヒャクキュウジュウシチ

シコウをすればするほど、そのカテイの ロンテンがふえていく。そのすべてがただしければ、「セイロン」といわれるのだろうが、まあ、ケイトウジュテキにみれば、シコウするほどそのかすが ふえていく。ひとはかならずしも、ただしいといわれるケンカイをとるわけでもないだろうから（まあ トウケイの ユウスイジュンみたいなはなし。カンタンにいえば「ゴサ」があると。）、シコウもすればするほど、その、ギロンへの「シジ」がへっていく、「シジ」がブンサンするからだ。だから、もっともユウシュウなシソウカは、「おなじこと」しかいわないであろう。「セイジカ」は、シソウカ、とちがうかもしれないが、サイキンは「ニンキ」をもうけて、「セイロン」レースをする。なぜ「ニンキ」をもうけるかという、それイジョウ「セイロン」がつかないのであろう。ゲンダイの、コウホウ（ホウソウやシンブンなど）があるシャカイでは、なにもいわないのは むずかしいし、あえて、「バキヤク」をあらわさせてやろうと シツモンすることもある。こうした コウホウジンのシツモンに「シジ」をおとさずにこたえられるのは、ながくてヨネンなんだろう。つづくとハチネンと。だから、まるまるハクシがそうっていたとか、まるばつセンセイの セツではとかいえばながもちするかもしれないが、いまのジダイ、そのまるまるハクシがシジをしなければ セイロンじゃないとなってしまうかもしれない。だから、むかしのことばとか、しんでしまったひとがいていたことばをいうのかな。「セ

イロン」レースはきょうもつづく。

ロクジュウニ、『ア』ヒャクキュウジュウハチ

ニンゲンには、「ふるい」ノウと、「あたらしい」ノウ（●サンジュウキュウ、『ア』ヒャクサンジュウハチ）があるとおもう。カイボウガクテキには、「あたらしい」ノウは「あたらしい」とされているようだ。では、「あたらしい」ノウはなにをしたかという、それまで、なかった、あたらしいものをつくったか、「あたらしい」ものをつかうためにできたんだろう。あたらしいなにかができたりするまでヒツヨウなかったんだから。まあ、「ショッキ（ドキなど）」なんかがいちばんはじめのころにつくられたニンゲンのハツメイヒンではないだろうか。それイコウ、ことあるごとにハツメイヒンがツイカされいまにいたっている。みまわすと、ハツメイヒンだらけというところもあるんだろう。「ショッキ」がさきにできたのか、「あたらしい」ノウがさきにできたのかはわからない。しかし、いままでないものをつくっているうちに、「あたらしい」ノウができたとはスイソクできる。いままでないサギョウをするわけだから。そのできた「ショッキ」をつかうホウもやはりいままでしていなかったサギョウをするわけだからやっぱり「あたらしい」ノウができあがる。そんなハツメイヒンがふえるごとに「あたらしい」ノウがふえていった。まあ「あたらしい」ハツメイヒンのほとんどはホンシツテキにはフヨウだろうが、そうはいつでもジンルイシをヒテイできない。なぜならわたしも、ハツメイしてしまうからである。

ロクジュウサン、『ア』ニヒャクサン

カガクというのは、エイゴで「サイエンス（エスシーアイイーエヌシーイー）」という。ドウギゴに、「シザース（エスシーアイエスエスオーアールエス）」がある。これははさみで、キョウツウするのは、「きる」とか、「きりわかる」ということである。「ブンセツ」ということばがあるが、たとえば、「ショウユ」を、「ショウ」と「ユ」にわけてしまうことだ。「ショウ」と「ユ」にわけてかんがえる。それぞれをケンキュウして、さらに「ショ」と「ウ」、「7」と「|」にもわけてしまうのはありうることだ。で、それについてロンじたとしても、それをわかるひととわからないひとにわかれてしまうから、「カガク」はひとをわけるともいえるかもしれない。

わかるひととわからないひとがあらそいはじめるとタイヘンだから、「ケイモウシュギ」とか、「ガッコウキョウイク」といってカガクのセイカをひとにおしえこんでしまう。「ケイモウ」や「キョウイク」をうけるひと、よりおおくの、カガクのセイカをまなびたいとかおもったりするから、また、ショトウキョウイクはともかく、よりよいキョウイクをうけたい、うけさせたいといって、たかいかねをはらうこどもやこどものおやもいるから、ケッコウ「ケイモウ」や「キョウイク」はハンジョウする。くにやジチタイがトウチのソクメンがあるから、ヒョウを、ショトウキョウイクではフタンするが、そ

れイジョウに キョウイクを とおもうようだ。

でも、よくかんがえれば、それは、だれかがみつけたり、かんがえたことだから、そのひとは それを しんじようがしんじまいが、そのひとジシンで、ハッケンするキカイをうばってしまう。たかいおかねをはらってまで、そのひとの「カガク」のキカイをうばってしまうことはわたしには あほらしくおもえる。だから わたしは、どうしてもコウトウキョウイクを というのであれば、そのひとがダイジにしてないブンヤを センタクして リシュウすることをすすめる。それならば、ダイジなブンヤは まるで シゼンのように、てつかずでオンゾンされる。ムリヤリカイハツするヒツヨウはないのだ。そうすれば、ゴヒャクネンおくれのニュートンみたいなひとや、サンビャクネンおくれのダーウィンみたいなひとがでてくるカノウセイがあるし、もっといえば、ゲンダイのだれそれがでてくるかもしれない。わたしも どうでもいいブンヤをセンコウしてよかったとおもっている。

ロクジュウヨン、『ア』ニヒャクヨン

チュウゴクのレキシなんかでは、セントウにまけはじめと、ヘイがにげちゃったりしていたとおもう。そういうのにくらべて、サイキンのセンソウは、ヘイがにげにくいんだとおもう（●『ア』ナナジュウハチ、ニジュウシチ、『ア』キユウジュウハチ）。むかしだったらそれで タイショウが ころされたりして イツカイおわり。イツカイまけちゃうとヘイも あつまりづらだろうからキユウリヨウもあがるだろう。しかし、またつぎの たたかいでもまけちゃうとまたにげるだろうから、そのトウスイ、オウだったり、のところにはヘイがあつまりにくくなり、そのトウスイが ころされて おわりとなる。

でも なぜ にげにくくなったか。それは、くにみたいのをキョウチョウしたり、「コクセキ」とか「パスポート」とかつくったからだ。そういうのをやめちゃえば、ヘイはにげられるから、「わるい」センソウでなく、「よい」センソウになる。

ロクジュウゴ、『ア』ニヒャクロク

サイキンおもうが、「セイギ」っていうのは、「ただしいこと」ではなくて、「ながくつづいていること」なのだとおもう。ながくつづくリュウがあるのだろう。それは、「おおかたがみとめつづけた」という、ジジツ、シジツである。だから そういうものにとってかわるといのは それなりのものでないと といえそうだ。だからわかものウンドウを「ガクセイウンドウ」というのだろう。ロンリテキなセイギが どれほどのものなのか。やはり つづいているホウが、おとながかつのだろう。

ロクジュウロク、『ア』ニヒャクジュウ

つづいているのが「セイギ」、つづけるのが「アイ」だとすれば、「セイギ」を「アイ」するのがただしいのだろうか。でも、コジンの「エン」っていうのもあることだから、レキシのみじかいものを「アイ」したりするだろう。でも、レキシのながいものでもみじかいものでも、「アイ」することがコウヘイだろう。ただ どうしてもアイせないとか アイしづらい になにかがでてくる。いわゆる「ごみ」である。そういうのを ださないようにとかおもうが なかなかむずかしい。たまに、「ごみ」といわれるようなもの、ですら「アイ」するひとがいるようだが、「アイ」がふかいとは、ひとはあまりいわない。でも、「アイ」とはそういうことだろう。だから、イッパンテキにいう「セイギ」とか「アイ」っていうのは、いくぶんレッカしたものなんだろう。レッカするまえの「セイギ」や「アイ」をロンじたり、シンボウすることを、「アイデアリズム (リソウシュギ)」、レッカしたあとの「セイギ」や「アイ」をロンじたり、シンボウすることを「リアリズム (ゲンジツシュギ)」というんだろう。

ロクジュウシチ、『ア』ニヒャクジュウニ

わたしは、「シホンシュギ」というのは、それぞれのオーナーが、「わるいやつ」からザイサンを まもるために いろいろなクフウをしていこうとするかんがえとおもっているが、そのひとつのレイとしてき (くだものなる) のケイタイがある。「わるいやつ」は、「はしご」をもっていないので、「くだもの」をとれない というソウテイである。くだものは たかいところになり、みきのしたのホウはえだがない。そういうケイタイが おおいとおもう (●ハチ、『ア』ニジュウキュウ)。きがさきか、シホンシュギがさきかはわからない。それをわたしは「シホンシュギのケイタイ」とよぶ。そのシホンシュギの ケイタイに ニホンの ネンレイベツジンコウコウサイズが にている。いってみれば、ショウシコウレイカはシホンシュギだからしかたない、といえる (しかしあるカンサツでは、したのホウが さかえることもカノウなようだ。ただ、ニンゲンが あたらしい「シホンシュギ」のケイタイになれるヒツヨウがありそうだが。)。つまり うえのホウがさかえているのだ。ま、わかいひとのカンシンは、「み」がおちてくるかというところだろうか。

ロクジュウハチ、『ア』ニヒャクニジュウ

ひとはまねることを こどものうちにおぼえさせられる。もし、おぼえなかったら、インソツウはできないであろう。なぜなら、まねるノウリョクをつかって、ことばをききとり、しっていることばとショウゴウして、そのイミをしるからである。だから よく イシソツウするにはことばを まねできなくてはならない。だから ブンをよんだりエイゴのジショを しらべたりする。それなら、よみあげるニカコクゴのシィディ、「すいかウォーター メロン」などいろいろなゴについて エンエンととくものがあればエイゴはフトクイでなくなるとおもうがどうだろう。

ロクジユウキュウ、『ア』ニヒャクニジユウニ

「ジユウ」はタイセツ。でも「ヘイワ」よりタイセツかはわからない。「ヘイワ」などときは「ジユウ」はそれほどヒツヨウなかつたりするかもしれない。でも「ヘイワ」でないとなると、「ジユウ」でないところとかがでてくる。だからキセイをして「ジユウ」でなくせとかになるんだろうか。そうだとすると、「ジユウ」がギロンされるときは「ヘイワ」ではないかもしれない。ジユウシュギテキにヘイワをタッセイするか、キセイをしてヘイワをタッセイするかという。

ななジユウ、『ア』ニヒャクニジユウゴ

けさ、ジーディーピーをカンサツしたら、あまりうごいていなかった。ヨジごろよりもゴジごろのホウがうごいているとおもう（イゼンのカンサツより）。やっぱりニツチュウがおおいのか、いや、ヤカンのホウがコウソクにうごけるし、つまりうごけるからシンヤによくジーディーピーはうごいていないのだろうか。しかし、ショウケンなどはニツチュウにうごくから そういうのはニツチュウだ。

ななジユウイチ、『ア』ニヒャクニジユウキュウ

ゲンにあるものは「シゲン」という。じゃ、なかつたりするものはなんというか。わたしは、それをシゲンテキにリヨウできそうな「ない」ものを「クウゲン」とよぶ。ホンだながイッパイになって、あきクウカンをつくったときに かんがえた。ガクシャとかセイジカは チョシャのシュチョウを インヨウしたりしながら はなすからホンは ジユウヨウなシゲンで、あればあるだけいいとなりそうだが、そんなにおおきいショサイを もてないわたしなんかは、それイガイのリユウもあるが、ホンがあるテイド かたづけないとベツのホンがおけなかつたりするから、やりくりしなければならぬ。わたしがブンをかくようになってからはほかのチョシャの ホンがへりつつある。しごとカンケイのショルイもシュウノウしなければならぬし、まあしょうがない。ケッコウ、シゲンをかつたりしていたが、「クウゲン」がないとしごとがすすまなかつたりする。

ななジユウニ、『ア』ニヒャクサンジユウイチ

ドウロがあったほうがジーディーピーははやくうごける（●ななジユウ、『ア』ニヒャクニジユウゴ）。だから ニホンもやたらドウロをつくったんだろう。でも トシコッカならばこぶキヨリがみじかいから ジーディーピーも はやくジョウショウする。だから もっともひとりあたりジーディーピーがたかいのはかねもちのカテイとか、よくあるフウに言えば トシコッカなんだろう。だからトシコッカとくらべて ひくいとか あまりきにし

ることはないとおもうが。なんなら メンセキヒをくわえてサイケイサンするといひ。

ななジュウサン、『ア』ニヒャクサンジュウサン

ニホンの「キンダイ」はシケンノセイゲンだったとおもう。コクユウキギョウをつくり、コウリツガッコウをつくったり。ケツキョクは、グンがボウソウするまでになった。そして、「にげられないセンソウ（●ニジュウニ、『ア』ナナジュウハチ、ニジュウシチ、『ア』キュウジュウハチ、ロクジュウヨン、『ア』ニヒャクヨン）」でケツコウな かずがたおれた。もっとも コクセキカンリとかコセキがあつたりするから、にげにくいのだが、そういう、ボウソウがおこるかもしれない といふと そういう コクセキ、コセキをなくしたほうがいいかもしれない。それか、「グン」が、「ダッソウフリー（カノウ）」にするしかない。でも、シンリヤクテキナジダイだったからといふエクスキューズをしてしまう。ななジュウヨン、『ア』ニヒャクサンジュウゴ

ストーリーといふ。ニホンでは、ものがたり。それにピンカンであれば、なかなかむずかしいメンもある。なんかのなんかをすてたとか。あるセイヒンの はこにちがうセイヒンがはいつている、いれたとか。むかしはあまり、ショウヒョウがつけられているものがすくなかつたのだから あまりモンダイにならなかつたとおもわれるが、サイキンのショウヒシャカイでは、ショウヒョウがついたものがおおい。

ハウソウなどで ごみがたまるメンが（そのセイヒンがよくないからではない）あるからそのショブんにこまつたりする。しかし、ごみやしきに したいとおもわない。どうしたらとなやんでいたら、サイキン、「ボーンアゲイン」をおもいだした。ニホンでも、リンネテンセイとかいわれるようなかんがえ（ホンライテキにいわれているのとはちがうかもしれない）があるがそういうかんがえかたである。あのかんがえかたは ゲンダイのショウヒシャカイの たすけである。

ななジュウゴ、『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ』ニ

（アメリカ）ガッシュウコクが「ゲンバク」のケンでせめられるとしたら、ミンカンジン を セントウにまきこんだといふことかもしれない。グンジンにあてたのなら、センソウだったからしょうがないけど。ニホンジンも「ヘイがにげられない」センソウ（●ニジュウニ、『ア』ナナジュウハチ、ニジュウシチ、『ア』キュウジュウハチ、ロクジュウヨン、『ア』ニヒャクヨン、ななジュウサン、『ア』ニヒャクサンジュウサン）をしたし、ガッシュウコクも「ミンカンジン」をまきこむセンソウをした。どっちもモンダイだ。

ななジュウロク、『む』ジュウク

むかし、「ブブンテキ（ゼンタイテキでなく）なヘイワをみとめるか」といふといをかん

がえていた。なんかおおきなことをかんがえているからわかいとおもうのだが、それぞれのドリヨクではないかといまはおもう。「ブンテキなヘイワ」じゃなくて、「ヘイワシサン（ザイサン）」があると。それぞれの「ヘイワシサン」をどうそれぞれがあつかおうがそれはキホンテキにジユウであろうと。いってみれば、「ジユウヘイワシュギ」だ。イチバンはじめに かんがえたそのころは、しごととはコウムインが いいのではとおもっていたりしたのだが。

ななジユウシチ、『む』ニジユウ

「なんでいきているのか」ととわれたとき、「なぜ」というイミなら、「なにかをたべるから」とこたえ、「なにが」「いきさせるのか」なら、「ブッシツがうごけるから」とこたえる。そのこたえだと、もし、ブッシツがうごかないようだったら、「いきられない」んだろう。たとえばまわりのオンドがひくいとか（それだとブッシツのジョウタイがコタイばかりになる）。そういうブッシツが「うごける」ジョウケンがあるからいきられると。

エキタイやキタイだとブッシツはうごけるカノウセイがある。だからタイヨウからとおいカセイより、スイセイ、キンセイのホウがセイブツはみつきりそうだとおもうが、そういう、エキタイセイブツとかキタイセイブツはソウテイガイなのだろうか。

ななジユウハチ、『む』ニジユウサン

「ジブンらしさ」をツイキユウするなら、いまのニホンでは「ニホンセイ」のたべものをたべるヒツヨウがあるかもしれない。もちろん、ニホンジンドウシのケンカもあるだろうが、すくなくとも「ニホンジン」であろう。もっと「ジブンらしく」なりたかったら、あなたのいえのにわにはえ、かつ、ほかのだれもたべていないくさでもたべるといい。それは、あなたしかたべないから、すなわち「あなたらしい」。でも、フツウの「ジブンらしさ」をもとめるのだったら、ほかのひともたべているものをたべるだろう。あなたがジミントウシュギシャだったら、「(アメリカ) ガッシュウコクセイ」のたべものもたべていいのだとおもう（そのわけは、●『ア』ロクジユウサン、ヒャクゴ、ヒャクロク、ヒャクゴジユウキユウ、ヒャクロクジユウロク）

ななジユウキユウ、『む』ニジユウロク

リサイクルのツゴウでゴミをブンベツしなければいけない。とはいってもゴミばこはひとつだから、しょうがなくゴミぶくろにまとめたりする。ゴミばこを ふたつにすればカイショウされるモンダイであるが、ふたつもおくと あきクウカンがなくなってくる。いいカイケツホウをさぐっている。ゴミばこを たてにチョコレツにおくとか。

ハチジュウ、『む』サンジュウヨン

ジカンを「エル（アルファベット）（ロコモティブ）」ではかるとしたら、キオンがとてつもなくひくくなれば、セイブツはウンドウが（つまり、キタイ、エキタイがトウケツして）テイシされるだろうから、いきられない（●サンジュウニ、『ア』ヒャクジュウゴ、ななジュウシチ、『むしのツゴウニンゲンのツゴウ [イカ、『む]]』ニジュウ）というかジカンがそのコタイについてはながれない。だから、ニンゲンは（いきられる）うごける、つまり「エル」であるが、きびしいジョウケンでは「エル」にはならない。ニンゲンのイッショウをかりに「エル」とすると、そのナイヨウは、ニジュウヨン（ジカン）かけるサンビャクロクジュウゴ（ニチ）かけるハチジュウ（ネン）になる。ケイサンすると、ナナジュウマンハッピークである。このスウジを、ウンドウのおそいジョウケンでかんがえてみる。たとえば、ハチわりのはやさだったら（さむいところなどで）、「エル」はドウイツジョウケンとしてかわらない（ウンドウのソウリョウはかわらない）が、ソウリョウがナナジュウマンハッピークとしても、そのウンドウ（ソウリョウ）をカンリョウするのに、ハチジュウナナマンロクセン（ヒャクサイ）かかることになる。つまり、テイオンでセイゾンしたほうが、ウンドウのソウリョウはかわらないとしても、ニジュウサイながくいぎられるカノウセイがある。つまり、さむいくにのホウが、ながくいぎられるということである（ジウサイみなみのくによりキタのくにのホウがながくいぎである。）。

ハチジュウイチ、『む』サンジュウハチ

セイジカがまるばつセンセイのセツを インヨウしてかたったけど、まるばつセンセイはそれはちがうといいはじめることもあるだろう。そうすると、トウヒョウシャからの「シジ」がわるくなるから、セイジカはむかしのことばとか、しんでしまったひとがセイゼンっていたことをいえばアンゼンだ。しかし、そこに、「レイコン（たましい）のフメツ（なくなる）」みたいなかんがえがドウニュウされると、そういうこともいえなくなる（レイコンにヒテイされてしまうからだ）。そうすると、ゴジブンのことばでいいはじめるのだろうか。そのホウがセイジカのシツがよくなるような。すくなくともセキニンテンカはできなくなる。そういうわけで、セイジカのシツをあげたきゃ「レイコンのフメツ」をドウニュウすればよい。

ハチジュウニ、『む』ヨンジュウイチ

「かんがえる」とよくいうが それはアンガイかなしいことばかもしれない。「カン」がえられたのであるが、それを「かえて」しまうということでないか。だから、「かんどおり」とか「かんすすめ」とかだったらかなしくないのではないだろうか。

ハチジュウサン、『む』ヨンジュウニ

ストーリーという。これには「ものがたり」というイにくわえて、「(たてもののたかさによる)カイ」というイがある。だから、あるカイソウでのまとまりというガンイがあるのだろう。だから、そのひとにあわないストーリーがある。デパートでかんがえれば、サンカイのフジンフクうりばはわたしにはあわないとかだ。デパートでなくても、とくにカイキュウシュギなら(ニホンではイチオクソウチュウリュウといわれるが)、それぞれのはなしをもつだろう。だから、ガイコクセイのコウキュウヒンというのはショミンテキではないストーリーをもつのだろう。イチジキやたらとコウキュウヒンをかうニホンジンがいたらしいが、まあタショウそういうストーリーにふれることはできても、ほかのコーディネートができていなかったのではとおもう。

ハチジュウヨン、『む』ヨンジュウサン

コウジョウなんかではニジュウヨジカンソウギョウをしている。なぜはじめたかはセイカクにはわからないが、コキヤクにはやくセイヒンをとどけたいからとかキカイをレンゾクでつかいつづけたいからとかなんだらう。そうするとシンヤにはたらくニンゲンもヒツヨウになる。そういうひとがいないとニジュウヨジカンソウギョウはなりたたない。ショウテンもニジュウヨジカンエイギョウをしていたりする。いつでもかいにいけるのでベンリだ。しかし、なぜニジュウヨジカンガッコウがないのか。ニジュウヨジカンソウギョウやニジュウヨジカンエイギョウのキギョウではたらくロウドウシャがいるはずなのに。かんがえてみれば、シンヤにあつまるショウニンズウをあいてにジュギョウをやるのはヒコウリツである。だからそういうジュヨウは、オンライン(ツウシン)がみたすのであろう。

ハチジュウゴ、『む』ヨンジュウヨン

「レイセン」とかいったりする。まあ、ケイヨウテキなことばかもしれないが、ジツサイにそうなるとやっぱりさむいのだろう。ニセンジュウニネンのふゆはさむかった。あるところでは、そのてのアニメエイガができるほどさむかったのだろう。ただ、ニジュウネンほどまえ、「ロウドウカンレイキ」みたいなことばがあった。いうホウはあまりきにしないようだが(わたしもおなじことをしているカノウセイがある。)、そのことばをブンカイして、「カンレイキ」になったらたまらないとおもう。どうしてそういうことをいうのかであるが。たまにそういうひどいことばにでくわす。

ハチジュウロク、『む』ヨンジュウゴ

「デザート」とはむかしよくきいたものだ。しかし、サイキンはそのてのものを「スイーツ」というようだ。たしかに そのホウがセイカクなようなきがする。イッタイいまではなにに「デザート」というのであろう。「デザート」は「コウロウ（よいつとめ）」というイミがある。あまいカシなどは、まったくひとのショクヨクをみたす「コウロウ」をするものであり、またそれをショクするひと「コウロウ」をなせしものがふさわしいであろう。たいしていいこともしないのに、あまいものにくらいつく というのがいまのリュウコウで、それなら「スイーツ」にしようとかだれかがかんがえたのではないか。

ハチジュウシチ、『む』ゴジュウイチ

(たべる) ショクがみだれると、(ビョウキをなおす) イリヨウにかねがかかることになる。タブン、ニホンジンなんてイリヨウにかねをかけすぎだろう。コジンのカンテンから見ると、そんなにイリヨウにかけているきはしないが、ホケンだ、ホジョキンだではらうガクがひくくおさえられるからだろう。ジッサイはケッコウなガクがかかっている。ショクがみだれるのも、やくわりのセンモンカがすすめばしかたないかもしれない。ショクという ニンゲンのもっともキソテキなこと「ガイチュウ」するからである。いっそのこと メニューのセンタクまでセンモンカにまかせてしまえばいいが、さすがにそこまではできないであろうから、エイヨウのジョウタイがよくなくなるのであろう(そういうブブンはセンギョウシュフがよくやっていたのだとおもう)。ニホンのわかいひとそうだが、ハッテントジョウコクなどで、そういうシッパイをくりかえさないようにとおもう。そういつつ、わたしもガイチュウをしているのだが(エイヨウはかんがえています)。

ハチジュウハチ、『む』ゴジュウニ

こどものころかったテレビゲームキは、「クロウ」だったのではないかとおもう。あれにシュウジュクしたところで、ゲンソウしかのこらない(コウウンにも「メイジン」になれたところでたいしてかせげるとはおもえない)。ホンでもよむべきだったのだろうとおもう。ただ、そういう「バカ」なわかものは、ロウドウシャとしてはつかいやすいのかもしれない。ただ、そのゴに「ジュケン」とかあったから「バカ」ではなくなっていたかもしれない。それもかんがえると「チュウトハンパ」だ。としをとってくると、わざわざクロウはかってきたくない。そういうわけで わたしはこのごろテレビゲームをやっていない。「クロウはかってでもしろ。」とだれかがいっていたのをおもいだすが(「わかいころの〜。」だったかとおもう)、そんなのをわざわざかわなくても、ほかのクロウがある。

ハチジュウキュウ、『む』ゴジュウサン

ヨーロッパでは、ローマのシハイからドクリツしてくにをつくり、やがてあらそいはじめた。そういうレキシをかんがえる（さきのシテキどおり、「かんどおらせる」といったホウがいいかもしれない。[●ハチジュウニ、『む』ヨンジュウイチ]）とニホンもチホウブンケンをすすめると あらそいはじめるのではとおもう（おきなわのベイグンキチでもめているが、あれを「したることか」というようになったらもうドクリツさわぎだろう）。すでにあらそったレキシはある。あらそわないように うまくやるのがダイジなのだろう。そういうしくみができるかというのがチホウブンケンのカダイなのだろう。

キュウジュウ、『む』ゴジュウゴ

ちかごろは、なにかのサギョウをおえるときに、～を「ソツギョウする」といういいかたをするひとがいる。しかし、「ソツ」というのは、ゴリンジュウのイミがある。そのひとたちがいうのは、「ギョウ」をおわらせてしまうというイミだろうが、ガクモンや わぎや ダンタイをシュウソクされてはこまるメンがある。こういうかんじだから、ニホンジンはガッコウや そのガクセイセイカツをすんなりと「ゴリンジュウ」させてしまうのかもしれない。せめて、「わたしにかぎっていえば」「ソツギョウしました。」とかのシュゴや セツメイがあるといいとおもう。どうも「～を」というのにジュウテンがおかれているように おもってしまう。

キュウジュウイチ、『む』ゴジュウキュウ

あるくからかんがえる。とはわたしのイッサクめのホンのダイだ。あるくからシゲキがえられてかんがえるというイミだ（●ヨンジュウハチ、『ア』ヒャクロクジュウニ、ゴジュウ、『ア』ヒャクロクジュウヨン、ゴジュウハチ、『ア』ヒャクハチジュウサン）。しかし、あるくならトカイよりいなかのホウがいいだろう。それは トカイだと、タイテイのものはサクシャがセツメイすればわかるようになる。だが、いなかだと、そういうセツメイはえられない（モチロン、ガクシャのセツメイやカセツはあるだろうが）。だからかんがえる。

キュウジュウニ、『む』ロクジュウ

ビル（カンジョウがき）が たくさんたまるとケッコウなたかさになる。モチロンつめばであるが。イッコイッコすばやくケツサイしていけばたかくはならないが たまると たかくなってしまふ。ちかごろは むかしよりよくためているのだろうか。なぜなら コウソウのたてものがふえているからだ。エイゴではビルディングというが、ニホンでは「ビル」といわれたりする。つまりたかいビルが たった というとき、たかく カンジョウがき

がつみあがったともべつのセンでいえるのである。ホントウにカンジョウがきがつみあがっているのか。かんがえてみると、タジュウサイムでジコハサンみたいなはなしがたまにある。ジコハサンはカンジョウがきがショリできなくなっておこることだ。あまりきかないがジツはよくあるのかもしれない。ビルのかずだけ、カンジョウがきがつみあがっているといえるのであろうか。

キュウジュウサン、『む』ロクジュウサン

「カイケン（ケンポウカイセイ）」さわぎなどあったりする。これはみおとしがちなのであるが、いまのケンポウには、ショク（たべる）のジユウが「ある」とはかかれていない。「グルメ」だのなんだのはなしをきくと、ちょっとやりすぎかとおもう。そういえば、おさないころ、おやじに「いやならたべるな。」といわれたものだ。おやじはセンソウもしているセダイなのでセットクリヨクがあった。たしかにケンポウに「ジユウがある」とはかかれていない。もし、そのジユウをみとめてしまうと「ガッコウキュウショク」もなりたなくなるかもしれない。あまり、「ショク」にこだわらないというのはダイジだろうか。

キュウジュウヨン、『む』ロクジュウシチ

たしざんってというのはカンタンなようにおもえるが、それは、どこかでひきざんがなりたっていないとフカノウだ。たとえば、ニヒャクエンのさかなをキヤクにうるとなると、「さかな」イッピキがひきざんされてかわりにニヒャクエンをうけとるわけだ。さかなはムゲンにあるようだが、やっぱりエサとかシゲンに かがサユウされる。ジブンのこづかいをひきざんするというのはつらいが、ベツのものをたしざんするためにしかたなかったりする。

キュウジュウゴ、『む』ナナジュウヨン

なぜガッシュウコクのひとたちが「ショウヒ」のケンインヤクとされるのか。それはタブンガッシュウコクのひとのいえがおおきいからである（ここではブツリテキにおおきいといっている）。だから、ガッシュウコクのひととくらべてニホンジンのショウヒがすくない（ショウヒがのびなやんでいる）というのはやむをえないことだろうとおもう。ニホンジンのいえは「ちいさい」といわれるし、いえのおおきさのハンイでしかものはシュウノウできないからだ。そういうわけだから、「ものがうれない」というのをなげくのだったら、「おおきな」いえをたてることにキョウリョクしたホウがいい。

キュウジュウロク、『む』ナナジュウキュウ

「ヘイワ」というのは、ちいさくはあったかもしれないが、おおきくはなかったかもしれない。いまでも、どこかどこかがどこかであそびている。ニンゲンがセンソウジョウタイをキソにしているとすれば、ヘイワはニンゲンがシンカしないとタッセイできない。つまり、あたらしいノウ（あたま [●サンジュウキュウ、『ア』ヒャクサンジュウハチ、ロクジュウニ、『ア』ヒャクキュウジュウハチ]）をハッタツさせなければヘイワはタッセイできないだろう。そのあたらしいノウをハッタツさせたひとがふえていくと、だんだんヘイワになっていく。でも、その「ヘイワ」はシンカのケツカタッセイされるあたらしいものだから、ジュウライの「ヘイワ」とよべるかはギモンだ。まあかりに「あたらしいヘイワ」にしとくか。

キュウジュウシチ、『む』ハチジュウハチ

ビーダマをなにかのまわりでシュウカイ（まわる）させようとする、タイヘンなエネルギーがヒツヨウであろう。デンキでうごくくるまをつけてまわすではいけない。そのものをまわすのだ。チエシャならもっといいアンをかんがえるかもしれないが、タブンセンタクキのようなところに入れてしまえば、まわりつづけることができるだろう。それだってケッコウなエネルギーだが。つまり、あるクウイキがまわっているというかんがえかたをすれば、チキュウのコウテン（レヴォリューション）をセツメイできる（チキュウが「まわっている」のではなくて、クウイキが「まわる」とかんがえる。これがわたしのゼンチョ『アルクカラカンガエル』でとなえたクウカイロンである。ダイニテンドウセツといえるかもしれない。●ヨンジウキュウ、『ア』ヒャクロクジュウサン）。このばあい、「センタクキのカイテンリョク」、もっといえば、「モーターのカイテンリョク」がわたしのいう「うずまきリョク」である。チドウセツ（ビーダマはうごく）、テンドウセツ（クウイキがうごく）でもある。

チキュウがコウテンするのはセツメイできるが、「うずまきリョク」とはなにかというのがまだセツメイできていない。タイヨウがそれほどのエネルギーをもつのかというのは、ビーダマをまわすジッケンをすればわかるが、ソウトウなエネルギーだともう。

キュウジュウハチ、『む』キュウジュウヨン

よく「セイジ」とか「セイジカ」とかいう。なぜそういうかはレキシ（もしくはカコのジンブツ）からきている。（チュウゴク）シンのくにのオウジセイはシンのくにをつぎ、やがてチュウゴクのほかのくにすべてをほろぼし、コウテイとなのるにいたった。デントウテキナオウコクは、シンカのものにリョウドのイチブをあたえるが、シンではグンケンセイをとっていた（コウムインがチホウをおさめる）。また、ホウ（リツ）によるトウチもおこなっていた。このシンテイコクは、ほろぼされたオウコクがハンランをおこしたり、イヤク（くすり）やノウギョウなどのショモツをのぞいたほかのショモツをやきはらったり、シンカのものがにげだしたりするようなキュウクツなテイコクであった

が、ジュウリョウやはかりのタンイをそろえたり、モジをトウイツしたりとそれなりのケッカをのこしている。そういうシンのシコウテイ「セイ」のなまえをとって、セイヂ(セイのチ [トウチ]) というのだろう。ヨウするに、いまでもくにのウンエイの てほんになっているわけである。

たとえば、グンケンセイやホウチシュギである。だから、チュウゴクとちがうことをしたければ、「セイジ」ではなくて「ムジ(つとめる、おさめる)」としたり、「セイフ」ではなくて「ムフ」とかにすればよい。「セイジ」や「セイフ」はそういういわれがあるゆえに、バッポンカイカクは むずかしいだろう。

キュウジュウキュウ、『む』ヒャクヨン

ひとはなぜ「フロ」にはいるようになったのだろう。わたしがおもうにきもちがよかったのだとおもう。ただ ゲンショのころの「フロ」はいわゆる「フロ」ではないとおもう。タブン、かわとか みずたまにはいったのだと。それがあまりに きもちよかったので、トカイやジブンのいえにも「みずたま」をつくりだしたのだろう。さらに だれかがみずをあっためるようにしたのだろう。それがいまゲンザイでもつづいている。ただ、みずをタクサンつかい、ネンリョウもつかう「ゲンザイケイ」のフロははっきりいってゼイタクだ。

レキシをみると、ネンリョウをタクサンつかい、サバクになってしまったチイキもある。そういうのをまねすることはない。みずにしたってダイジなシゲンだ。なかったらセイカツできない。だから わたしは ここのところ フロにつかるのをジセイしている。かねもちは ゾンブンにフロにはいっていいかもしれないが、そんなにザイサンのないニンゲンはすこしのシゲンでクフウしていかなければならない。だから、(センメンキ) サンバイのみずでかみをあらったり、からだをあらったりだ。なつはカネツしなくてもきもちいいのでヨクソウにはいる。きもちいいからだ。それはナンゼンネンとかわらないのだろう。

ヒャク、『む』ヒャクゴ

フロは「かわ」や「みずたま」に ひとがはいってからできたとかいた。そんなきもちいい「かわ」や「みずたま」であるが、いまではいじわるしてはならないようにさせているといううわさをきく。たしかに、かわのてまえにサクがはりめぐらされているところがある。そういうところでは、サクをのりこえないと「かわ」にはいれない。まあ、ジコをシンパイしているのはわかる。

ただ、こどもならともかく おとなはダイジョウブだろうとおもう。だから、おとなは、「サク」をのりこえて かわにはいってもいいのだろうとおもう。しかし、なんとなく、「サク」をのりこえられない「おとな」からモンクをいわれそうなきがする。やっぱりかわにはいりたいのだろう。なんかのシカクシケンなどでは、あまりそういうモンクはでていないようだが、「サク」をこえてかわにはいるという シカクシケンでは モンクがでそうだと。

ヒャクイチ、『む』ヒャクロク

どうもかんがえてみると、わたしは、チュウシヨク（ひるごはん）のモンダイをかかえていた。「あさごはんをたべないと～」というはなしをきいたことがあるが、まったくそのとおりだとサイキンはおもっている。「ひるごはんをたべないと」やっぱり「～」である。もっともいまでは なにかをたべるのであるが、キュウシヨクのあるシヨウ、チュウガクセイのころは（わたしのばあい そのキカンのおおくがベントウだったが）まともであったが、コウコウセイのときに、ジブンでチュウシヨクをかっていくことにしていたら、まもなく、ジュギョウをうけるのがいやになった。ひるに パンと のみものをインシヨクし、あまったおかねでシィディをかった。そのおかげでオンガクにはくわしくなったが、コウコウセイのキョウカシヨにはくわしくならなかった。

「パン」でもいきられるが、エイヨウをかんがえると「ジュウブン」ではない。ベンキョウをしたかったら、ひるはガクシヨクでおやこドンやカツドンを食べればよいだろうが、トウジのわたしにはそういうチエがなかった。まあ、コウコウセイのころは、そういう「シヨク」と「セイカツ」についてまなんだとおもえばわるくはないとおもう。キャツカンテキにいえばエイヨウブソクでどこまでやれるかのジッケンであるが。「めし」は、「めす」という「よぶこと」をあらわすゴからきているから、ジブンがひとりでかってきて食べるのにそういうのは どうかであるが、シヨクジはダイジだとおもう。

ヒャクニ、『む』ヒャクハチ

このまえドウロコウジをしているのをみかけた。タブン、ギョウセイがフタンするのであろう。たしかにジーディピーをあげるためにはドウロはヒツヨウだ（●ななジュウニ、『ア』ニヒャクサンジュウイチ）。ドウロをいいジョウタイにしておけば、ジーディピーは あがりやすい（なぜならシヨウヒンがはやくとどき、とりひきがカソクされるからだ）。でも、デンシツウシンにゼイキンをトウニユウしたとはきかないから、ギョウセイはゲンブツシュギなのだろう。やっぱりいまではとりひきに デンシツウシンをつかうから、それをエンカツにおこなえるようにすれば、ゲンブツのうごきはともかくジーディピーはあがる。まあ、ゲンブツがダイジだからいいが。

ヒャクサン、『む』ヒャクジュウイチ

きょうもジーディピーがうごく（●ヒャクニ、『む』ヒャクハチ）。なんでもジーディピーをニワリゾウカさせようというのがセイフのモクヒョウらしい。ということは、いまま

でよりもニジュッパーセント うごかすソクドをあげて、あいたジカンでやっぱりやりとりすれば ジーディピーはあがる。ただ、ヨユウができて、やりとりするとはかぎらない。チョクするというセンタクシがあるからだ。

じゃ、ジーディピーは あがらないのか。ひとつホウホウがある。ツウカにショウヒキゲンをつけてしまうのである。そうするとつかうしかないの、ジーディピーはあがるとおもわれる。ただ、そうすると、ショウヒキゲンがないツウカにかえてつかいはじめるだろうからコウカはゲンテイテキだ。やっぱり、ニジュッパーセントおおくはたらかなければなのだろうか。

ヒャクヨン、『む』ヒャクジュウニ

ことしも「みずブソク」といっている。みずのセツヤクをかながえたのは、ニネンまえになるが（●『ア』ジュウ、ニジュウサン）、やっぱりそれはダイジなようだ。ベンジョにながすのを サンカイにイッカイとかゴカイにイッカイにしたりセイカツハイスイでながしたり。イチバンタイセツなのはノウギョウだ。そういうドリョクをして ノウギョウにまわす。こめみずがなければたけない。ショウリョウなら、うみのみずを ロカしたりでつかえるだろうけど、みずをはこぶのがむずかしい。だから、フロとかセンタクとか ベンジョの つかいかたをクフウするとい。フロのみずはやはり セツヤクすべきだろう。あれイッパイでイッカゲツのセイカツヨウスイが まかなえた。だから マイニチみずをかえるなど セイタクなはなしである。

ヒャクゴ、『む』ヒャクジュウサン

ニホンのみずのモンダイを かかえているといえる。みずブソクだからそういうかという と たしかにそれもあるのだが、いわゆる みずブソクはヘンドウする。そういうことでなくて、コウゾウテキなみずブソクである。それは、ショクリョウのユニウにあらわれている。

ショクリョウジキュウリツがちいさくなったといっただびたびはなしになる（●サンジュウ、『ア』ヒャクロク）。ジキュウリツをおおきくするにはノウギョウをするようだ。しかし、みずブソクであればノウギョウはできない。だから ゲンジョウでは そうカンタンにジキュウリツはカイゼンしない。つまり、すでにショクリョウをユニウしなければならぬほどの コウゾウテキなみずブソクなのである（みずをユニウしているとかながえてよい）。だから、みずの ジョウズなりヨウをしないと ジキュウリツがあがらないし、ショクリョウのセイサンがガイコクだのみになる。だから、みずをジョウズにつかうのはダイジなのだ。

ヒャクロク、『む』ヒャクジュウヨン

どこかにコウセイインがいるいえがあったとする。そのだれかが「めしがまずい。うまいものをくわせろ。」といいだしたとする。そうすると、そのことについてタイオウしなければならぬだろう。「おかあさんもがんばっているんだ。ガマンしなさい。」とだれかがいうかもしれないし、「じゃあ、スイハンキを あたらしいものにかえてみよう。」とだれかがいうかもしれない。なにがほしいかという、そういう「フマン」がセイジのはじまりではないかということ。

おおむかしも、「そこはわたしのいえのはたけだ。」「いや、わたしのいえのだ。」とあらそったかもしれない。だからトチのリヨウにかんするとりきめやトウキセイドができたのだろう。だから、トクにフマンがなければ、それイジョウのセイジはヒツヨウないかもしれない。ニンゲンのフマンに タイオウしてきたのがセイジである。と。だから、ミンシュシュギかどうかはともかく、「フマン」にうまくタイオウするのがダイジだとおもう。もっともほんものの「(シンのシコウテイの) セイジ (●キュウジュウハチ、『む』キュウジュウヨン)」は、それはほうっておいてほかのことを(キュウデンをつくったり)するのだろうけど。

ヒャクなな、『む』ヒャクジュウロク

ひとつの～といういいかたがある。「～」はなんでもいいのだが、マンジュウとしよう。「マンジュウをたべていいか。」ときくだれかがいたとする。しかし、マンジュウはフクスウあったので、「ひとつだけなら」とこたえる。ハイケイにあるジョウケンがわからないと、「フクスウ」のことをいっているのだから、「イッコ」のことをいっているのかわからない。だから、「イッコ」とつけくわえるとわかりやすい。そういうのはメンドクさいサギョウであるが、つけくわえておくとまちがえないだろう。そういう「イッコ」をつけないでつうじるとするのはソウトウなかがいいのだろう。イッコシャカイをコウセイしているかもしれない。

ヒャクハチ、『む』ヒャクニジュウイチ

ジュウボウエキジョウヤク(サイキンはエフティエーということがおおいようだが[フリートレード トリーティである])などにノウカはギモンをもっているのだろう。たしかにカンゼイがなければ、そのしなものがやすくてにはいる。しかしながら、カイガイからはいつてくるやすいノウサンブツにおされて ノウカが ダゲキをうけていいのかともいえる。カイガイから ノウサンブツをユニウして、コクナイでつくったコウギョウセイヒンを ユシュツしていればいいというかんがえかたもある(ショウヒンサクモツをタリヨウにつくって、ショクヨウのサクモツをすこしかつくらないのはよくないとわたしがちいさいころにおそわったことがある。)。なんかのリユウでユニウができなくなったらうえじにである。

むかし、あぶらをもとめてニホンゲンはトウナンアジアにシンコウした。セキユがサンシュツされるからだ。セキユがないとふねがうごかない。コウクウキもうごかない。だからセンソウをするときめたら、ただちにセキユをもとめてナンシンした。なぜナンシンせざるをえなかったか。それはオウベイがニホンへのユシュツキンシソチをとったからだ。それとおなじように、ショクリョウのユニユウがとまれば、ニホンジンはまたセキユのとときとドウヨウに、にしなりみなみなりにシンシュツするようになりかねない。

まえのセンソウでは、オウベイジンやシンシュツサキのヘイシがたまをうってニホンジンをコウタイさせようとした。しかし、ショクリョウがフソクのばあいはニホンジンをたおすには「たま」はいらない。ただくにやジンチをかたくもっていれば、そのうちニホンジンはうえてたおれていくのだ。ギャクにせめこまれてもうえがあってはまもりきれない。ショクリョウジキユウリツ（●サンジュウ、『ア』ヒャクロク、ヒャクゴ、『む』ヒャクジュウサン）がヨンわりといわれている。だからゲンジョウでは、そういうジョウキョウになってもヨンわりはいきのこる。それでも、コクナイセイサンをギセイにしてユニユウしろというのか。むかしはまかなえていたはずである。

ヒャクキュウ、『む』ヒャクニジュウニ

ケイザイのことをかたるとき、とめるものからまずしいものにと「とみ」がこぼれるということを使う。それはなくはないとおもうがむずかしいとおもう。ゲームセンターにコインをいれて、そのコインのアツリヨクでほかのコインをおとしよりおおくのコインをカクトクするというゲームをゴゾンジだろうか。なかにはジョウズな（トウシガクよりもカクトクガクのホウがおおい）ひともいらっしゃるだろう。だが、タイテイのひとは、トウシガクのホウが、カクトクガクよりもおおきくなってしまう。

ジッサイのゲームでそうなんだから、「とみ」がこぼれることをキタイしても、「とみ」のイチブがとどくまえにおおかたの「とみ」はだれかにぬかれてしまうのだろう。あのゲームはニンゲンシャカイのホンシツをおしえてくれたとおもう。ほかにケイヒンをつりあげるゲームもあった。やっぱりこれも「とみ」がぬかれるようだ。だから「さかなつり」のホウがいいかといえば、「ギョギョウケン」がどうのとやっぱりぬかれるのである。

ヒャクジュウ、『む』ヒャクニジュウシチ

はらがへるとしごとにシショウがでる。だからシヨクジをしてホキユウする。たべすぎるとふとるが、あまりたべないとやせる。シヨクジがタショウたりなくてもしごとはつづけられるだろう。ガマンとかそういうはなしだ。しかし、それがスウネンつづけばケンではないか。むかしのニホンはヨネンカンセンソウをしたことがある。ヨネンカンセンソウをしたというか、ヨネンしかもたなかったということではないか。センソウのまえ、ニホンジンはそれなりにロウドウもセイカツもしていたのだろう。つまりケンコウであったはずだ。

しかし、セキユのユニユウがあぶなくなるとカイガイにうってでた（●ヒャクハチ、『む』

ヒャクニジュウイチ)。それからセンソウである。センソウははげしいロウドウだからシヨクリヨウがタクサンヒツヨウだろう。テキとなったガッシュウコクはかたてまにセンソウをやっていたようでもあるが、くらべてニホンでは、わかものをグンにチョウヨウしたり、シゲンをテイキョウさせたりとソウリョクセンみたいなことをしていたとおもえる。それはガマンをキョウヨウしただろう。しかし、「ガマン」だけでつづくものではない。センキュウヒャクヨンジュウゴネンなつにはまけをみとめることとなった。センキュウヒャクヨンジュウイチネンからヨネンである。

そういうレキシから、ニホンジンのガマンはヨネンしかつづかないということができたかもしれない。だから、セイジカがゴネンのガマンをもとめるセイサクをシュチヨウしたらそれはジツゲンがコンナンであるということだ。

ヒャクジュウイチ、『む』ヒャクサンジュウイチ

ゴリンチュウだから、ニホンジンセンシュがとったメダルのかずをホウコクしていたりする。くにベツでみると、やはりアメリカガッシュウコクがもっともとったメダルのかずがおおい。これはわかるようなきがする。タイコクだから。そしてチュウゴクもおおい。これもタイコクになってきたからわかる。ジーディピーでいうとこのニコクのつぎはニホンがあらわれるはずである。しかし、メダルのかずではエイコクがあらわれ、さらにほかのくにがニ、サンあらわれる。ジーディピーはつまるところニンゲンのロウドウだから（サイキンはキカイやコンピューターがふえているだろうが）、ジーディピーがたかいほどいいしごとをしているはずである。だから、ゴリンでもニホンのセンシュはカツヤクしそうなものだ。でも、なぜゴリンでとったメダルのかずがゴイイカなのか。それは、ニホンのホントウのジーディピーがホウコクされているスウジよりすくないからではないか。くわしくいうと、ニホンのホントウのジーディピーはホウコクされているハンブンのスウジテイドで、あとのハンブンは、おかねをひだりからみぎにながしてムリヤリスウジをあげているのではないかと。そんなだから、ケイキタイサクをしなないとスウジがひどくおちてしまうのでそれをやめられないのではないか。たてもはやドウ口をつくるのではなく、ジツはおかねをひだりからみぎにまわすことがジーディピーをあげるためカンゲイされているのかもしれない。かりにエイコクのジーディピーがコウヒョウされたスウジよりおおきいとしても、エイコクジンはよくはたらき、ニホンジンはエイコクジンよりはたらかないかタンにニホンジンのウンドウノウリョクがひくいといえそうだ。

ヒャクジュウニ、『む』ヒャクサンジュウニ

ニホンのチュウガッコウのエイゴのジュギョウでは、「ハロー」ということばをサイショのホウにまなぶ。でもエイゴをちょっとしつていれば、そのあぶなさにもきづく。なんといったって、ジゴクをあらわすゴ（エイチーエルエル）に「オー」をつけたことば

だ。「ジゴクっぽいな。」「そうだな、ジゴク。」とかのろいことばといってもいい。しかし、「ジゴク」でなくて、ニバンめのつづりを「エー」でいうこともできる（エイチエーエルエルオー）。ホンライテキには、そちらがたやすいのだろう（どうもセイジンさま [エイチエーエルエルオーダブリュから]）。それがあそびをくわえていううちに、「ジゴクでおあいしたかたですよ。」というようにいいかたができあがったのだろう。それが「かぼちゃまつり」にもつながる。「ジゴク」なんだからとヘンソウする。しかし、ニホンのチュウガクセイがまなぶのは、そのあそびがくわえられたホウのつづりだ。センソウでまけた うらみなのかわからないが、これでは「コクサイコウリュウ」どころではないだろう。

シャシンをとるときの「チーズ」というかけごえもそうだが（●サンジュウイチ、『ア』ヒャクキュウ）、オウヨウからはいるともとがなんだかわからない。わたしも きづくのにニジュウゴネンかかった。「チーズ」は「ポーズ（ニシュルイのつづりがある。）」のオウヨウだ。チュウガクセイにいきなり、「おおアクユよ。」といういいかたをおしえてもしょうがないとおもう。

ヒャクジュウサン、『む』ヒャクサンジュウヨン

なつはあさになるのがはやい。ひるはあつから、レイボウキなどをつかわないと、しごとのノウリツがあがらない。はたけしごとは だからあさにする。オクガイまでレイボウはきかないからである。それなら もっとソウチョウから フツウのしごともすれば ノウリツも あがるとおもうがザンネンながら デンシャがうごいていないのでツウキンはできない。そのイッテンのためにわざわざレイボウをつかってしごとをするようになる。セキユのショウヒリョウがふえる。それをセツヤクするならやっぱりあさがたのやりかたにかえたホウがいいとおもうが。あるセンシンコクでは「なつジカン」をドウニュウしている。たかがイチジカンらしいがそういうことだとおもう。

ヒャクジュウヨン、『む』ヒャクサンジュウロク

「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないから「ビンボウ」なのか、「ビンボウ」だから「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないのかわからない。イッパンテキには「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないことと「ビンボウ」なのはカンレン（ヒレイ）するだろう。しかし、これらのどちらがききにハッセイするのかは あまりセツメイされない。

あるひとは「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないから「ビンボウ」というだろうし、あるひとは、「ビンボウ」はつぎのセダイにケイショウされる（つまり「ビンボウニン」は「ビンボウ」のまま）という。だから、「ビンボウ」をカイケツするために、「キュウリョウ」をあげようというはなしはよくきく。そうすると、「キュウリョウ」があがったから「ビンボウ」ではないというロジックだ。しかし、「ビンボウ」

だから「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないといういいかたはあまりしないし、「キュウリョウ」をあげずに「ビンボウ」をカイケツするよなはなしはあまりきかない。

わたしがおもうのは、「ビンボウ」なひとは ショクセイカツがまずしくながいロウドウジカンに タイオウできずにいて、したがってキュウリョウがすくなくなってしまうというジョウキョウがハッセイしているのではないかということ。それをカイケツするのは ショクセイカツをカイゼンするのがいいが、「キュウリョウ」がすくないと、ほかのセイカツヒもあるから、なかなかカイゼンしにくい。だから、「ビンボウ」と「キュウリョウ」がすくないというアクジュンカンがハッセイしてしまう。そこに「キュウリョウ」をあげるようなジョウキョウをつくると、「ビンボウ」なひとの ショクセイカツがカイゼンされるカノウセイがでてくる。しかし、そのあがったブンをテレビコウニユウにつかってしまうと、ショクセイカツはカイゼンされない。だからまた「ロウドウジカン」がすくないままになる。そうすると、そのひとをコヨウしているキギョウの フタンだけがふえる。それがわるいようにつづけば、キギョウのギョウセキがアツカして、サイアクのばあい トウサンしたり、ジンインサクゲンにふみきって、そのひとは カイコされるかもしれない。それではその「ビンボウ」なひとはさらに「ビンボウ」になってしまう。だから、キュウリョウがあがったブンをそのひとの ショクセイカツのカイゼンにつかわれるのなら（ショクセイカツのカイゼン、ロウドウジカンのエンチョウ、キュウリョウのジョウショウと）「ビンボウ」なひとの「ビンボウ」のカイゼンにやくだつが、ほかのなにかにつかってしまうようだとキギョウのフタンばかりがふえる。だから、ひとのリョウシンやリョウシキをしんじないのだったら、タンジュンに「キュウリョウ」をあげるの は さけるべきだろう。

「ビンボウ」なひとは「ビンボウ」なままだといういいかたもあるが、ニホンジンは センソウにまけて あまりゆたかでないジョウキョウからセンゴシュッパツした。かならずしも「ユウフク」になったとはいえないだろうが、それなりにセイチョウしたといわれる。チュウゴクも「ゆたか」になってきているという。だから、「ビンボウ」をカイゼンするのは、やりかたをまちがえなければ カノウだとおもう。

ヒャクジュウゴ、『む』ヒャウサンジュウシチ

わたしは、サイキン デントウテキな ニホンシヨクの チョウシヨクからとおざかっていたが、ひさしぶりにナットウとたまごをたべた。おもいだしてみると、あとうめぼしとか（サイキンのベントウは うめぼしがみられなくなった。）、のりとか、たらことか、つけものがあったとおもう。チュウイぶかくみると、たまごと たらこは ドウブツのこどもがらみである。こうしたものを むかしはたべていたから ニホンジンのこどものかずがふえたのかとおもう。ジカンがあつたら、たまごやたらこのシュッカリョウと ニホンジンのこどものかずのソウカンケイスウ（カンレンのつよさ）をケイサンしてみたい。サイキンのわかいひとは たべないから「ショウシカ」なんだとおもうのである。

ヒャクジュウロク、『む』ヒャクヨンジュウヨン

ジンルイシのショキには「アイ」はなかったようにもおもう。「アイ」がなかったというよりも、「アイ」というコンセプトがなかったんだろう。「アイ」があればセンソウはおきないかもしれないが、レキシをみるとたびたびセンソウがおこっている。トクに、ニジュッセイキのセンソウはおおきかった。だから セカイタイセンなどとよばれる。じゃあニジュッセイキのひとは「アイ」がすくなかったのか。ヘイワなジダイにくらべて「アイ」がすくなかったかもしれない。なぜニジュッセイキのひとは「アイ」がすくなかったのか。ジンルイやジンルイの「アイ」は シンポしてもよさそうである。

ひとついえそうなことは、「アイ」を「かね」にかえるようになったのではないかということ。いってみればシホンシュギのヘンカである。ウェーバー（ドイツのシャカイガクシャ）さんはキンヨクテキにはたらく キリストキョウのカイカクハがシホンシュギをハッタツさせたといったが、そのケツカは たしかにシホンシュギをハッタツさせたかもしれないが、そのひとたちがくらすくにはショクミンチをもつようになった（ていた）。そこからゴウインなサクシュもしただろう。それなら、キンヨクテキなひとはたらきというよりも、カクトクした ショクミンチのとみがシホンシュギをゆたかなものにしたんだろう。サクシュがあるようなケイザイタイセイは（そのタイセイをシジするひとは）「アイ」があるとはいわない。

なぜ ショクミンチでサクシュしなければならなかったか。ひとつはロウドウケイザイのヘンカだとおもう。つまり コヨウされるひとの「アイ」、わかりやすくいうと、ジカンをコヨウシャにあずけ、かわりにかねをうけとるという「アイ」を「かね」にかえるロウドウがタスウをしめるようになり、また、そのキギョウタイは、ほかのキョウソウアイテときそうようになっていたのだろう（コジンケイエイのショクもあっただろうが、すくなくなっていったのではないか）。そうすると、われさきにとほかのチホウでサンシュツされるケンエキをカクトクするようになるだろう。イッポウ、コジンショウ（ジエイギョウシャ）は「アイ」をたもてていたともおもえる。ロウドウシャをコヨウするキギョウタイのショウウシャはあつめた「アイ」で ゆたかなセイカツをおくったかもしれないが（ただし、かねは でていった）、ヒコヨウシャは「かね」をうけとるかわりに「アイ」がすくなくなる。つまりあれるのである。ダイタイ、キギョウのショウウシャよりヒコヨウシャのホウがおおいから、かずのモンダイでシャカイはあれていく。キョウカイもちからをうしなっていた ときく。

ニジュッセイキには ミンシュシュギを とるくにがおおかったからそれはセイジにハンエイされる。だから、センソウがおきたのだろう。ハンセイとして、「アイ」はあるテイドに「かね」にかえないようにとか、いくらシャカイがあれてもセンソウをしないようにとか あれたシャカイをなだめるしくみをつくるようにとかが いえるとおもう。

ヒャクジュウなな、『む』ヒャクヨンジュウロク

どどこジンと なになにジンの コンケツのことを「ハーフ」という。「コンケツ」といっても「ち」がまざっているのではなくて、イデンジョウホウという セッケイズがまざっている。こういうひとは「コクサイカ」のシンテンにともないふえてきているだろう。しかし、つぎにあげるひとは「ハーフ」とよべるだろうか。ニホンサンのこめをたべ、アメリカガッシュウコクサンのニクをたべているひとたちである。

イデンテキにはニホンジンだとして、ニホンのこめをたべるわけだから、からだのセイブン（イデンジョウホウでない）はハンブン ニホンセイである。ところが、アメリカガッシュウコクサンのニクをたべるので、からだのセイブンのハンブンはガッシュウコクセイとなる（ランボウないかただが。）。そのひとはジュンスイなニホンジンとよべるのだろうか。こういうひを「コンニク」ということにする。ゲンザイは、コクセキなどはケットウシュギで きめられるために、ギョウセイテキにいえば このひとはイデンシが ニホンジンゆえにニホンジンとされる。だが、セイブンからいえば、「ハーフ」だろう。ジンタイの「セッケイズ」がダイジなのか、「ゲンブツ」がダイジなのかむずかしいモンダイである。

ヒャクジュウハチ、『む』ヒャクヨンジュウハチ

いいカンキョウだと、しごとがはかどる。わるいカンキョウだとみのキケンをかんじたりしてしごとは はかどらない。いいしごとをしたきやいいカンキョウをつくるのがいい。ヨーロッパなどでは、ナンミンがはいつてきてちょっとカンキョウがかわってきているのだろう。だから、ひとにはシンセツにしたホウがいいとおもいつつもフマンがつ。だれにも やさしくできるのは すごいが、わたしなんかはそうはできないとおもってしまう。だから、ジョウシキテキなカイケツでいいのではとおもう。「ミンシュシュギ」のいいところは「ジョウシキ」といかけることなのだから。サイゼンではないかもしれないが、まあまあだろう。タブン、ヨーロッパのひとたちのジレンマは、みすててしまつてよいのかということではないか。わたしなんかは できるかぎりのことをしてあげればいいのではなかとおもう。たしかになやましいが、できるイジョウのことはできない。ただ、そんなやませるブンカは いいブンカなんだろう。

ヒャクジュウキュウ、『む』ヒャクヨンジュウキュウ

いやなことが あつたりする。しかし つぎのシュンカンにはそのいやなことをわすれてわらつていたりする。ジブンやジブンのセイシンがあたらしいジカンジクに ながされていのか いやなことが カコのホウにながれているのかはわからない。しかし、イチドもおもいださなければそのいやなことは カンゼンにわすれられるだろう。

エイゴのベンキョウをしていると、ラテンゴがたまにでてくる。また、ラテンゴから ハセイしたタンゴもおおい。ラテンゴはローマジダイから つかわれていたとおもうが、そのゴ さらに スペインゴやフランスゴや エイゴなどができていったとおもう。タブン

ローマのシハイがよわまるにつれて それらのゲンゴがハッタツしたのだとおもう。ただ、ローマジダイからタショウのチホウゴはあったのだろう。いまでは、ベツのゲンゴ、ベツのコッカというわけである。イタリアゴというものもある。ローマがあるのになぜともおもう。しかし、ニホンにも コゴというのがある。なぜおなじチイキであるのにもかかわらずコゴと ゲンダイゴがソンザイするのか。こたえは さかえていた トシのちがいにあるかもしれない。

イタリアでは レキシテキに ローマがつよかったが、やがてホクブのトシのホウがつよくなった。ニホンでは レキシテキにカンサイがつよかったが、トウキョウがつよくなった。そのつよさをヒョウゲンするために ことばもベツにしたというかんがえかただ。また、かつてつよかったチイキがまたもっともつよくなったら、むかしのことばをつかおうというキウンになるのであろうか。

ヒャクニジュウ、『む』ヒャクゴジュウ

ニンゲンのレキシは シハイと ドクリツでかたれるかもしれない。あるチイキで シュリュウハとカットウがあるひとたちは ドクリツして あたらしくくにをつくったりする。どこかに つよいくにがあると、そのくにがよわくなったときに ブンリドクリツしたりする。なぜドクリツするかというと、ドクリツするだけのリュウがあるのだろう。そうするとあたらしいブンカが うまれていく。それを ひと は シンカだ シンポだいうかもしれない。

ショクブツやドウブツのレキシも アンガイ そうなのかもしれない。ショセツあるだろうが、チキウのゲンショはいわがもえているとかそういうのだったろうから、タンサイボウセイブツができて、くさができて、むしができて、ヨンソクドウブツができてとブンリ、ドクリツを ナンカイもつづけたのだろう。だから、ニンゲンももっとシンカするかもしれない。しかし、ニンゲンには、シハイというのがあるのでそうシンカするとはかぎらない（クローンのひつじをつくっただけでおおさわぎになる。）。

チュウゴクのレキシは、だれかが うえにたち、そのだれかが つぎのひとにとってかわられるまで シハイする というしくみをえがいている。しかし、あまり ドクリツさわぎにはならなかった。なぜか、ひとびとがシハイをみとめるか、シハイにつきあったからであろう。さらに、チュウゴクで、あたらしいなにかがでできなかったとはきかない。シンポはあったということだ。いってみると、ニンゲンの「シハイ」は「シンカ」をもシハイしてしまおうとするのかもしれない。だから、シハイがつよいところではなかなか えだわかれした シンカやドクリツは むずかしいのだろう。

ヒャクニジュウイチ、『む』ヒャクゴジュウロク

ヒツキヨウシがハツメイされたことにより、ひとはそのかみにキロクするようになった。それによって、チョウブンをキロクすることも カノウになったのだが、ひとつのことをながながとかくようになつたともいえる。そうするとその「ひとつのこと」はショウサ

イに シュウシヨクされ、マルさんがそのブンをみておもう「ひとつのこと」と バツさんが そのブンをみておもうその「ひとつのこと」は ちかづいてくる。よりおおくその「ひとつのこと」をしるせば、マルさんとバツさんのおもう「ひとつのこと」はよりちかづくだらう。わかりやすいレイが ホウリツである。ホウリツのブンがみじかいと、それぞれちがったカイシヤクをするが、ながいと カイシヤクのはばがせばまってくる。なにが いたいかという、ブンがながいと、キョウツウニンシキがでしやすいということだ。それをケイモウシュギというかはともかく、「かみ」と それをつかうリョウをふやすことで、「キョウツウニンシキ」がハツタツした。それをガッコウでまなぶというのが メイジイコウのニホンのやりかただらうか。その「キョウツウニンシキ」のために、たとえばホウリツによってヘイワがもたらされる。しかし、ショウバイは、「キョウツウニンシキ」だけではなりたたなかつたりする。タンブンの ジュウドもいいものである。

ヒヤクニジュウニ、『む』ヒヤクロクジュウイチ

しごとをする。おかねをかせぐ。ここまではいい。フツウのロウドウシヤのすがたである。そのおかねをチョキンにまわすと どうなるか。むかしはともかく、いまはテイキンリなので、イッパースェントもリシがつかない。トウシにまわすとどうなるか。ゴパースェントでまわしたジュッパースェントでまわしただと、ジュウネンでガンキンがニバイになる。なんのことはない、そういうことなのだ。

ジブンの しごとをこなして キュウリョウをもらうだけではイチバイのしごとである。しかし、おかねにもかせいでもらえば、もっとセイカツがゆたかになる。だから、いまのジダイはチョキンではだめなのだらう。そのおかねのウンヨウのしかたで セイカツにさがでるのだ。

ヒヤクニジュウサン、『む』ヒヤクロクジュウサン

「みずはジュンカンする」などという。タンジュンにいえば、チジョウのみずがジョウハツして、あめになってふるといふものである。たしかにフロにはいっていると みずがジョウハツしたのか テンメンにしづくができる。しかし、なぜそうなるのか。ショウガッコウでは、みずはヒヤクドシーでジョウハツするとおそわった。ヒヤクドシーでキカするというわけである。ジッサイにフットウさせて、オンドケイではかったおぼえがある。

だが、フロのゆはヒヤクドシーにカネツするわけではない。せいぜいヨンジュウゴドシーだ。うみやいけのみずだってそう。ヒヤクドシーにカネツされるわけではない。なにになぜジョウハツするか。ひとつのかんがえかたは、 Netz が ブブンテキにヒヤクドシーにタツして、みずがジョウハツするというかんがえかただ。もし、そのように Netz が イツカシヨにあつまるのなら、そのブブンでないみずは Netz をうばわれてニジュウドシーとかに（もとのスイオンがサンジュウドシーだったとする）なるのではないか。もうひと

つのかんがえかたは、ヒャクドシーでみずはキタイにかわるというのはうそ（うそというかヒャクドシーでキカがカンリョウするところだろう。ヒャクドシーでもジョウハツするとか。）で、ジョウオンでもみずはキカするというものである。

たしかにヒャクドシーでジョウハツする。だがサンジュウドシーでもジョウハツするとかんがえる。どういうことかという、みずはキオンよりオンドがたかければ、ジョウハツするし、キオンよりオンドがたかくなければジョウハツしないとなる。これなら、なぜホッキョクのホウでゆきがふるのかをセツメイできる。なぜゆきがふるか。それは、ふゆにゆきがふるチイキでは、キオンよりスイオンのホウがたかいことがおおいのだ。だから、みずがジョウハツして、サイドひやされてゆきがふるということだ。みずのジョウハツがヒャクドシーでおこるとかんがえていたらゆきがふることをセツメイできない。

ヒャクニジュウヨン、『む』ヒャクナナジュウヨン

なぜニホンでは「エンカ」がニンキあったりするんだらう。いわゆる「サビ」というやつである。イッポウ、わかいひとはやたらあかるいキョクをうたったりする。わたしは、わかいひとのあかるいキョクよりもエンカをききたいとおもう。センソウがあって、くるしいセイカツがつづいたからあろうか。たまにきくのならちよつとあかるいかんじのキョクもすきだったりする。わかいひとのあかるいキョクは、センチュウ、センゴとシダイにゆたかになったからであらうか、なんか「カクメイ」テキなきがする。もしかすると、センチュウをムシしているのかもしれない。たしかにニンゲンは、くらいひとよりあかるいひとのホウがすかれるとおもうが、ブンミヤクをぬきにあかるいというのはちよつとわからない。わかいひとはそんなにしあわせなのだらうか。わたしは、「カクメイ」というより「カイカクハ」かもしれない。

ヒャクニジュウゴ、『む』ヒャクナナジュウロク

わたしがわかいころには、「ゲンテンホウ」でものごとをみるくせがあった。もっとも、そうなるまでにはものごとをすることがかかせない。たとえば、あるシュルイのオンガクをききこむと、ひとつのそれとほかのそれのちがいがわかってくる。その「ちがい」をもとにものごとをヒョウカするのである。あるラーメンテンのあじのヒョウカもそうだ。あるコウセイされるものちがいをもとにヒョウカする。タンジュンにいえば、ビールのメイガラにこだわるみたいなものである。「わたしは、ビーシャのビールがすきだ。」というやつだ。そのほかのビールは、「こくがすくない。」とかいって、ゲンテンヒョウカするのである。そうすると、のむビールがきまってくる。そういうことだが、サイキンは、カテンヒョウカするようになった。ビールをのめればうれしいからというのがひとつのリユウだが、ほかにもリユウがある。なぜかという、ゲンテンヒョウカできるほどタクサンをのんだわけではないからである。イチマンシュルイをのんで「サ

イコウ」のものをヒョウカしたわけじゃなく、どうせ たかだかゴシュルイのものをのんでえらんだ「サイコウ」のものだからである。ゴシュルイをのんだかもうたがわしい。つまり、ほかのひとにもツウヨウする「カガク」のようなものでなく、イッコの「このみ」にすぎないのである。ゴシュルイのビールをのんただけで、「ビール」をえらそうにかたれるほどはじしらずではないし、イチマンシュルイをのんで、それぞれヒョウカするほど「キリヨク」も「ザイリヨク」もない。だから、「サイコウ」のものからかたる「ゲンテンホウ」ではなく、それぞれのよいテンをヒョウカする「カテンホウ」にかわった。ひとのありかたも、「かくあるべき」というのがつよいと、ゲンテンヒョウカにつながりやすいが、「キョネンよりマルマルがジョウタツした。」とみれば、いやにならない。

ヒャクニジュウロク、『よろこぶゲンシジン』イチ

「ひやめしをくわせる。」などというが、「ひやめし」はあまりジュウヨウでないひとにくわせるという。つまり、だれかのいえにいて、ひやめしがでてきたら、あまりカンゲイされていないということだ。これはブンカとかフチョウであるからさからいづらい。わたしはひやめしをよくたべる。わたしのいうコウゾウシュギテキに言えば、「わたし」は「わたし」にとってカンゲイされていないことになる。そういうブンカ、フチョウコウゾウがあるのだからそういうことになる。しかし、わたしはわたしに ひやめしをだすときけっして「カンゲイ」していないわけではない。ただ、あたためる（ヒツヨウがあるにせよ）にはエネルギーがかかる。そこまでしてあたたかいものをたべたいとはおもってないからだ。これはキノウシュギテキで「エネルギー」のセツヤクがモクテキされている。しかし、ブンカやツウヨウするフチョウからすれば「カンゲイされていない」というイミがそこにあるとされてしまう。いやいやそういうことではないんだ。といっても、コウゾウをダイジにするひとからは、「カンゲイ」していないやつ、「カンゲイ」されていないやつといわれてしまう。しかし、わたしは「ひやめし」をたべることをやめない。そのコウゾウをまもることよりも、エネルギーのセツヤクのホウがユウセンされるのである。

わたしもダイブ「コウゾウシュギ」テキになったが、ときおりこういったダツコウゾウするのである。わたしはジチヨ『アルカラカンガエル』で、「ダツチ」をテイショウした（●ゴジュウサン、『ア』ヒャクロクジュウシチ）。「ダツチ」とは、あるチシキがあると、その「あることがら」にタイして、センニユウカンをもってしまうことがあるが、そういうヘンケンといったりするが、そういうみかたからダツして、ジブンジシンでカンサツしてみようということだ。そういう「ジゼンチシキ」もキョウイクなどでキョウカされたり、いくつかのコウゾウをたもっていたりするから、ユウキがないとダツコウゾウはできない。たとえば、キンリをさげるとひとがショウヒをはじめるというセツがある。ツウカのカチがさがるわけだから、ほかのものにシサンをうつすというまっとうそうなセツだが、これはかならずしもたたくない。キンリがさがるといっても、さがるキンリはセイサクキンリ（コウテキキカンとギンコウのとりひき）についてだけだから（サラキンがキンリをさげるわけではない）、ケッカ、ひととギンコウのとりひきにはそ

うエイキョウはない。さらにコクガイシジョウもあるので、ニホンではキンリがさがっても、コクガイのキンリがたかいつウカやショウケンでウンヨウすることができる。だから、キンリがさがってもキンリはさがらないのである。こういうことも「ダツチ」をするとみえてくる。

ヒャクニジュウなな、『よ』ヨン

いつからだか、「スパゲッティ」や「ピザ」がはやりだしたようなきがする。また「ラーメン」とか「パン」もなにかとうれているようなきがする。しかし、ひるごはんに、スパゲッティをたべたロウドウシャがテッコツをもちあげられるきがしないし、ひるめしにラーメンをたべたカイシャインがモクザイをタクサンはこべるとはおもえない。

ジツはそうやって、ニホンケイザイは、ちからしごとがゲンショウして、デスクワークのわりあいがふえたのかもしれない。「シヨク」のヘンカがさきか、「シヨクギョウ」のヘンカがさきかはわからないが、すくなくともタイリヨクをつかわないしごとがふえているんだろう。このケイコウはバブルのあたりから（パンとラーメンはまえからよくあった。）つよくなり、いまもつづいているようだ。きつくいえば、ニホンジンのヒンジャクカがすすんでいると。

そのころから（ケイザイの）テイセイチョウがはじまった。そういうシヨクリョウをこのみつづけるとしたら、（ケイザイ）セイチョウはむずかしいとおもう（やはりタイリヨクシヨウブであろう）。むかしのセンソウは「シヨク」にこまったらしいが、そのケツカだろう、たたかいつづけられなかった。いまはたべるものがあるとはいえ、エイヨウカのひくいものでは、たたかいつづけるのはむずかしいであろう。

ヒャクニジュウハチ、『よ』ハチ

ニホンジンにとって、このふゆはさむいものになりそうである。それはあぶらのねだんがあがるだろうからである。そうするとデンキリョウキンもあがる。くにのタンイでみれば、ユニウガクがふえてボウエキあかじがでかねない。それはつまりおおきくみたコジンのカテイがあかじになるということである。これはハイキンテキないかたなので、そんなにくらしむきがかわらないカテイもあるだろうが、あまりおかねをもっていないカテイにとってはシカツモンダイとなる。ヘンサチでいうとゴジュウイカのカテイがあかじになるということだ。つまり、ニホンのゼンカテイのハンブンが「あかじ」になるわけだ。だからネンリョウをダイジにつかわなければならない。それができなければあかじだ。

わたしはあまりさむいときは、コートきてねることにしている。チャンチャンコならワフウだが、あまりうっているのをみかけない。これがあつたかいので、ねるときにダンボウはヒツヨウない。ニツチュウにつかってもよい。ダンボウダイがセツヤクできる。とはいえ、こたつをつかっている。ヘヤゼンタイをあたためるとねつがムダになる。テンジョウまであつたかくするヒツヨウはないからだ。ブンテキにあつたかければよい。あとエネルギーをつかうのがフロだ。シャワーならつかったブンだけであるが、ゆぶねをつかうとヒャクリットリジョウをわかすことになる。だからわたしはキョクリヨク

ゆぶねにははいらない。みずあびですませるのである。

こうしたクフウで、さむいふゆをすごせばあかじはへっていく。ドリョクすればいいのである。くにのボウエキがあかじということは、コクナイのいえやキギョウのソウワがあかじということだ。なかにはくろじのいえやキギョウもあるだろう。しかし、ゴジュッパーセントイジョウのカテイやキギョウがあかじだと、もはや「チュウリュウ」とはいわない。

いまのところシサンがあるだろうからモンダイにはならないが、あかじがつづけばやがてそれもつきる。たとえばイチョウエンのボウエキあかじだとしたら、ダイタイひとりあたりイチマンエンのあかじだということになる。キュウリョウがサンジュウマンエンあれば、たいしたガクでないようだが、まみずのイチマンエンなので（ボウエキはコクサイトリヒキだからシンヨウのあるツウカでおこなわれる。キュウリョウはかならずしもそうではない。）おおきいとおもう。キュウリョウをはらってくれるだれかもイチマンエンのあかじだから、さきざきキュウリョウはへるだろう。

もしそれでも「チュウリュウ」なんてことばをつかうとしたらそれは「ビンボウ」のことだ。ネンリョウのセツヤクもそうだがほかのムダもはぶいていかなければならない。わたしはみずのセツヤクもしているが（●『む』ヒャクニジュウロク）、もっとムダをはぶいていかなければならないとおもう。いまは「フケイキ」ではなくて「ビンボウ」なのだとニンシキをあらたにしなければならぬ。

ヒャクニジュウキュウ、『よ』キュウ

ふゆになるとよくみるとりがいる。タブンきたのホウからやってくるのだろう。わざわざさむいところに行くとりがいるというはなしはきいたことがない。そのとりをよくコンビニでみかける。チュウシャジョウによくいるのだ。たかいところではないからキケンだろうに、しかしよくいる。なぜ「コンビニ」なのか。かんがえてみると、このニジュウネンで、コンビニはゼンコクテキにひろがった。いまではショウガッコウとチュウガッコウのかずよりおおくのコンビニがゼンコクへひろがった。

そこでこうかんがえるのである。あるひとがおくへリョコウにいったとする。そこでキュウにひげそりがヒツヨウになったらどうするか。そのひとがジタクちかくのコンビニでいつもかっていたとするならそのひとはリョコウさきでもコンビニでかうだろう。コンビニにあるショウヒンはゼンコクでほぼドウヨウだからである。つまりそのレイとおなじように、きたからやってきたとりもコンビニがいいのではないか。タブンチュウシャジョウでひなたぼっこしているからなつもきたのホウでそうしているのだろう。

ヒャクサンジュウ、『よ』ジュウイチ

わたしのオヤジがしんでイチネンになる。イチネンまえのキョウはビョウインにいき、コキュウがあらくなっていることをカクニンしてわたしはいえにかえた。いきている

ホウはショクジをとらなくてはいけない。ずっとみていることもできたが、ナンニチかつづき、おふくろもおれてしまうというのをさけたかった。コウタイでみればいいとかんがえた。かえってしばらくすると、おふくろかデンワがあった。それからしばらくでリンジュウだったようだ。かけつけても、まにあわなかっただろう。すぐにいえにむかえるジュンピをととのえた。

なにしろうちは、ゲンカンからいままでチョコセンでははいれない。つまりかんおけがはいらないのだ。うらにわからはこんでもらうジュンピをととのえた。タンカみたいなものにオヤジはのせられてトウチャクした。うらにユウドウしてうちにいれた。サイダンをつくってもらってソウシキのはなし。そのゴはジュンチョウにすすんで、サイゴにみたのがカソウばでの「どくろ」だ。はがジョウブだったからちゃんとととのっていた。なるほど、カハンシンのほねからつぼにいれるのだとカンシンした。オヤジもジュジョをおもんじていたからマンゾクだろう（「マンゾク」というのはどうかとおもうが）。

イッカゲツちょっとたってノウコツした。それっきりだ。ただ、オヤジは「いきること」とはどういうことかをおしえてくれた。しにそうになると、イドウができるキセイしていたちいさなむしなどはにげるのだろう。しかしイドウのできないサイボウなどはヒッシになっていきながらえさせようとする。セントウにまけたヘイとおなじだ。にげられなきゃ、ボタイをおもんじ、うちじにするかコウフクするまでたたかうだろう。「いきること」とはそんなものだ。

ヒャクサンジュウイチ、『よ』ジュウゴ

「ジカン」とはなにかというといには、あるブツタイがあるキヨリをイドウするのにかかるまだとこたえられる（●サンジュウニ、『ア』ヒャクジュウゴ、ハチジュウ、『む』サンジュウヨン）。それで、テンタイのイドウをカンサツして、「ネン」、「ゲツ」、「ニチ」、「ジ」、「フン」、「ビョウ」とはかれるようにしている。あまりテンタイをみないひとは、とけいのうごきのホウがわかりやすいかもしれない。「フンシン」がうごいたら、それがうごくまえより「ジカン」がおおきくなっている。

「もの」がイドウするばあいには「ジカン」というガイネンでかぞえることはカノウだというのにタイテイギはないだろう。しかし、それが「ジョウホウ」だったらどうか。あるデンシブンショがベツなどところにおくられるのに、それを「ジカン」がかかるといえるのか。

いまのジョウホウギジュツではチキュウナイであれば、ほぼすぐさまおくれるのである。むしろサイキンは「ラグ」などという。そういえばむかしはチキュウのうらからのジョウホウが、キタイされているよりおくれることがあった。なぜおくれるか、デンキのながれにムダがあったり、ほそいケーブルでつないでいたりしたために、「ジュウタイ」のようになっていたのだろう。それをおもいだすと、「ジョウホウ（もっといってデンキになってしまうが）」のイドウもやはり「ジカン」がかかるといえそうである。

もし、イドウにカンしてまったく「ジカン」がかかれないでカンリョウするなら、もうイドウするジュンジョで（もっともはかりづらいだろうが）ケイソクするしかない。ト

シにいるひとのドウをジュンジョづけてハアクするのになにしている。そんなかんじではほとんど「とき」というガイネンがむずかしくなる。それでも「とき」をセイリツさせようとすれば、なにかのブツタイやジョウホウをどこかにイドウさせて（ゼンテイですぐというか「ドウジ」についてしまうのだが）わずかなずれをさがして、「ジカン」や「とき」にするのだろうか。もっというなら、ドウジにつかないジョウケンをさがすだろう（たとえば、かがみをタイリョウにつかて、あたかもチョウキョリをイドウさせたかのようなやりかたで。）。そうしないと「とき」だとか「ジュンジョ」がむずかしくなるのである。

かりにそういう「とき」のない（すべてイッシンですんでしまう）カンキョウができれば、ニンゲンはブッシツのイドウがイッキにすすみ、あつというまにしんでしまうかもしれないし、ブッシツのイドウをいつでもできるからと、うごかすことをせず、いつまでもいきるかもしれない（いまのところ「シ」はコクフクされていないので、ゼンシャかとはおもうが【ヨダンだが、ひとりのニンゲンがしぬまえに、そのひとのサイボウをセッシュルバイヨウしてそだてれば、とりあえずまだいきていることにもなる。モンダイはジョウホウのイテンだ【ジョウホウをイテンしないとまえすらわからない。】。）。ニンゲンのジュミョウはハチジュッサイがセンシンコクではヘイキンテキだが、ブッシツのイドウがはやくなると、あつというまにしんでしまうということだ。「シ」までのショリがシュンジにおこなわれるからだ。タンジュンにいえば、ジカンリョコウをするのは、なまけものじゃないと（すぐにしんでしまうから）たえられないのではないかということ。そういうわたしもよくねるなまけものである。タブンねなかつたらしんでしまう。ドウジにイドウできるなにかは「ある」が、それはしんでしまっていると、またなまけものは「うごかない」。「デッド」か「セキゾウ（モノ）」がジソウはできないものの、かつてジソウしていたかもしれないなにかだろうか。ソクドがサイコウの「ドウジ」にトウタツする「ブツタイ」はあるかもしれないが、「あつた」のホウがテキセツかもしれない。そのブツタイは「しんでしまう」ゆえにみつからない（「シタイ」はあるだろうが。）。たとえば、なにかのおきものがそうかもしれない。おきものになるまえはイドウしていたと。

「シタイ」や「セキゾウ」からもういちど、サイコウのソクドをもブツタイにすることはむずかしいであろう。ただジンルイは「ひかる」ワクセイをつくりだしているからフシギだ。ニンゲンがつくる「セキゾウ」もキョウミぶかい。ゲンリョウからジンコウテキにつくられたものだが、それにもソクドをつけたりする。バイクやロケットである。しかし、「シタイ」にソクドをつけているようなきがする。

ヒャクサンジュウニ、『よ』ジュウハチ

ことしはわがやのゆずがよくなった。ひどくえだをきられてからサンネンたつ（●サン、『ア』ハチ）。きられたとしては、みがならず、ヨクネンもゴコテイドのみしかならなかつた。そのヨクネンはニジュッコテイドとれ、ことしはヒャッコほどになった。あとでみをとろうとしていたら、またおふくろがえだをきってしまった。

どういうフウにきったかという、いわゆるきのかたちである。みきをロシュツさせたかたちだ。それをわたしは「シホンシュギのかたち」とよぶ。それはこういうことだ。みのなるきをショウユウしているひとは、わるいひとにみをたべられないように、たかいたところにみをおいておこうとする。そのためにわざわざはしごをかう。そうやって、はしごというドウグがうれ、「わるいひと（ピンボウニン）」にみをとらせないようにやりかたをするのである。わたしは、ひくいところにみがなってもかまわないのだが、「シホンシュギ」をキバンにするひとはそうやって「シホンシュギのかたち」にするのだろう。

ヒャクサンジュウサン、『よ』ニジュウイチ

「タイムマシーン」というのはよくワダイにだされるはなしである。タブン「できない」けどあったらおもしろいものとかんがえられているだろう。たしかに「ジカンリョコウ」はむずかしい。しかし、のぞくことならできそうである。タンジュンにいうと、チキュウからイチコウネンはなれたところにかがみをおく。そうするとチキュウのあるイチニチのえ（えというよりドウガだろう）がイチネンかけてそのかがみにトウタツし、そこではねかえった「え」がイチネンかけてチキュウにもどる。つまりどういうことかという、ニネンまえの「え」がみられるのである。

くわしくみるにはクフウがヒツヨウだろうが、まあかがみをおくイチをかえれば、もっとちかいカコやおいかコもみられるようになる。もっともすでにかがみがセツチされていれば、そのキョリかけるニのブンのカコがみられる。そういう「え」をだれかがみているとすると、ものごとのカイゼンがすぐにすすむのだろう。もっともその「え」のみかたによっては「カコ」でセイカツすることもカノウかもしれない。ただしくいうとスウネンおくれの「カコ」である。

ヒャクサンジュウヨン、『よ』ニジュウニ

「わらっている」からおもしろいのか、「おもしろい」からわらっているのかはどちらがさきかはそのときシダイのようなきがする。ひとのコウドウ（このばあい「わらい」）をみてというソクメンもあるからだ。いかりのばあいもそうかもしれない。「どなりちらしている」から「はらがたっている」のか「はらがたっている」から「どなりちらしている」のかだ。

ひとりでカンケツするばあい、ゼンシャがおおいひとは、カンジョウハとでもよぶべきか、あまりカンゲイされないようなきがする。しかし、「わらおう」とおもったばあい、とりあえず「わらえ」ば、「おもしろく」なるかもしれない。「わらい」でも「いかり」でもそうだが、そういうコウドウはだれかとキョウユウされることがある。それがないと「おわらいゲイニン」のゲイは、どこのブンがイチバンおもしろかったのかわからない。ダイタイひとはおなじカショでわらう。「おわらいゲイニン」のホウは、おキヤクがわらうカショがダイタイわかっている。そして「わらい」をねらってブタイにのぞむ。セイ

リガクテキにいえば、サイボウがコウフンするシゲキをわかっているということだ。もし、あなたがウチュウジンをさがしたかったら、そうおもわれるひとにわらいばなしをするといひ。わらえるだけのしゅきをもっていなかつたらわらえない。つまり、「べつもの」かどうかわかるのだ。

「いかり」がキョウユウされると「ボウドウとかになつたりする。でも、ひとのカンジョウがながつづきするのはケッコウむずかしいことだろう。ベツのことをやればすぐわすれてしまう。とすると、「ボウドウ」もそうながつづきしないはずである。「ヘヤのデンキをけしわすれてきた。」そんなことをおもいだすと、やっぱり「かえる。」となつてしまう。

カンジョウもニンゲンのタイナイのヘンカだろうが、そういう「いかり」についてのカガクブッシツがカッパツになるから、そのカンジョウが、ながくつづき「ボウドウ」がカノウになるのではないか。だから、まもるほうも「サイルイダン」とか「チンセイザイ」とかをつかつたりする。「サイルイダン」はなみだをださせるキタイがこめられたたまだ。このキタイをあびることによつて、ひとは「なみだ」をだすハンノウをする。その「なみだ」と「なみだ」をだしたときのキオク（つまり「かなしい」）がそのひとにイシキされ、「いかり」がソウタイテキにおさまつていく。「チンセイザイ」はもっととつとりばやく「いかり」をカガクテキにおさえてしまう。だから、シンジダイのボウドウには「いかりザイ」がヒツヨウなようにもおもう。タンジュンにいえば「ドーピング」だ。モチロン「オリンピック」ではつかえないが。

ヒャクサンジュウゴ、『よ』ニジュウゴ

なにかをハツメイしたひとは「えらい」といふ。とくに「えらい」とおもわなくても、そのハツメイをリヨウしたものをつかつていたりする。そんなものがタクサンあつてセイカツがなりたつていたりする。だから「えらい」だろう。

そういうハツメイがとくにおおかつたところを「ブンメイ」といふ。ガッコウでもおそわるが、メソポタミアとかむかしのチュウゴクとかがそうである。なぜ、チュウトウにテロリストとよばれるひとがおおくて、チュウゴクセイフはイキがたかいか。それはイスラムシソウでもチュウカシソウがそうさせるのでもなく、これはおそらくブンメイをもつくにだからであらう。ブンメイをうみだせば、それなりにもうかるだろうし、ジフがでてくる。それをくじこうとすれば、ハンパツするわけである。もうちよつという、タブン、チュウトウやチュウゴクがおこるあいては、「メソポタミアブンメイ」とか「チュウカブンメイ」をソンケイしていないのである。

ちなみにニホンセイフも「メソポタミアブンメイ」はソンチョウしても、「チュウカブンメイ」をソンケイしていないのだから。オウシュウのブンメイをシジするのはジユウだが、ブンメイにタイするソンケイはわすれないようにしたいものだ。

ヒャクサンジュウロク、『よ』ニジュウキユウ

ニジュッセイキはアメリカガッシュウコクがコウギョウセイサンのメンでつよかったといわれる。ニジュッセイキコウハンになって、ニホンがそれにつづくようなハッテンをした。ニジュウイッセイキにはいるとチュウゴクである。ニホンでもチュウゴクセイヒンがあふれることになっている。しかし、チュウゴクのコウギョウハッテンは、これイジョウカノウなのだろうか。わたしはむずかしいとおもう。

ニホンのジンコウはイチオクニセンマンテイドで、かりにコクミンすべてがコウギョウセイサンをしてもななジュウオクのチキウのジンコウすべてにセイヒンをうってもひとりロクジュツコつってうることができる。しかし、チュウゴクでそれをやると、ジンコウがジュウサンオクだからゴゴしかつくらなくてよい。つくりすぎてもかいてがないし、カカクもさがる。それではさすがにたべていくのにクロウするだろう。だから、チュウゴクでもサービシギョウのヒリツがあがるのではないだろうか。

ヒャクサンジュウなな、『よ』サンジュウイチ

フロイドセンセイ（セイシンブンセキのソ）はファルスをといたといわれる。それはただしいかもしれない。なにかをカンケツさせようとするわけだ。くるまのいきさきも、フロイドセンセイはヨキしていたかもしれない。

くるまはエイゴで「カー」という。ただそれだけではフジュウブンなようだ。サイゴのトウタツ、いってみれば、トウゲンキョウのようななにかがヒツヨウなのだ。そのキタイをしてナンニンのひとがくるまをかっただろう。あるひとはそのトウタツテンをみつけてしまった。ユウメイなハンバーガーやである。タブンそのカンバンをみて、はいることをきめたんだろう。そういうフウにゴをつづけると「カーム」となる。ただザンネンながらホンライテキなモクヒョウとつづりはちがうようだ。

エイゴがコクサイゲンゴになったといわれるゲンザイだからもっと「カー」がうれるかもしれないが、エイゴのキョウカシヨはこたえてくれない。フロイドセンセイフウにいえば、いまのニホンのわかものはキョウヨウがなさすぎるか、タシャにカンシンをもっていないか、キンヨクシュギテキなのだろう。

よのなかの（みぢかなでもいい）おとことおんなのなかがわるくなるほど「カー」はうれるかもしれない。トウタツをさがしてだ。いってみれば「カー」がうれることはセイリゲンシヨウなのだ。そしてそのなかのナンニンかはユウメイハンバーガーテンにはいっていく。それはセイメイのシユクメイかもしれない。そのかわりはあなたがみつけるべきだ。コンペンゼーションといわれないうな。

ヒャクサンジュウハチ、『よ』サンジュウハチ

セカイのとみのハンブンをなんパーセント（ひとけた）のかねもちがにぎっているといわれることがある。それにタイしてけしからんということはあるが、それだけそのかね

もちがいいしごとをしたのだからしょうがないともいえる。なにもしないでおかねをかせげるわけではないのである。そういうジョウキョウがあるから、そういうとみをショミンにこぼしあたるみたいなはなしをしたりする。でも、やっぱりゲームセンターのコインゲームのように（●ヒャクキュウ、『む』ヒャクニジュウニ）そうカンタンにはこぼれおちるわけではない。どうすればこぼれおちるだろう。どこかにおかねをおとせば、ナンニンかがひろっておわりである。それなら、こぜにをタクサンおとせば、ケッコウなかつのひとがひろえるかもしれない。しかし、そのばにいるひとしかひろえない。あるキセイをカンワすれば、そのカンワされたギョウシュにひとびとがサンニユウする。それでセイコウすれば、それにカンレンするギョウシュもうるおうのである。これはあらたなかねもちのつくりかただが、そういうチャンスをあたえるのもいいかもしれない。ビョウドウにケツカをあたえると、あまりはたらかないひとが、はばをきかせて、やるきのあるひとやるきをなくしてしまう。かねもちのやるきをうばえば、とみはいきわたるかもしれないが、それはどうなのか。ゴルフのハンディキャップのようなものをあたえたとしても、やっぱりまたおかねをかせいでしまうようにもおもえるのである。しかし、ゼイのルイシンカゼイとはそういうことある。

ヒャクサンジュウキュウ、『よ』ヨンジュウシチ

セイシヨには、かみさまがむいかカンはたらいたあとに、イチニチやすんだとかかかれている。だからタブンオウシュウのひとはまねをして、シュウにイチニチやすむようになったのだろう。ニホンではメイジのころにタイヨウレキをドウニユウして、そのかんがえかたをとりいれたのだとおもう。しかし、サイキンはふつかやすみなさいという。なぜかみさまがむいかはたらいて、ニンゲンがイチニチおおくやすむのだろう。たしかにそうすることでハッテントジョウコクにもケイザイセイチョウのチャンスがまわっていく。しかし、それをいっておいてまだまだ「ケイザイセイチョウ」などといっている。ドヨウビ、ニチヨウビにやすんでしまうと、ケイザイセイチョウはにぶるだろう。ジーディーピーがあがらないからだ。だからあそびにいきなさいというかもしれないが、そんなことをいうのは、フキンシンなようなきがする。

ヒャクヨンジュウ、『よ』ゴジュウイチ

なにかが「かぞえられる。」というときは、ジツサイに「ある」ものをかぞえているだろう。キヨリなどをはかるときはまきじゃくなどをつかってはかる。あしをつかってはかると「フィート」というタンイになる。「フット」ということばからだ。しかし、ホントウにそうなのかというケイリヨウもある。「あなたはおこっていますか。」というシツモンをななダンカイでたずねるようなばあいだ。なながもっともおこっていて、イチがまったくおこっていないなどのシツモンだ。サンとかは、ややおこっているとかにセツテイされるだろうが、まあそれでわかることがあっても、ややウサンくささ

がのこる。これはシンリガクなどでつかわれている。ところが「ある」とされているからこうなんだろう。

しかし、カンサツしづらい。シツモンにこたえるひとしかわからないであろう。だからうそがあるとなりたないケンキュウだ（シンリガクだから「うそ」をふくめてケンキュウしてもいいのかもしれない。）それをもっとつきつめると、「こころ」ではなくて「コウドウ」をしらべる（これもシンリガクケンキュウだ。コウドウシュギとよばれる。）。コウドウはカンサツカノウだからだ。こういったシンリガクのケンキュウにくらべると、ジーディーピーのホウがわかりやすいかもしれない。もっとももとデータなんかみせてくれないだろうけど。ショミンがカンサツできるのはブブンテキなものである。

ヒャクヨンジュウイチ、『よ』ゴジュウゴ

ガッシュウコクでセイサクハウシンへのハンタイウインドウがおこっているとき。ジブンのところをダイジにするか、ほかとなかよくするかというタイリツだ。それは「ふるいノウ」と「あたらしいノウ」のカットウなんだろう（●ロクジュウニ、『ア』ヒャクキュウジュウハチ）。たとえばななジュウハチネンまえからのセンソウでは、オウベイやひがシアジアのくにのひともクロウしただろう。ヘイワがいいにきまっている。

しかし、それはあたらしめのかんがえかもしれない。ジンルイはほかのドウブツとセイゾンキョウソウしただろうし、またゼンインがヘイワをえらぶかといったらそうではないだろうからだ。まだたかっているチイキもある。だからそういうひとたちとむきあうとしたら、ふるいかんがえもダイジになってくる。そうニンゲンが「あたらしい」ノウばかりつかっていきるわけではないだろうともおもう。タブンほかのくにでおこっているセンソウなどがおわってはじめて「あたらしいノウ」のホウにかじをきれるのではないだろうか。

ヒャクヨンジュウニ、『よ』ロクジュウイチ

ちかごろはミンシュシュギがいいというはなしをよくきく。たしかにそうかもしれないが、それでできることといえば、トウヒョウでギインをえらべるだけだろう。そんなのでセイジがかわるかほうたがわしい。それよりもセイジがかわるのは、セイフがサイケンをうりあびさせられるようなときではないだろうか。つまり、シジョウのホウが「ミンシュシュギ」のセイドよりつよいのではと。ニホンでも、セイジのサイケンイゾンはおおきいから、そういうセイヘンがおこるカノウセイはある。

ヒャクヨンジュウサン、『よ』ロクジュウゴ

むかしのニホンジンによくはたらいたのだろう。もっともセンゴのものブソクのなかで、

よくはたらかないとなると、「なまけもの」ともいうだろう。よくはたらいたゆえにセンゴフッコウがなされた。それはわかるはなしである。しかし、いまは、はたらきすぎというか、はたらかせすぎは、わるくいわれるようになった。これではケイザイセイチョウなどむずかしいであろう。ヒンコンのはなしもきくようになった。わたしもそんなはたらきものでないから、はたらきにでていたときは、ジカンドおりにしかはたらかなかった。だからイチニチジュウハチジカンはたらくというのは、どうもいやげがさしてしまうホウだった。しかし、むかしのひとはそうやってセンゴフッコウをなしとげたのだろう。そういうブンカもダイジにしなければならない。サイキンわたしはそういうのにすこしなれたメンがある。

ヒャクヨンジュウヨン、『よ』ロクジュウロク

「やすい」ものはミリョクテキである。そういうものをかえば、おなじシキンでもよりのしめる。おおきなやすうりテンにまけたから、ジエイギョウのちいさなショウテンがつぶれたともいわれる。たしかにジエイギョウのそういうみせは、おおきなみせほどやすすくない。おなじようなショウヒンをあつかっているなら、おおきなやすうりテンにいつてかおうとする。それはわかる。

しかしながら「やすい」ことはそんなにトクなのか。「やすものがいのぜにうしない」ともいう。ひとつのみせでショウヒンがやすくなると、ほかのみせもやすくしようとするかもしれない。そうしないとうれなくなるからだ。そうすると、そのショウヒンジタイのねだんもやすくなる。やすうりテンがやすくしたブンのフリエキをかかえれば、それはそのみせだけのモンダイだが、ほかのみせもやすくして、そのショウヒンをうろうとすれば、メーカーからのしいれねをやすくしようとするだろう。そうするとメーカーもねびきしてフリエキをこうむることになる。それがテイドをこえると、メーカーやショウテンはあかじのブン、ジンインサクゲンしたり、ジュウギョウインのキュウリョウをさげたりすることになる。

それはショウヒンをかうホウにはカンケイないだろというかもしれないが、メーカーもショウヒンのヒンシツをさげるかもしれない。そうしないとたちいかないからだ。そうすると、やすいショウヒンをかおうとしていたひとも、ヒンシツがさがったとおもうだろう。この「ショウヒン」がショクリョウヒンだとしたら、やすくかおうとすると「めし」がまずくなるというケツカになる。だから、うまいめしをたべたきや、やすいものをさがさないホウがいいとなる。

ヒャクヨンジュウゴ、『よ』ロクジュウハチ

ニンゲンはあることをおもいださないとやがてそのことをわすれてしまう。いやなことだとトクにわすれたいだろう。そうやって「わすれる」からニンゲンはほかのことをできるともいえる。もし「わすれない」ことがあるとしたら、それはニッカのようにおも

いだしているかそのことにとりくんでいるかだ。そういうことはわすれないが、そのことにジカンをとられるので、そのほかにできることがソウタイテキにすくなくなる。だから、それをやっているかぎりには、キュウゲキなシンテンはないかもしれない。まるで「わすれる」ことがネンリョウとなってすすんでいるように。しかし、なんでもわすればいいってもんじゃない。ちゃんと「コツ」や「キョウクン」はおぼえておかなければならない。そうじゃないと、ナンカイやってもおなじシッパイをするひとになってしまう。

ヒャクヨンジュウロク、『よ』ななジュウニ

ひとのタイケンはずべてトゥルー（ほんもの）である。それをいうと、ゆめをみるタイケンもトゥルーなのかといわれることもあるだろう。しかし、そのタイケンはほんものである。タンにノウのはたらきだとしても、「タイケン」ジタイはトゥルーだ。そのタイケンするタイショウが、どんなにありえないこととしても、それをタイケンしているということは「トゥルー」なのだ。それをわたしはトゥルーゲンソクという。タイケンするタイショウはまったくイッパンテキでないとしても、そのタイケンジタイをあるものとしてみとめなかったら、そのひとにとって、いきていないジカンができてしまう。あるタイケンは、あるジョウケンからはなれると、それっきりになってしまうことがある。たとえば、だれかがいっているつまらないはなしだ。そのタイケンは、あるひとのこえのとどくハンイからたちさればシュウリョウとなる。だからタイケンはあるテイド、トウセイカノウである。しかし、はなれにくいタイケンというのものもある。それをどうにかして、ジブンのジンセイのイチブにするというのが、できたおとなではないだろうか。かんがえてみれば、テレビドラマなんかをニホンジンタイケンしたりするのだから、そういうのはトクイなはずである。

ヒャクヨンジュウなな、『よ』ななジュウゴ

でるくいほうたれるという。たしかにちょっとなにかにたけていると、うたれることがあるようだ。しかし、すぎていたらどうだろう。ニバイ、サンバイ、ジュウバイとすぎていたら、もはやそのくいはたたけない。だから、すぎてくいはうたれないのである。レイネンダイにチュウモクをあびたアイティーチョウジャぐらいじゃ「すぎ」とはいえないのであろう。

ヒャクヨンジュウハチ、『よ』ハチジュウキョウ

わたしはオンガクをつくったりする。もうガツキやサツキョクをはじめてニジュウゴネンイジョウになる。バンドブームにショクハツされてはじめて。ただそれでセイコウすることはむずかしいこともわかっていた。だからほどほどにやっていたカンがある。ただ、いいキョクをつくればうれるのだろうともおもっていた。だからプロのシィディ

のハンブンのねだんで、いいキョクをテイキョウすれば、あるテイドられるんだらうとおもっていた。ただそれはあまいかんがえだときづいた。それはシィディのジッセイカカク（テイカではない。）をケイサンしたからわかった。

イチニチにイッカイきくシィディがあるとする。それはネンカンでサンビャクロクジュウゴカイきかれるケイサンになる。イッポウ、イチネンでイッカイきかれるシィディもあるだらう（ゴネンにイッカイきくようなシィディはケイサンからはぶく。）。それはネンカンでイッカイきかれる。そのイチニチイッカイきかれるシィディをジュウマイもっていたとする。そうするとイチマイでサンビャクロクジュウゴカイきくから、ジュウマイでサンゼンロツピャクゴジュッカイきくことになる。イッポウイッカイきくシィディをヒャクヨンジュウマイもっていたら、イチかけるヒャクヨンジュウでヒャクヨンジュウカイきくことになる。

ここでシィディのねだんをイチマイサンゼンエンとカテイする。イチニチにイッカイきくシィディはネンカンサンビャクロクジュウゴカイで、これをサンゼンエンとすると、それがジュウマイあるからサンマンエンとなる。イッポウイチネンでイッカイきくシィディはヒャクヨンジュウマイあつめてもサンビャクロクジュウゴカイにタツしない。それをイチマイブンケイサンするとサンビャクロクジュウゴがサンゼンだから、イチマイはハッテンニチエンになる。これがヒャクヨンジュウマイだからセンヒャクヨンジュウキュウエン。

これをヘイキンすると、サンマンたすセンヒャクヨンジュウキュウわるヒャクゴジュウでイチマイあたりニヒャクナナテンロクロクエンとなる。つまり、シィディのあるソウテイでのジッセイカカクはヘイキンテキなものイチマイニヒャクジュウエンとなる。だから、プロのハンガク（センゴヒャクエン）にカカクをセツテイすればうれるかというところいうわけではないということがわかる。なにしろプロ（シィディをだしているのがプロばかりとして）のヘイキンテキなものシィディのねだんがニヒャクジュウエンなのだ。だからまあまあのかんじだとニヒャクジュウエンでうりだすのがただしいだらう。そのニヒャクジュウエンでシィディをうってリエキをだせるのが「プロ」ということになる。フツウそうはできないだらう。でもそれができないのだったら、シュミでオンガクをやるにとどめておいたホウがいい。そういうことだ。

ヒャクヨンジュウキュウ、『よ』キュウジュウロク

サイキンは「ワコンヨウサイ」という。そのことばもあまりきかれなくなったかもしれない。ニホンのセイシンとセイヨウのガクモンというイミである。たしかにセイヨウのガクモンにエイキョウされていたりする。しかし、そのまえは「ワコンカンサイ」というていた。ニホンのセイシンとチュウゴクのガクモンというイミである。ときがかわるとそうかわったりもするのだらう。それでもまだカンジのガクシュウをするから「ワコンカンサイ」なのだらう。わかいひとなら「ワコンカンギ（ギジュツ）」がいいかもしれない。チュウゴクではしばらくセイゾウギョウがカッパツだったから、チュウゴクジンにまなべるギジュツがあるだらうとおもうのである。

ヒャクゴジュウ、『よ』ヒャクなな

ニンゲンのななわりはみずでできているという。それをエキタイとしてホジしている。チョウドそういうオンドでくらしているからだ。だからもっとあついところ、たとえばスイセイにいけば、ほぼジョウハツしてしまうし、さむいところ、たとえばドセイにいけばほぼかたまってしまう。だからそういうところでいきるには、みずイガイのなかみがヒツヨウだろう。たとえば、タイヨウのちかくならキンゾクだ。キンゾクがエキタイになってからだをジュンカンできるだろう。ギャクにタイヨウからとおいところではチッソのようななかみがいいだろう。やはりエキタイになってジュンカンできる。コキュウもかんがえると、あついところではスイジョウキをつかい、さむいところではニサンカタソなどをつかう。このようにかんがえると、ウチュウジンは、キンゾクでできている、チッソでできている、みずでできたニンゲンはとりあえずできているが、ほかはどうかわからない。

ヒャクゴジュウイチ、『よ』ヒャクキュウ

おわらいバングミをみてよろこんだり、たかいホウセキをもってよろこんだり。ニンゲンのノウにはふるいノウとあたらしいノウがあるという（●ヒャクヨンジュウイチ、『よろこぶゲンシジン』ゴジュウゴ）。ふるいノウはゲンシジンのころからあったのだろう。あたらしいノウはブンカができてからではないか。ブンカのハッテンとともにあたらしいノウができあがったと。おわらいバングミをみてよろこんだり、たかいホウセキをもってよろこんだりするの、ブンカができてからだろう。だからそれらはあたらしいノウへのシゲキだ。ゲンシジンはそんなものではよろこばないだろう。ゾウトウヒンにショクリョウがある。タブン、これならゲンシジンもよろこぶからまちがいないのだ。かんきりがヒツヨウなかんづめはよろこばないかもしれないが。

ヒャクゴジュウニ、『よ』ヒャクジュウサン

ニンゲンのノウは「ふるい」ブブンと「あたらしい」ブブンがあるという（●ヒャクゴジュウイチ、『よ』ヒャクキュウ）。「ふるい」ノウはなにをしているか、タブン、ドウサにかかわることをしたりするブブンなのだろう。むかしからニンゲン（ゲンシジン）はうごいていただろうから。ショクジなんかもそう。むかしからしていたであろう。むかしからしていなかったのは、このようにホンをかいたりすることだ。だからホンをかいたりよんだりするのは「あたらしい」ノウをつかってすすめるのだろう。へやをみ

わたしと、どうも「あたらしい」ノウをつかうようなものばかりだ。それはキホンテキにジュウヨウでないともいえる。「ホン」をよんだってのははふくれないからである。もっともふるそうなへやというかもいえのなかにはある。それはだいどころである。なべやショッキはむかしからつかわれてきただろう。ケッキョクダイジなのは、だいどころとねどこではないか。だいどころでつくられるリョウリは、「ふるい」ノウがマンゾクするだろう。タブン「ゲンシジン」もよろこぶはずだ。そうやって、「わたしというゲンシジン」をマンゾクさせることはジュウヨウであるとおもう。

ヒャクゴジュウサン、『よ』ヒャクジュウヨン

ものをもつとへやのなかにそれがたまっていく。ものをかいすぎるとうごけるハンイがせまくなる。イチジわたしはホンをためていたが、よんだものはショブンするようにした。やはりかたづかないとこまるのである。どうすればいいか。リソウテキなのは、つかうときだけホンがあることである。つかわないときはなくていい。どこかでかりられればいいが、トショカンにおいていないホンもある。テレビなんかもそうだ。みたいバングミだけみられればいい。テレビジュゾウキもいらなないかもしれない。そういう「パーユーゼージ(つかうブンだけ)」にすれば、むだなものがふえないし、ベンリだとおもう。

ヒャクゴジュウヨン、『よ』ヒャクジュウゴ

タバコはからだにわるいという。サイキンはだからタバコをやめろという。わたしがおもうにはそういうひとはクルマにのらないであるいてばかりのひとなんだとおもう。なぜなら、クルマはハイキガスをだす。だからそれもからだにわるいだろうからだ。クルマにのりながら、「タバコをやめろ。」だったら、「あなたこそクルマをやめろ。」だ。クルマをやめてからそういうことをいってほしいとおもう。おたがいさまだとおもうのである。「まわりにいるひとのガイになる。」でも、「クルマはハイキガスをシャナイにださない。」だ。やっぱりおたがいさまだとおもう。

ヒャクゴジュウゴ、『よ』ヒャクジュウなな

ヒコーキにのるとキナイショクがでてくる。サイキンはキナイショクがでないヒコーキもあるときくが、やっぱりたべたいとおもう。ゲンシジンをマンゾクさせたいからである(●ヒャクゴジュウニ、『よ』ヒャクジュウサン、ヒャクゴジュウニ)。よく、ビーフオアフィッシュときかれた。わたしはビーフとしかこたえたことはないが、どちらかえらべるのは、シュウキョウへのハイリョからでもいいのだろう。そういうセンタクにこたえていくとコセイがでる。はじめののみものもえらべるし、ショクゴのイッパイもえらべる。それぞれふたつのセンタクシだと、ハチとおりのえらびかたができる。ムダかもしれ

ないがそういうコセイをソソチョウするというのもマナーなんだろう。ニホンでのショウヒコウドウも、センタクシのあるコセイテキなようにかわってきているともきく。コセイをソソチョウするとそうなるのだろう。だから「コセイ」とはキナイショクのセンタクのしかたともいえる。キュウショクでそだつニホンジンにはわかりにくいかんがえかたかもしれない。

ヒャクゴジュウロク、『よ』ヒャクジュウハチ

わたしがヨウチエンジのころに、オヤジがビデオデッキをかうのでついていった。そのころはエーシャのかたと、ビーシャのかたというセンタクシがあった。エーシャのものはカセットがややちいさく、ビーシャのものはおおきかった。リョウハンテンで、オヤジはあらかじめどちらかきめていたようだった。デンシブヒンのカイシャインだったから、くわしかったのだろう。かたほうのかたは、いずれトウタされることになる。オヤジはそれがどちらかわかっていたのだろう。しかし、トウジのわたしにもわかるリュウがあった。それは、ビーシャのかたのカセットをつかったビデオグラムがうっていたからである。いまのヨンジュウダイのダンセイにニンキがあったビデオサクヒンだ。だからそのビデオグラムみたさにビーシャのかたをシジしたとおもう。ビデオデッキとドウジにそのビデオグラムをかってもらったかわすれたが、まあやがてエーシャのかたはトウタされたようである。しかし、そのときかったビーシャのかたも、やがてひかりディスクにとってかわられる。しかしおもいでビデオがあるので、ビーシャのかたのビデオデッキもとってある。

ヒャクゴジュウなな、『よ』ヒャクニジュウ

なにかのしくみはそうそうかわるものではない。ビルもいちどたててしまえばそれはナンジュウネンとのこる。だからそういうしくみに（たとえていえば、たてものに）なれたホウがいいといえる。しかし、ああだったらいいとかは、だれしもおもうことだろう。だから、ヘンコウがむずかしいたてものではなくて、カグなどにこったりする。カグもナンジュウネンともつが、とりかえることもできる。だからコウゾウシュギテキなひとばかりでなく、いえなどはあまりジュウにはできないが、キノウをジュウシするひとでもてくる（●ヒャクニジュウロク、『よ』イチ、ヒャクロクジュウ、『よ』ヒャクニジュウロク）。つまりあるもののコウゾウテキなメンでなくて、キノウテキなメンをジュウシするひとだ。

トクにサイキンでは、テイカカクをジュウシするようなむきもある。コウゾウでなく、キノウがダイジなんだけど、テイカカクなものをえらぶシコウである。だからやすいガイコクセイのセイヒンがみせにならぶようになる。わたしがわかかったころは、ヨーロッパのブランドにあこがれたというかキョウカンしたが、そういうものがたりてきなことより、「キノウ」を、「テイカカク」をというのがタイセイなのかもしれない。「キノウ」

がみたされればいい。そのうえ「テイカカク」なものがいいと。なにをえらぶかはそのひとのジユウでしょうけど。

ヒャクゴジユウハチ、『よ』ヒャクニジユウサン

サイキン、オンガクをつくっていておもうのが、オンガクはロウドウリヨクよりシキンリヨクではないかということだ。かなりのロウドウリヨクをつかっても、ガツキがわるかったら、いいオンガクにはならない。もっともサイキンだと、なまガツキのおとをシュウロクしたプログラムをサッキョクなどでつかうから、よりいいおとのプログラムをそろえれば、いいオンガクになるとおもう。たかいガツキをつかうようなものだ。そうすると、ロウドウリヨクのメンもあるが、シキンにヨユウがないと、むずかしいとなる。だから、アーティストはレコードガイシャとつきあっているのだろう。いいおとでロクオンするためである。

でも、シィディのシジョウカカクが、まえにのべたように（●ヒャクヨンジユウハチ、『よ』ハチジユウキュウ）ニヒャクゴジユウエンだとすれば、イチマンマイうれても、ニヒャクゴジユウマンエンだから、ヒョウだけでうりあげはなくなってしまうだろう。だからサンニユウするのはソウトウむずかしいとおもう（ダウンロードハンバイがみこみあるだろう。）。キュウジユウネンダイコウハンにうれたあるカシユは、カショウリヨクとちょっとだけのガツキでナンビャクマンマイとうってしまった。あまりおかねをかけずにタクサンうれたのである（コウコクヒはのぞく。）。それはカクメイテキであるが、そういうジレイもある。でも、なかなかむずかしいであろう。

ヒャクゴジユウキュウ、『よ』ヒャクニジユウゴ

サンジユウネンほどまえ、わたしは、はねだクウコウをリヨウしていた。いま、おもいだしてみると、ニホンハシャカイシュギだったのではないかとおもう。なぜなら、「コウキュウヒン」があつたクウコウにはなかつたような気がするからだ。サンゼンエンのコウキュウイベントもなかつたし、ブランドものなにかがうられていたともおぼえていない。そのかわりに、シヨミンのたべもの「やきそば」やニホンジンがクフウしてちいさくなったブングなどがうられていた（あるときは、カードがたのボールペンがあつた。）。コクナイセンがおもとはいえ、かねもちもリヨウしそうだが、そんなかんじだったとおもう。もっとも、いまはたてものがかわってしまったが、タシヨウコウキュウヒンをあつかうようになったのだろうか。「カクサ」とかいつているからあつかうようになったのだろう。そうでなきゃ、まだ「シャカイシュギ」のまま。もっとも「シャカイシュギ」のいごちのよさはあるだろう。ステーキをたべているひとのよこで、すうどんをたべなくてもよいのだ。そういうこともかんがえるから、「コセイ（●ヒャクゴジユウゴ、『よ』ヒャクジユウなな）」というタンゴでごまかすかもしれない。シホンシュギだったらそういうしかない。

ヒャクロクジュウ、『よ』ヒャクニジュウロク

さきの(●ヒャクゴジュウゴ、『よ』ヒャクジュウなな)「ビーフ オアフィッシュ」のようにえらべるホウがいいのか。ショウガッコウのキュウシヨクが、そうかわったとはきかない。えらべると「ジブンで」えらんだというセキニンがでてくる。もちろん、それにどくがはいってれば、テイキョウしたがわのセキニンがでてくる。しかし、キョクロンすると、「どく」がはいっているものをたべたそのひとがわるいことになる。もっとも、からだにヘンチョウをきたして、わるいばあいはしんでしまっているだろうから、ジブンでセキニンをとることになる。テイキョウしたがわにできることはバイショウだ。そうやって、ケツキョクジブンでセキニンをとることになるから、そういうえらべるブンカのひとはヨウジンぶかいだろう(カタホウはフツウで、もうカタホウのリョウリにどくがはいっているかもしれないから)。それはテロジケンについてもいえる。なにかえらんだケツカがテロジケンにつながったとすれば、えらんだあなたがわるいとなる(ホウリツによってハンニンはバツされるだろうが、しんでしまったらだれもいきかえらせてくれない)。だからニホンでそういうギロンがでることはすくないだろうが、ウカツに「えらんで」はキケンなのだ。シャカイシュギはそのテンでわるくない(どくがはいっていたら、ゼンインしんでしまうカノウセイはあるが)。

ガッシュウコクセイのギユウニクをえらんだために、「シュウダンテキジエイケン」をみとめるホウコウにいつている。そのながれでいくと、やはり「えらんだ」セキニンがでてくるはずだ。そういうカクゴもしなければいけないかもしれない。いやだったらえらばなきゃいいのだ(えらばなかったセキニンもあろうが)。マテリアルのモンダイ(たべもの)だから、ホントウの「コセイ(ジブンのイチブになるから)」である。ポウエイテキドクリツより、ギユウニクをえらんだのだろう。

ヒャクロクジュウイチ、『よ』ヒャクニジュウキユウ

しごとがおくれるとどうなるか。コキヤクにおこられたり、ジョウシにおこられたりする。もっというと、そのリユウをセツメイしたり、ブンシヨをツイカしたりする。ケツキョクなにかといえば、「ブンシヨ」がヨテイよりながくなるだろう。シツパイについて、それはなぜおこったかとなる。きがつくとホンができていないかもしれない。そのブンシヨをかくジカンがムダだから、セイサンセイもあがらない。だからできるひとは、しごとをおくらせないし、おくれたとしても、ながくモンドウしないだろう。「ノーエクスキューズ。」というが、いいわけするだけジカンのムダというかんがえかただろう。ブンガクはながながとモンドウするだろうが。

ヒャクロクジュウニ、『よ』ヒャクサンジュウ

しごとをカンタンにおわらせてしまうことはできる。しかし、カンタンにおわらせると、「ラクしやがって。」とかいわれかねない。だからしょうがなくしごとをしているふりをすることがないか。そのジカンはムダなのだが、つきあいをかんがえるとしょうがなくもある。ひよっとしたら、しごとができる、できないより、そのホウがダイジかもしれない。しかし、ソレンはシッパイした。ココのジツリョクのモンダイもあるが、シュウダンのセイサンセイもある。むずかしいモンダイだ。

ヒャクロクジュウサン、『よ』ヒャクサンジュウイチ

なにかのしくみを「かねもち」や「ビンボウニン」にあわせるとどうなるか。あるものごとのブンブはセイキブンブではかれることがある。カズをジョウゲにとったベルがたのグラフである（ヘイキンがもっともおおい）。ニホンだと、ガッコウのセイセキをそのリクツをつかってはかる。ヘンサチというやつである。ベンキョウができるひとは、できるほどかすがすくなく、またできないホウも、できないほどかすがすくない。ヘイキンからキョリをはかるとヘンサチである。

それなら「かねもち」や「ビンボウニン」にセイサクをあわせると、そのギャクのひとたちからのキョリがおおきく、またヘイキンからのキョリもあるから、ソウタイとしては「ムダ」がおおそうである。じゃあどうすればいいかという、「ヘイキンテキなひと」にあわせるとムダがすくなくなる。それでいいかはともかく、それならムダはすくないのである。ニホンではルイシンカゼイといって、ビンボウなひとからはすくなく、かねもちからはおおくゼイキンをとっているが、ヘイキンテキなゼイリツにすることもできるだろう。

セイヒンもヘイキンテキなねだんにすることもできる。しかし、ヒャクエンでショウヒンをかえるみせがはやっているから、ヘイキンテキなねだんではだめなのかもしれない。セイヒンも「ヘイキンテキ」なものをイッコタイリョウにつくるよりも、「ビンボウニンむけ」と「ヘイキンテキなひとむけ」、「かねもちむけ」とつくるホウが、コウリツがよさそうだ。ベツにイチリツにするヒツヨウはない。しかし、「テイカカク」なものがうれるようなきがする。そういうのをシュクショウがたケイザイというのだろう。ジッサイのとりひきがそうであるかはともかく、だれかや、だれからのシンリには、そのコウゾウがあるのである（●ヒャクニジュウロク、『よ』イチ）。カイキユウセイにしてしまえば、みつつのセイヒンをつくれればいいが、ニホンではなかなかなじまないのだろうか。

ヒャクロクジュウヨン、『よ』ヒャクサンジュウゴ

ヒコーキのキナイで「ビーフ オアフィッシュ」ときかれる（●ヒャクゴジュウゴ、『よ』ヒャクジュウなな）。キナイショクメニューをセンタクするためだ。ニホンではシュウキョウテキナリユウでなにかをたべられないひとはすくないが、そういうばあいもあるから、センタクできたホウがよい。ほかに「コーヒーオアティー」ときかれる。わたしはコーヒーばかりたのんだ。いえではおチャとかむぎチャだったが、そういうエンがあっ

て、ジブンでもかってつくるようになった。あるレストランのコーヒーがおいしかったので、ジブンでもおいしいのをつくりたいとおもったのだろう。いえにサイフォンがあったので、まめをひいてつくったりするようになった。それまでは「シコウヒン」とよばれていた。

ハチジュウネンダイのニホンの（わたしはカイガイセイカツがながかったために、わたしはこういういいかたをすることがある。）ジドウハンバイキなどでは、コーヒーはサンメイガラテイドしかなかった。ほかにコーヒーギュウニュウがあった。モチロンキッサテンもあったが、ケッコウなねだんであった。このあとキュウジュウネンダイにはいつて、ジハンキでうられるコーヒーがふえたとキオクしている。なかにはおいしいのもあるから、ゆたかになったといえるだろうか。タイシュウむけのセイヒンになったかもしれない。

ただ、きづくわたしはコーヒーばかりのむようになっている。「コーヒーかコウチャか。」ときかれて、「みず。」とこたえられなかったからかもしれない。そういうギャクテイアンをするのがたしなみかもしれないが、まあ、むずかしかった。いまのガクセイなんかも、「センタクシ」のなかからこたえるモンダイにならされているから、そういうヘンカというのはつづくかもしれない。

ヒヤロクジュウゴ、『よ』ヒャクサンジュウなな

なぜかラーメンがワダイになったりする（●ニジュウサン、『ア』ハチジュウ）。カイガイにもシュッテンしているとき。わたしがカイガイにいたころは、そのまちにラーメンやというのはほとんどなかった。あったのはゲンチのメンリョウリやだ。それと、ニホンリョウリやがジュッケンがあった。さしみやテンプラなどをだすみせである。いえではおふくろのつくるカテイリョウリだったが、たまにそういうみせにもショクジにいった。カツドンがゴヒャクエンくらいだったから、そんなにたかいわけではない。あじもわるくなかった。

さて、なぜラーメンか。たしかにたまにたべたいとおもう。しかし、なまえが「チュウカそば」とか「シナそば（シナのそばだからそういう。シナとはチュウゴクのことだ。）」だったら、そうワダイにならなかったのではとおもう。なぜか、「アーメン」ににているからである。そのことばはながネンいわれつづけているらしい。だからしたしみがわくのではないだろうか。「ラーメン」くってりゃ、エンギがいいみたいなのはなしである。

ヒャクロクジュウロク、『よ』ヒャクサンジュウキュウ

あるシソウについてデントウテキナタチバをとるひとを「ホシュ」といったりする。 IPPOW、カイカクテキナことをいうひとを「カクシン」とかいったりする。「リベラル」だと「ジュウ」のハセイだから「ジュウシュギ」か「ジュウナンな」であろう。その「ホシュ」テキナひとがキョクタンになってくるとどうなるか。「ああしなければならぬ。」

「～であるべきだ。」といただきます。ゴジブンのことをいうブンにはおおいにケッコウだが、いくら、デントウテキにただしくても、ひとにくってかかってキョウヨウするようだとこまる。そのひどいかんじの「ホシュ」をわたしは「ボシュ」という。ボシュはジブンがいうことがただしとおもい、ひとにシテキし、キョウヨウする「ボス」のようなタチイチだが、ザンネンながらジンボウはうすいのではないか。

ヒャクロクジュウなな、『よ』ヒャクヨンジュウヨン

よくよくかんがえてみると、シュミをダイコウしてかせいでいるひとがいる。むしろそれがサンギョウになっていたりする。「エイガ」だったら、ジブンでかけてタイケンするようなことを、エイゾウとオンセイのホウコクでうけとっていたりする。オンガクだったら、ジブンでエンソウするわけではなく、だれかがかわりにひいて、そのホウコク（シィディ）などをうけとったりする。

これらのばあい、「ホウコク（ディブイディやシィディ）」にエイゾウやオンガクをふきこむひとがシュミをダイコウしている。シャシンならシャシンをとるひとがダイコウしているし、ホンもかくひとがしている。えならえをかくひとがダイコウしている。なぜそういうダイコウがおおいのか。ジブンでみにいたり、ひいたり、かいたりすればいいが、タブン、いまのひとはジカンがないか、オウチャクなのだろう。ネンカンシュミにヒャクジカンかかるところをジュウジカンで、ヒャクジカンかかるところをイチジカンですませようとするのだろう。それにサンゼンエンはらったホウがやすいのであろう。ジュウキュウセイキおわりからニジュッセイキにかけてキロクギジュツがハツタツして、そういうサービスがハッテンした。もっとすすむとひとはリョコウにいかなくなるかもしれない。ホウコクをうければいいからだ。ジムかたをしているなら、カイシャにいかなくてすむかもしれない。ホウコクとサギョウケツカをおくって、キュウリョウがふりこまればいいからだ。ショウテンもいらなくなるかもしれない。ホウコクをうけて、しなものがおくれればいいからだ。

ヒャクロクジュウハチ、『よ』ヒャクヨンジュウゴ

どうもタバコがきらわれている（●ヒャクゴジュウヨン、『よ』ヒャクジュウゴ）。ケンコウにわるいとされているからのようだ。しかし、けむりをだすものでもくるまはキンシしろとかいわない。タブン、データをとれば、くるまもケンコウをガイするとでそう。なぜタバコがダメで、くるまはよしなのか。タブン、タバコをやめろというひとは、くるまにのっていないにちがいない。そのくるまがだれかのケンコウをガイしてしまうからだ。そうじゃなければ、シィテキないやがらせだ。それならあなたもくるまにのることをやめてくださいといたい。おたがいさまだとおもう。それでもというなら、タバコドウヨウに、ジドウシャのシャタイに、「あなたのジドウシャのリヨウで、なんにんかがハイガンになるカノウセイがたかまります。」とはるしかない。

ヒャクロクジュウキュウ、『よ』ヒャクゴジュウ

カイガイではなしだが、かわでセンタクしているのをみたことがある。しかし、ときがたつにつれみかけなくなった。ウンコとかセンザイをながすようになったらむずかしいだろう。センタクキをつかうのがゆたかか。カンキョウオセンでセンタクキをつかうのでは、ゆたかとはいえないであろう。かわがきれいならかわでセンタクすればいいのである。カンキョウがいいからできる。それはまずしいとはいえないのである。

ヒャクななジュウ、『よ』ヒャクゴジュウゴ

コウエンにいった。なんとなくそとへでて、きぶんテンカンをしようとおもった。ショウテンにいてもよかったが、コウエンがあるのにきがついて（そのソングタイはまえからしっていた。）コウエンでやすむことにした。「コウエン」というのは、たしかヨーロッパのハツメイだったとおもう。いいハツメイは、そのゴをいきるひとをたのしませる。メイジイコウにニホンにもドウニューされたのだとおもう。わたしもちいさなころリヨウした。ユウグがあるとこどもはそっちに行く。きがうえられているのもトクチョウではないだろうか。

そういえばサイキンキをみているひとをみかけない。むかしはそういうおとながいたようなきがするが、きづいたらわたしがそうになっていた。どんぐりのなるきだとおもうが、なまえはわからない。わたしはそういうジョウホウにうといからである。それでもきをみるブン、きにくわしいかもしれない。ジブンのドウセダイとはなして、きのはなしになることがすくない。もっとうえのセダイだと、きについていろいろかたる。きをみたことがないわけではないだろうが、そういうはなしをしない。そんなわけだから、ニホンが「カガクタイコク」なんていうと、うそだろとなる。そういうシゼンカガクにうとそうだからである。たしかに、ものしりとかケンキュウシャはいる。しかし、そういうはなしをしないと、シゼンカガクのソウがないといえるだろう。

わたしもわかいころは、きというと「のぼれる」きと「のぼりにくい」きがあるくらいニンシキしかなかった。としがたつにつれすこしずつちがいがわかってきた。くだものならないきはいらぬか。ランボウなどであるが、やっぱりヒツヨウだろう。そういうきがサンソをキョウキュウしてくれるからである。ニンゲンだってそうだ。キョクロンすると、ニサンカタンソをはきだして、ウンコをだしてりゃいいのだろう。でも「シャカイ」ではあんまりそういうことをいわない。しごとをしなくちゃいけないとか、そういうことをいう。

むかしはたべていくためにはたらくといていた。でもそれならノウギョウをすればよい。それならたべられるからだ。むかしはそうやっていただろう。しかし、いまはしごと（ロウドウ）やなにかをコウカンしなければ、メシにありつけなかつたりする。チョクセツたべものをつくれればむだがないが（コウカンのサイのジカンのムダなど）、どうもそういう「ムダ」なことをするのがイッパンテキだ。もし、あなたがジカンをほしが

るならば、ノウギョウをするといひ。コウカンのでまひまがはぶけるからだ。でもいまのシャカイは、ムダなコウカンをしつつ、うまくやりましょうというのが、そのシソウなんだとおもう。

ヒャクななジュウイチ、『よ』ヒャクロクジュウ

ドウブツ、ショクブツとシュルイがあるが、「ニンゲン」はかわったことをしたりする。それは、だれかからかりたおかねがかえせなくてジサツしたり、ニンゲンカンケイをくに、デンシャにとびこんだりというコウドウである。わたしにいわせれば、これは「ニンゲンビョウ」である。ほかのドウブツではあまりきかない。そうやって「ジサツ」するとほかの、というかりガイカンケイシャがシカタないとおもうのだろう。そういうかんじで「ジサツ」がビカされたりする。これはオウベイではよしとされず、またチュウゴクでも、「シタイにむちをうつ。」というくらいだから、そうはならない。サイバンで「チョウエキニヒャクネン。」なんてハンケツをだすくにもある。じゃそれは「ニホンジンビョウ」じゃないかといわれるかもしれないが、そういうことじゃない。もっとひろいハンイのことをいう。たとえば、ベンジョをつかったら、みずでながさなければならぬというのもニンゲンビョウだろう。ケツコウかぞえればあるはずだ。たまにはそういうニンゲンビョウからはなれるのもいいかもしれない。タブン、あたらしいノウのモンダイなんだろう（●ヒャクゴジュウニ、『よ』ヒャクジュウサン）。

ヒャクななジュウニ、『よ』ヒャクロクジュウイチ

ゲンダイはシュウキョウがスイタイしたといわれる。それでもシンコウをもっているひとはおいしい、シュウキョウがさかんなチイキもある。ニホンではセングにスイタイしたといわれる。シュウキョウにはおしえがある。カイリツがあつたりもする。それをジッセンしていたのがシンコウシャだろう。

しかし、そういうのがはやらなくなったのはなぜだろう。ジュウになったのかもしれない。あなたがシンコウするのはカッテだけど、わたしはしない。というぐあいである。ケツコンもジュウになったわけだから、そういうジュウが、おしえにとってかわったのかもしれない。たしかに、「ジュウ」が、めざすべきリソウだとすれば、それはシュウキョウタイリツをおこさない。あなたのジュウはみとめるし、わたしのジュウもみとめられるとなる。なのにもかかわらず、ケンカしてしまつたらジュウでない。それぞれのジュウをみとめていないことになるからだ。しかし、ジュウをそれほどみとめられるのかというモンダイはある。やっぱりどこかでケンカしてしまつたりするだろうから。また、ジュウならケツコンするヒツヨウもない。テキトウに、あいてをとりかえてもよい、つきあえばいいのだ。「フウフベッセイ」とかいつているから、そっちのホウにすすんでいるんだろう。とはいえ、カゲキなジュウシュギシャにであつたことはないのだが。

ヒャクななジュウサン、『よ』ヒャクロクジュウロク

サイキンはジョセイで「マルマルこ」と「こ」がつくなまえがすくなくなっているとおもう。わたしのセダイぐらいでもめずらしかったかもしれない。なるほど、それならこどもも少なくなるわけだといえないか。「こ」がすくないわけでしょと。こどもがすくなくなったから、「こ」のつくなまえがへったのか。「こ」のつくなまえがへったから、こどもがへったのかはよくわからない。でも、そこそこソウカン（ヒレイ）しているでしょと。なかなかつけづらいかもしれないですね。でも、ヨンジュウネンまえにそういうことがわかったということですから。「ダイサンジベビーブーム」はおきないと。キタイしていたむきもあるみたいだけど。

ヒャクななジュウヨン、『よ』ヒャクロクジュウなな

「コスト」をへらす。というコウテイテキにとらえるひがおおいのではないか。たとえば、ネンピのよいくるまをかって、ガソリンイチリッターあたりジュッキロはしるところを、ニジュッキロはしるようになり、ネンリョウコストをニブンのイチ、ジュッキロあたりヒャクニジュウエンへらしましたと。カイシャでもコテイヒをへらして、ネンカンナンゼンマンエンヒョウをへらしたとかいう。でも、それにイをとええるひはあまりいない。タイテイ、それをきいたひとはよかったですねとか、うちもみならわなきやだろう。

しかし、そのコストは、ホントウにへるものなのか。さきのくるまでいうと、サクゲンされたイチリッターあたりヒャクニジュウエンのもと「コスト」はどこへいくのか。それはくるまホントイのねだんにいくというのがひとつのこたえだろう。つまり、ショウエネブヒンをつかっているために、まえにのっていたくるまよりハチジュウマンエンたかいとか。カップラーメンがテイカニヒャクエンのところ、ヒャクエンでうっていたら、かうほうのコストはヒャクエンへるがそのもとコストはどこへいくのか。メーカーがフタンしているかもしれないし、こうりテンがフタンしているかもしれない。

つまり、ひとつのカンテンからは「コスト」はへらせるのだが、そのもと「コスト」ジタイはなくなるものではないということだ。だから、だれかがコストカットしたというときには、ほかのだれかにコストがイテンしたということだ。キュウジュウネンダイのギンコウのフリオウサイケンモンダイでいえば、ギンコウの「あかじ」というコストは、イチジテキにせよ、すべてゼイキンでまかなわれた。つまりコストがノウゼイシャのホウにイテンしたのである。あとでかえされたいが、そうやってコストをすてしまえ、コストカットしたもとコストをそとにやっしまえといかんがえかただと、むかしのヨーロッパのデンセンビョウのはなしににているだろう。トシのジュウミンはフニョウをジブンのへやのそとへほうりだした。みながそうするから、とうとうデンセンビョウがハッセイしたというわけだ。だからコストのもっていきさきにはきをつけなければならない。

ヒャクななジュウゴ、『よ』ヒャクロクジュウキュウ

シヨクドウでたべて、すくなくカンジョウをすませると、「おキヤクさん、たりないですよ。」とおいかける。にげきってしまうホウホウもあるが、タブン、そのみせにはそのゴいけなくなる。ばあいによってはタイホされる。ジュウロクセイキのおだのぶながコウはベツにくいにげしたわけではない。ただなにかにモンダイがあったんだろう。テンカトウイツをまえにムホンにあい、ボツすることになった。ブツモンのイチブへのダンアツがまずかったのか、カシンへのキュウリヨウのしはらいがわるかったのかかわらないが（ここではなにかの「しはらい」とかんがえる。タシャへのケイアイなども、ここでは「しはらい」だ。）、なにかへのしはらいがわるかったのではないかとスイソクする。しはらいがわるいとさきのようにおいかけるし、タイホされることがある。あまりいのちをとられることはないとおもうが、そういうこともある。ムチャなセイキュウをされてというモンダイもあるが、やっぱりしはらいがたりなかったのだろう。おおきなしごとをするなら、フツウのしごとでもそうだが、しはらいがきちんとしていなければ、シッパイすることがある。だから、のぶながコウのキョウクンとして、しはらいをきちんとするようにきをつけたホウがいい。

ヒヤクななジュウロク、『よ』ヒヤクななジュウヨン

わたしのわかいころは、からだをきたえていたので、なんでもできるとおもっていた。もちろん、うまい、へたはあつただろうが。しかし、ウンドウをせずとしがたつたからか、「なんでもできる。」とおもわなくなった。だから、あまりつかわないものを買ってもしょうがないとおもうようになった。また、ジカンはわたしにとってユウゲンだから、ダイジなことをダイジにしようとおもうようになった。ジュウなんだけど、ジュウじゃないというわけである。

いまおもえば「ジブンさがし（●ヒヤクサン）」ブームは、ただわかものがケンコウだっただけじゃないかというきがする。なんでもできるから、「ジブンさがし」だったのだろう。しかし、そうジュウでも、「かね」がなげりやできないこともある。だから、かれらがめぐまれたセダイだったということもできるだろう。そういうわかものは、すくなくなくなってきているのではないだろうか。

ヒヤクななジュウなな、『よ』ヒヤクななジュウなな

まじめになにかをするということはいいことだ。しかし、いきなりヘンカがおそうしたら、それはスリリングなドラマになる。シヨウチュウガッコウをおえたら、コウコウ、ダイガクとすすんだり、すすませたり、すすんでくれればとおもったりする。それがわりと「フツウ」かもしれない。しかしである、「ヘンカ」がおそっているようにもおもえる。それはなにか。「エーアイ」である（●ヒヤクロクジュウハチ）。

スウシキをおぼえてケイサンすることもできて、ブンシヨをかくこともできる。レキシ

のネンゴウをセイカクにこたえられ、ブンシのカガクシキもあらわせる。これは、「エーアイ」というコウコウセイのノウリョクである。それイジョウのこともできるだろう。そのコウコウセイとキョウソウしてかてるコウコウセイがどれだけいるか。タブン、そのエーアイがもっともいいセイセキでソツギョウして、もっともいいダイガクにすすみ、いいキギョウにシュウシヨクするのだろう。いまのところエーアイにドウタイはないから（あるのもあるかもしれない。）、タイクだ、シヨドウだ、ガッキエンソウは、ニンゲンのかちだろう。そういうエーアイがみぢかになりつつある。

ニンゲンのコウコウセイが、キョウソウにかてなかったらどうなるか。「くだる」のかもしれない。エーアイのめしつかいをやるということだ。それなら、コウコウにいかず、エーアイのセイビでもベンキョウするといいかもしれない。キョウソウにまけてもまなびたいだったら、コウコウにいくのもいいかもしれない。それでも、キギョウにはいったら、エーアイにつかわれるようになるだろう。エーアイのいうとおりにはたらかなければいけない。つまり、ニクタイロウドウするのが、ニンゲンのおもなしごとになる。それでもコウコウにいくのか。ロボットのギジュツもハツタツしているから、やがて、ニクタイロウドウもエーアイがやるようになるかもしれない。そうすると、シツギョウかもしれない。きびしいドラマだが、あまりこどもをもつおやはかんがえていないようだ。エーアイセイビガッコウにいったホウがよいのはめにみえているようだが。キギョウっていうのは、やすくて、いいロウドウリョクをつかおうとするから（みのまわりにチュウゴクセイがふえましたよね。）、まあまちがいなさそうなのです。

ヒャクななジュウハチ、『よ』ヒャクななジュウキユウ

リエキのあるところにひとはちかよっていこう。シュウシヨクさきをきめるときなどそうだろう。あかじがおおいカイシャには、うりあげのすくないカイシャには、あまりちかよっていかないだろう。しごとをしてジブンもリエキをえられにくいからだ。それがあたりまえと「リエキ」をツイキユウする。それだけでたさいのか。

ヨーロッパのレキシをみると、ローマジダイからシュウキョウによるシハイがつよまった。おうはシュウキョウとむすびついてたとおもわれる。つまりおうはシンコウしてキョウカイとつきあっていた。しかし、ジュウジグンやシュウキョウカイカクをへて、キョウカイのちからはよわまった。それからはヨーロッパナイのセンソウがおこるようになる。また、コクガイにシヨクミンチをもとめるうごきもカソクした。シヨクミンチは、シハイコクにとみをもたらすからだ。そうして「リエキ」によるシハイにイコウしていった。センソウといっても、ヘイにカネをはらってするものだから、おうのちからはシダイによわまっていった。ニホンもシヨクミンチをもつくとたたかたし、シヨクミンチをもとうとした。そのたたかひのケツカ、シヨクミンチはジリツするようにもどった。そうして、リエキによるシハイをささえたひとつのホウホウがとりづらくなった。しかし、おおきなたたかひのハンセイというのものもある。もっとも、カクヘイキのハイビがセンソウや「リエキ」によるシハイをおわらせたともいえる。それをつかって、センソウやリエキのツイキユウをすると、すべてのチキユウジョウのブンメイがおわってしま

うからだ。そうしたことから、いやいやかもしれないが、コッカにおける「リエキ」のシハイはおわった。かわりになにによってシハイされているのか。「リョウシン」によってシハイされつつあるようにもおもう。だから、キギョウが「リエキ」だけでうごくとしたら、ふるいレジームでケイエイしているということだ。「リエキ」がでるということは、どこかに「フリエキ」がでるということだ。トクにショウケンそうばなどはそうだろう。そういうキジュンでやっていれば、かちまげができるから、トクベツいいとはいえないようなのである。

ヒャクななジュウキュウ、『よ』ヒャクハチジュウサン

ハチジュウネンダイにハツバイされたテレビゲームのカートリッジは、よみだしヨウのキロクブヒンがイチメガバイトがせいぜいだった（●ヒャクナナジュウサン）。タンジュンなものだと、ゴジュツキロバイトとかである。それにくらべていまのゲームは、ギガバイトクラスのよみだしヨウキロクブヒンをつかっているとおもわれる（たしかめていない）。イチメガバイトのゲームとイチギガバイトのゲームでは、ゲームのジョウホウリョウがセンバイちがう。そのセンバイで、タブンガシツをあげたのだろう。センバイおもしろくなったとか、ヒャクバイジカンがかかるとはきかないからである。オンガクにもヨウリョウをつかっているだろう。つくるホウからすれば、センバイつくるのにジカンがかかるとはきかない。モチロン、コンピュータによるコウリツカはしているだろう。しかし、ねだんがセンバイになったともきかない。せいぜいハチジュウネンダイのゲームキノカートリッジとおなじか、ニバイくらいだろう。それならもうけはセンブンのイチとか、ゴヒャクブンのイチになるはずだ。

しかし、もうからないから、ゲームをつくらなくなったとはきかない。そこそこもうかるのだろう。じゃあハチジュウネンダイのゲームキのときなんて、センバイとかゴヒャクバイもうかったんじゃないですか。ではあるが、キロクブヒンがトウジはサイセンタンのものをつかっていたので、それにケツコウかねがかかったはずだ。

いってみれば、ハチジュウネンダイのゲームキをやっていたこどもは、ゲームやのもうけとハンドウタイやのもうけ、そしてそれらのカイハツソクシンに「トウシ」していたことになる。だから、いまごろ、ハンドウタイプヒンがやすすかえるわけだ。それでわたしなんかはたすかっている。もっとも、ニホンのハンドウタイやはすくなくなっているが。それはともかく、センバイのロウリョクをかけて、もうけがかわらないのではちょっとかんがえてしまう。センバイはたらいても、もうけはかわらないというのは、きびしいが、キョウクンかもしれない。そういうジョウキョウがあるから、「カロウシ」がモンダイになるのだろう。しかし、かせぎすぎてそうなったのなら、ジゴウジトクであろう。「テレビ」というセイヒンやそのカンレンサービスもにたようなメンがある。

テレビはブラウンカンをつかっていたものと、レイネンダイにではじめたものとをくらべると、ヤクななバイのこまかさになった。それだけジョウホウリョウがふえたということだ。いまでは、さらにヨンバイ、ハチバイにしようとしている。そうすると、「え」とどけるホウとしては、ななバイのこまかさがヨウキュウされる。ちいさいごみやほ

こりがうつりこんでしまったら、それはななパイのおおきさでヒョウジされるのである。だから、サツエイチのソウジがかかせないようになるとおもわれる。それでリエキはやっぱりかわらないのだろう。またカrouシみたいなモンダイがおこるのではないか。そのテン、しろうとドウガはキラクである。でもそっちのホウが、ヘンにつくりこまないブン、ジツブツにちかいとなるだろう。

ヒャクハチジュウ、『よ』ヒャクキュウジュウイチ

ジブンのみちをいくことはむずかしい。わたしがわかいときは、そんなことはかんがえなかった。そんなことないだろう。カンタンだ。というひともいるかもしれない。すきなようにうごけばよいと。そんなことをいうひとは、なやみもビョウキもシツギョウもないのだろう。「なやみ」のないように、「ビョウキ」のないように、「シツギョウ」のないように、うごけばいいのだからと。しかし、よのなかの「なやみ」がなくなったとはきかないし、「ビョウキ」や「シツギョウ」もなくなったとはきかない。そんなにニンゲンやシャカイはカンタンではないのだ。

きまったジカンにイッセイにツウキンしていれば、「おなじような」ひとにであう。なにがあったら、「おなじような」ひと、ドウシにソウダンもできるだろう。そういうチョウシで、「みんな」のやっていることをすれば、そのコストはやすくなる。モンダイのカイケツにかかるコストが、「よくある」ゆえにひくくなる。それなら、みんなカイシャインをやればいだろうとなるが、そうもいかないのだろう。でも、「カクゴ」がないのだったら、「ジブン」のみちをあるくことは、やめたホウがいいかもしれない。たかくつくからだ。

ヒャクハチジュウイチ、『よ』ヒャクキュウジュウキウ

おいしいハンバーガーをジブンでつくって、たべて、「サンビャクエンもうけた。」というひとはあまりいないであろう。このレイでは、つくったひとは、ハンバーガーやのテンインではない。このハンバーガーのシジョウカカクは、シジョウをみればダイタイスイソクできる。しかし、コストがかかるので、ショウテンドウヨウに、(ジブンに)サンビャクエンをうりあげたともいえる。ヒョウをひかないと、リエキはケイサンできない。にくがヒャクエンで、パンがゴジュウエンだったら、そのたのヒョウをひいて、たとえばリエキがヒャクエンだったりする。リエキがでるなら、ジブンでつくったホウがいい。だが、よりおおくのリエキをえるためにあきらめるやりかたもある(カイシャインをしているばあいなどだ。カイシャからえるおかねがおおきければ、わざわざこまかいリエキをジブンでだすヒツヨウはないということだ。)ジブンでかせぐなら、たとえばホンづくり。シュッパンすると、かりにゴジュウマンエンかかったとする。しかし、それはギョウシャにたのんでのカカクだ。ジブンでつくったばあいにサンジュウマンエンですませられるのなら、ニジュウマンエンのリエキとなるから、ほかにわりのよいしごとをもつ

ていないのなら、ジブンでつくるべきだろう。

ジブンのみのまわりのかいものには、あまりソントクをかんがえないものだが（そのしなもののたかい、やすいはベツである。）、こうやって、ジブンからのジュヨウもケイサンして、かせぐことができる。あるサービスのカカクは、そのしごとをガイチュウしたら、いくらかというキングクでカクニンできる。ネンカンとおしてそのゴウケイをケイサンしたガクが、あなたのセイサンガクである。そのセイサンガクのホウが、あなたのキュウリヨウよりもひくいのなら、あなたはキュウリヨウブンはたらいしていないことになる。セイサンセイをあげるというのは、ジュウヨウなカダイであるが、いまいちケイサンがしづらい。でも、シジヨウカカクをみれば、それはケイサンできるのである。このケイサンホウをジュヨウキジュンホウとよぶことにする。

ヒャクハチジュウニ、『よ』ニヒャクニ

どうも、ケイザイモンダイというと、カクサやそのシャカイコウゾウがモンダイにされているかもしれない。カクサがないホウがビョウドウのようだから、そのホウがよいというのは、あるテイドわかるはなしだ。しかし、ひとびとをビョウドウにしてシッパイしたのがソレンではなかったか。それは、はたらいでも、はたらいでも、ビョウドウだから、はたらくきのあるひとが、やるきをなくしてしまったというケッカおこったといわれる。それなら、ビョウドウではいけないはずだ。ソレンがシュウリヨウしてまだサンジュウネンたないのに、それをわすれてしまったかといいたい。

もっとも、わかいこなんかは、ソレンのことをしらないから、ビョウドウのホウがいいといってしまうかもしれない。しかし、やはりケッカはおなじようなものだろう。むかしはこういうことをカクメイといった。それをわすれたであるまい。カクサというのは、ドリョクのリヨウとシツのちがいが、セイカのちがいがいといえば、みとめられるのではないか。タブン、かねもちはまっとうにかせぎつづけたために、ケッカとしてかねもちになったわけで、そういうケイイをムシして、ビョウドウにブンバイしようとおもうと、フコウヘイがショウズる。それより、まじめにはたらいで、かねもちになれるというモデルがあったホウが、ケンゼンだとおもうのである。ただ、ケイザイキョウソウがあって、セイコウするひとと、おちぶれるひとがでる。そこのところをきびしいキョウソウにするのではなく、おたがいがケイイをはらうカンケイにすれば、カクサのはげしさがへっていくのではないだろうか。ただ、これは、「イシヨクたつて（たりて）エイジヨク（ハンエイとはじ）をしる。」というモンダイもはらんでいるから、チュウサンカイキュウイジヨウのかんがえかたであろう。しかし、セイフのやくめのひとつは、とみのサイブンパイであるとかんがえ、ジッコウできれば、うまくいくのではないか。

ヒャクハチジュウサン、『よ』ニヒャクヨン

セツチョ、『アルクカラカンガエル』で、「ジミントウタイシツ」のはなしをした（●ゴ

ジュウニ、『ア』ヒャクロクジュウロク)。それは、ガッシュウコクセイのこむぎやニクをたべつつ、コクサンノウサンブツをたべるひとのことだ。そういうひとがおおくなったとおもわれるから、コベツのことだけでなく、シャカイのこともいえるだろう。このイッポウで、キンネンチュウゴクからのユニユウもふえている。それなら、キョウサントウタイシツというのものもあるかもしれない。つまり、チュウゴクサンのヤサイやにくをたべつつ、コクサンのたべものをたべるというありかたである。もっとすごいひとは、ジ(ミントウ)キョウ(サントウ)ゴウベンタイシツかもしれない。ガッシュウコクサンのショクリョウと、チュウゴクサンのショクリョウ、そしてコクサンのショクリョウをたべるありかたである。このいずれかといずれかがもめれば、タイヘンだとはおもうが(キンユもある)、まあ、いまのところではある。あらそいはじめたら、マテリアルのブンダンにより、コジンブンダンがありうる。ジミントウタイシツのひともいるし、キョウサントウタイシツのひともいる。だから、シャカイブンダンもありうる。むかしはイデオロギーロンソウがあったようだが、いまは、「もの」のモンダイだ。「はなし」であればごまかせるが、「もの」はごまかせない。これらのテンについて、ニホンジンがチョウワするホウホウをみつけないければならないのだ。

あとがき

まえがきでものべたが、このホンは、サンサツのホンをイッサツのまとめたものである。ということはサンブンのイチのヨウリョウである。トクにいいたいことをまとめた。そのほかのサンブンのニは、どうでもいいことかもしれない。そんなことをみっかにふつかはのべている。ジツにふまじめなヨウだ。それでもよんでくださるかたがいるんだからありがたい。

しかし、かくにしたがって、どうでもよいことは、はぶかれるヨウになったとおもう。つぎは、ムダなブンはすくないであろう。とはいっても、エルガク(ブツリガクっぽい)とケイザイガクのギロンはベツのホンにしているので、タショウチョウフクはあっても、なにかをはぶかなければならないかもしれない。つぎのホンが、ガクモンブンヤでいえば、なににあたるかかんがえるのがたのしみである。しかし、やはり『シソウしそう』とダイをつけたイジョウ、シソウといわなければならないかもしれない。

これからはあったかくなっていくジキである。うめもさいた。いきるにあたっては、ムダもダイジなのかもしれない。ニジュウヨジカンははたらけないからである。

ニセンニジュウネンサンガツみっか

シソウしそう イッカン

エイゾウ

ニセンニジュウネンサンガツとおか

ニセンニジュウネンゴガツニジュウロクニチ

iii toga db010

エイチティティピーコロンスラッシュスラッシュアイアイアイティオージーエーピリオ
ドシーオーエム

ティエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイティオージーエーピリオド
シーオーエム

<http://eizo09.com>

『シソウしそう』

著 エイゾウ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
